
Gakken Moo
ハピネスチャージプリキュア!
HAPPINESSCHARGE PRECURE!
オフィシャルコンプリートブック
ハピネス注入!
コスチュームを網羅
キャラクターコレクション
歴代プリキュア
10周年記念コメント
完全掲載
ほか
秘蔵イラスト
満載で
幸せふるふるチャージ!!



原画／佐藤雅将

Gakken








初出：月刊アニメディア2014年12月号
原画／星野守　キャラクター監修／佐藤雅将

Illust Gallery

番組宣伝ポスターのイラストをはじめ、カレンダーやタペストリー用に描きおろされた美麗イラストが満載!



●初出：番組宣伝ポスター　原画／佐藤雅将



●初出：「ハピネスチャージプリキュア！」カレンダー 2015年（発売元：東映アニメーション）



●初出：「ハピネスチャージプリキュア！」カレンダー 2015年（発売元：東映アニメーション）



●初出：「ハピネスチャージプリキュア！」カレンダー 2015年（発売元：東映アニメーション）



●初出：「ハピネスチャージプリキュア！」カレンダー 2015年（発売元：東映アニメーション）



●初出：
提供バックイラスト1



●初出：
提供バックイラスト2



●初出：
「ハピネスチャージ
プリキュア！」スチール2



●初出：「ハピネスチャージプリキュア！」カレンダー 2015年（発売元：東映アニメーション）



●初出：「ハピネスチャージプリキュア！」カレンダー 2015年（発売元：東映アニメーション）



●初出：「ハピネスチャージプリキュア！」カレンダー 2015年（発売元：東映アニメーション）



●初出：アニメージュ12月号増刊ハピネスチャージプリキュア！特別増刊号（徳間書店刊）　原画／大田和寛



●初出：「ハピネスチャージプリキュア！」等身大タペストリー（発売元：エンスカイ）

ハピネスチャージプリキュア！ オフィシャルコンプリートブック

HAPPINESSCHARGE PRECURE!

CONTENTS



●初出：「ハピネスチャージプリキュア！」スチール1

キュアラブリー／愛乃めぐみ

1 Character Collection キャラクターコレクション

ハピネスパワーをふりまくプリキュアたちの魅力を大紹介っ♪

キュアラブリー

(声／中島愛)

中学２年生の女の子・愛乃めぐみが変身したプリキュア。キュアラブリーの名前は、めぐみが大好きな言葉「愛とラブとラブリー」にちなみ、つけられた。愛に満ちたプリキュアで、コスチュームのデザインや変身、決め技などにはハートの形で表現される愛のパワーがみなぎっている。光と炎系の技を使う。イメージカラーはピンク。

変身中のラップタオル



プリチェンミラーとプリカードを使って変身。ラップタオルに包まれるなか変身が進行。タオルを払うとプリキュア戦士が現れる。





世界に広がるビッグな愛！キュアラブリー♥♥

ラブプリブレスで広がる技！

ラブプリブレスを使うと、自分でイメージした技を自由に発動できる。ラブリーはパンチやビームなど、ヒーロー系の技が多い。





ラブリーホームラン



12話の変身コスチュームで打ったホームランも、ラブプリブレスの技。

キュアラブリー表情集



基本モード

トップスの袖やブーツに４人それぞれの特色があるが、ラブリーの基本はパフスリーブとニーハイブーツ。



決め技



「愛よ、天に帰れ!!」

基本モードのラブリーの決め技。ハート型のエネルギー弾を敵に放ち、浄化する。

イノセントフォーム

プリキュアのパワーアップバージョン。コスチュームの形状は４人とも同じ。

チェリーフラメンコ

フラメンコダンサー風のサブフォーム。炎を爆発させるという情熱的な技を使う。



かわルンルン！フォームチェンジ

戦いの状況に合わせて、プリキュアの基本モードが変わっていくのがフォームチェンジだ。ダンス系のコスチュームに変身するサブフォームや、パワーアップフォームがある。

ロリポップヒップホップ

ストリートダンサー風のサブフォーム。巨大な音符を無数に落として攻撃する。



フォーエバーラブリー

キュアラブリーの最終形態。究極の愛のビーム「プリキュア・フォーエバーハピネスシャワー」によって、レッドを消滅させた。



変身前のめぐみは次ページに登場！

愛乃（あいの）めぐみ

（声／中島愛）

ぴかりが丘学園に通う中学２年生。明るく元気で、とことん前向き。困っている人を見ると放っておけない。だが勉強は苦手で、学年最下位の成績で自分が困ったこともある。歌が大好きで、想いを歌詞にした“心の歌”を口ずさむ。おしゃれのセンスはイマイチだったが、ひめのアドバイスでおしゃれを楽しむようになった。





つい動きやすさを優先し、ひめに「？」をつけられた、1話の私服。

めぐみのお着替え

普段着のコスチュームチェンジには何種類かあり、ここで紹介するのは変身用のカードを使わず、自前でお着替えしたあれこれ♪



かわルンルン！ おしゃれ

お出かけの目的によって衣装をグレードアップしたいときに使うのが「おしゃれ」カード。パーティーやイベントに参加するときに便利だ。

かわルンルン！ 変装

変身用プリカードを使うと、２種類の変化が楽しめる。「変装」すると、お仕事機能が加わったプロの服装にチェンジできる。



愛乃家

お父さんは留守がちで、お母さんとふたり暮らし。似た境遇の幼なじみ・誠司と彼の妹・真央とともにごはんを食べることも多い。



愛乃勝（あいの まさる）
（声／小川輝晃）
めぐみのお父さん。海外の援助活動が仕事らしい。

愛乃かおり（あいの）
（声／堂ノ脇恭子）
めぐみのお母さん。病弱だが、笑顔を忘れない。

小さい頃のめぐみ
幼少時からよくお手伝いをしていた。31話の回想。



キュアプリンセス／白雪ひめ

2
Character Collection
キャラクターコレクション



キュアプリンセス

（声／潘めぐみ）

白雪ひめが変身するプリキュア。キュアラブリーが覚醒する以前からサイアークと戦っていたが、自信が持てないキュアプリンセスは連戦連敗だった。キュアラブリーら大切な仲間たちができたことにより、本来持つ「勇気」のパワーを取り戻していった。コスチュームには羽のモチーフが使われ、風系の技を得意とする。イメージカラーはブルー。



かわルンルン！
キュアプリンセス

変身の発動やラップタオルはラブリーと同じ。プリンセスのポイントは、変身シーンの終盤で、両手で作った銃口にふっと息を吹きかけるしぐさだ。

天空に舞う蒼き風！
キュアプリンセス!!

ラブプリブレスで広がる技！

変身中にガンマンのしぐさがあるように、プリンセスの技は射撃系が基本。「ガチンコヘッド」は自らを弾丸にした究極技か？





キュアプリンセス表情集



基本モード

キュアプリンセスの基本形。白雪ひめの特徴的な髪形（P.20参照）が、ツインテールに変化している。



決め技



ブルーハッピーシュートは、エネルギーの球を作り、敵に向かって叩きこんで浄化する決め技だ。

かわルンルン！フォームチェンジ

２種類のサブフォームがあり、優雅な印象のバレエとフラダンスのドレスに変化。



シャーベットバレエ

バレリーナ風のサブフォーム。技は敵を凍らせてしまう「アラベスクシャワー」。



マカダミアフラダンス

フラダンサー風のサブフォーム。癒しのフラで敵もつられて踊り出し、浄化する。





イノセントフォーム

コスチュームの基本は３人と同じだが、髪形がよりボリューミーになっている。

変身前のひめは次ページに登場！

ちょっぴり ワガママな王女様 おしゃれならまかせて♥♥

白雪(しらゆき)ひめ
<ヒメルダ・ウインドウ・キュアクイーン・オブ・ザ・ブルースカイ>

（声／潘めぐみ）

　ブルースカイ王国の王女で、めぐみたちのクラスに転入。正式名称がリボンの言うように「ヒメルダ・なんちゃら」と長いので、大好きな『白雪姫』の名前を名乗っている。サイアークが世界に広がるきっかけを作った責任を感じ、悩んでいた。極端な人見知りだったが徐々に克服し、めぐみたちと楽しい学園生活を送るようになった。おしゃれが大好き。



　めぐみは「山ガール」にプリカードを使ったが、ひめは自前を着用。キャスケット帽やツートンカラーの靴がおしゃれ。



かわルンルン！ おしゃれ

おしゃれ番長のひめがカードを使うのはゴージャスな衣装を着るとき。浴衣は日本で初めて着たようだ。なお、浴衣の絵柄はＣＧで描かれている（P.17のめぐみの浴衣も同様）。





かわルンルン！ 変装

「変装」すると、その職種の機能も備わる。逃げ足の遅いひめは忍者に変装すると、より速く逃げられて、人魚になれば海中で自在に泳ぐことができた。





ブルースカイ王国

地球のどこかにある小国。災いを封じた「アクシア」の箱を守るのが、この国の使命だった。



女王

ヒメルダの母。幻影帝国の侵略で鏡に封印された。

国王

ヒメルダの父。妻より年下らしい。女王とともに封印された。

プリンセス・ヒメルダ（回想）

ヒメルダ王女は正統な王位継承者だ。







キュアハニー／大森ゆうこ



キュアハニー

（声／北川里奈）

中学２年生の大森ゆうこが変身するプリキュア。名前のハニーは、ゆうこが大好きなハチミツにちなんで名付けられた。「やさしさ」に満ちたプリキュアで、攻撃技もあるが、強固なバリアを張るなど、無用な争いを避ける傾向がある。さらに、歌で敵の心を癒すという彼女独自の戦い方を見せた。ハニーの歌は敵も味方も魅了する。イメージカラーはイエロー。



大地に実る命の光！
キュアハニー!!

かわルンルン！ キュアハニー

ラブプリブレスをつけていないハニーはバトンがキーアイテム。変身シーンの最後に見せる、胸を張って視線を送るキメポーズが、強烈な印象を残した。

ハニーバトンで癒しの技！

名曲「しあわせごはん愛のうた」はもちろんのこと、この曲を「ら～♪」と歌うだけの簡易的な攻撃でも、敵を浄化することができる！



「しあわせごはん愛のうた」



ハニーバトンクリスタルソング！



ハニースーパーソニックスパーク！

キュアハニー表情集

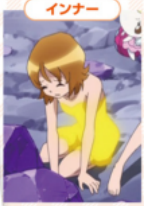


基本モード

キュアハニーの基本形。ボブカットのゆうこが、金髪のロングヘアに。豊かな髪をリボンで結わえて、ポニーテールになっている。



インナー



決め技



「命の光を聖なる力へ！ハニーバトン！」

プリキュア・スパークリングバトンアタック！

「命よ、天に帰れ!!」

巨大な四葉形のエネルギーを召喚し、それを敵にぶつける。笑顔でバトンを振る恐ろしい技……。

かわルンルン！フォームチェンジ

サブフォームもハニーは振り幅が大きい。落ちついたイメージの基本形から、チアとラテンなサンバへ！ハニー、あなどりがたし!!

ポップコーンチア

チアガール風のサブフォーム。元気いっぱいのイメージとなった。リボンで敵を払う。



ココナッツサンバ

露出は少ないが、サンバダンサー風にチェンジ。武器もマラカスモードになる！



イノセントフォーム

「おいしくごはんを食べられる平和な世界に」という想いからパワーアップ！



変身前のゆうこは次ページに登場！

大森（おおもり）ゆうこ

（声／北川里奈）

ぴかりが丘学園に通う中学２年生。めぐみのクラスメイトで、めぐみからは「ゆうゆ」と呼ばれている。実家はお弁当店「大森ごはん」。ゆうこ自身、料理に関することが大好きで「お腹いっぱい、幸せいっぱい」がモットーだ。おおらかで、ちょっと天然ボケ。元気のない人には「あめ、食べる？」と特製ハニーキャンディーをあげる癒し系でもある。

おいしいごはんで世界を平和に♥♥







ゆうこのお着替え

ハデな衣装を着ないゆうこだが、「パジャマ」や「ジョギング」で見せる、ちょっと大人っぽい雰囲気にドキッ。




かわルンルン!
おしゃれ
おしゃれカードを使うときは、めぐみといっしょにいることが多かった。基本のデザインは同じで、小物や色づかいでアレンジしている。
かわルンルン!
変装
興味深い変装がヒヨコだ。忍者に変装して逃げるひめを追うため、めぐみは犬に変装。そして、なぜかゆうこはヒヨコに変装したのだった。
パーティードレス
サッカー
コック
ハロウィンの"魔法使い"
マリンコスチューム
ヒヨコ
忍者
4人おそろいのリゾートコスチューム
ゆうこが作ったおかゆ
ナース
探偵
ローラースケーター
「大森ごはん」&大森家
ぴかりが丘商店街で人気の弁当店を、家族総出で切り盛りする大森家。
チキンボックス
自慢のチキンはクリスマスに大人気で売り切れ!
グリルチキン
お弁当
配達はゆうこの仕事。35話で届けたお弁当。
ゆうこの祖父母。お店で使う米を作る。
ゆうこの姉。店頭に立ち、お客の相手をする。
ゆうこの母。お弁当詰めなどを手伝う。
ゆうこの父。お店の調理担当シェフ。
大森イネ(おおもり)
(声/堀越真己)
大森米蔵(おおもりこめぞう)
(声/牛山茂)
大森あい(おおもり)
(声/矢野亜沙美)
大森ようこ(おおもり)
(声/安達まり)
大森たけお(おおもり)
(声/滝知史)

キュアフォーチュン／氷川いおな

4 Character Collection キャラクターコレクション



キュアフォーチュン

（声／戸松遥）

中学２年生の氷川いおなが変身するプリキュア。ラブリーが覚醒する以前から、ぴかりが丘を守るために、ひとりで戦っていた孤高の戦士。プリンセスとの確執を乗り越え、フォーチュンが４人目の仲間になったとき「ハピネスチャージプリキュア」というチームが誕生した。「運命」に立ち向かう強さを持つ。イメージカラーはパープル。

プリキュア！きらりんスターシンフォニー!!



かわルンルン！キュアフォーチュン

変身アイテムのプリチェンミラーは、姉のものだったことがのちに発覚。22話からフォーチュンピアノがキーアイテムになった。星の形が変身を彩る。

夜空にきらめく希望の星！キュアフォーチュン!!





星に託した希望の技！

「運命」という名のフォーチュンは技にも星のパワーが託されている。22話で変身が解けて復活するなかで、新しい技も生まれていった。



基本モード

クールな色彩で、大人びた印象の基本形。3人とは違いスカートはフィッシュテールで、ポーチはない。





決め技



フォーチュンの基本的な決め技。星の形のエネルギー弾を敵に放ち、浄化する。

決め技



フォーチュンタンバリンでエネルギーを放つ。キメの十字の輝きがかっこいい。

かわルンルン！ フォームチェンジ

ひとりだけ和風のサブフォームがある。その着丈の短さといい、アラビアンな衣装といい、どこかセクシー系なフォームばかり!?

パインアラビアン



ベリーダンス風のサブフォーム。タンバリンの心地よいリズムによって敵を眠らせる。

あんみつこまち



日本舞踊風のサブフォーム。星のきらめきを桜吹雪に変えて敵に放つ攻撃をした。

イノセントフォーム



シャープな印象を与えるパワーアップバージョン。敵をエメラルドに封印する。

変身前のいおなは次ページに登場！

氷川いおな

(声／戸松遥)

ぴかりが丘学園に通う中学２年生。めぐみたちの隣のクラスに在籍している。頭脳明晰、スポーツ万能。実家が空手道場を営んでおり、自分にも人にも厳しさを求めるタイプだ。めぐみたちと打ち解けるようになってからは、スーパーマーケットの割引制度を駆使する節約家という一面も発覚した。ひめから、「けちんぼ」と言われ、憤慨している。

才色兼備でしっかり者 ケチじゃないの！ 節約家♥♥



普段着



制服



私服表情集



いおなのお着替え

イメージカラーのためか、いおなのお着替えはシックな印象を受ける。大きなフードが特徴である占い師の衣装も、彼女ならではのハマりっぷり!!





あまり変装カードを使わないいおなだが、バッチリ変装したのが27話。夏休みの宿題が終わっていないめぐみたちをビシビシ指導した！



すっきりしたデザインのものが多い。ハロウィンコスチュームはローブをまとった魔女のイメージだ。

キュアテンダー／氷川まりあ

（声／小林沙苗）

氷川家にはもうひとりプリキュアがいた。いおなの姉・まりあはキュアテンダーとして活躍。ファントムに敗れ、のちに悪に洗脳された姿で復活した。めぐみたちの合体技で浄化されたあと、ほかのプリキュアを支援するためアメリカへ！







氷川家

氷川流空手道場を営む氷川家。両親はアメリカで空手の指導をしている。



いおなの祖父

道場の師範。練習には厳しい。誠司も門下生だ。







ブルー

5 Character Collection キャラクターコレクション

ブルー
（声／山本匠馬）

めぐみたちが「神様」と呼ぶ、地球の精霊。世界中を回り、プリキュアにふさわしい少女を見つけると、変身の鍵となる「愛の結晶」を与えて覚醒を促す。めぐみたちをやさしく見守るが、プリキュアの恋愛は厳しく制限する。実は、ブルー自身に、キュアミラージュとの苦い過去があった。

表情集



とらわれたブルー

プリキュアたちと幻影帝国に乗り込むが、戦う力はなく、またたく間に捕まった（43話）。

アイテムコレクション

プリキュアの変身やパワーアップに欠かせないアイテムの数々。キュアハニーやフォーチュンの独自のアイテムもユニークだ♪



プリチェンミラー
「愛の結晶」が変化したキーアイテム。プリカードを重ねると変身できる。

キュアライン
プリキュア同士や仲間が使う携帯電話型通信機。

プリカードファイル
プリカードがいっぱいになると願いが叶う。

ラブプリブレス
ダイヤルを回して技を選ぶことができるブレスレット。

ハニーバトン
バトンモード
リボンモード
マラカスモード
バトンはハニーのアイテム。技の使い分けによって3種類に変化する。

フォーチュンタンバリンとリング
フォーチュンが左手のリングからタンバリンを呼び出し、技を使う。

フォーチュンピアノ
プリチェンミラーに代わるフォーチュンの変身アイテム。

シャイニングメイクドレッサー
マイク
コスメチップ
アクシアの真の力を秘めたアイテム。コスメでメイクアップすると合体技も可能に。

〝プリキュア・ハピネスビッグバーン〟でのメイクアップ

妖精

6 Character Collection キャラクターコレクション



リボン
（声／松井菜桜子）

ひめのお世話役で、キュアラブリーやキュアプリンセスの活躍もフォローするパートナー。しっかり者の女の子。背中の球体は「はね」だ。サイアークを浄化して生まれるハピネスなエネルギーから、プリカードを作る。

忍者に変装

ひめたちと忍者に変装、ブルースカイ王国に潜入。

ぐらさん
（声／小堀幸）

キュアフォーチュンのパートナーである妖精。リボンと同様、プリカードを体内で生成する。自分のことを「俺」と言い、「〜だぜ」とかっこつけてしゃべるが、スカートをはいている女の子。名前の由来はサングラスから。



Character Collection キャラクターコレクション 7

相良誠司

誠司もお着替え

めぐみたちとよく行動を共にする誠司は、さまざまな場所に出かけていく。お着替えも豊富だ。





相良誠司

(声／金本涼輔)

めぐみのマンションの隣に住む幼なじみ。妹の面倒を見るやさしい兄であり、プリキュアの秘密を知りながらめぐみを応援する。成績は優秀で、空手も頑張る文武両道。キュアラブリーにとって重要な存在だと見抜いたレッドに洗脳され、ダーク誠司（下）になった。





ダーク誠司

レッドから「憎しみの結晶」で洗脳された姿。46、47話でキュアラブリーと本気で殴り合った！



相楽家

母は長距離トラックの運転手。家を空けることが多いが、しっかり者の息子を頼りにしており、あまり心配はしてないようだ。



めぐみのことを姉のように慕う。友達がいっぱい。

めぐみの母・かおりとは親友で、子どもたちを託す。

ぴかりが丘学園

8 Character Collection キャラクターコレクション

めぐみのクラスメイト4人組とぴかりが丘学園の生徒たち！



和泉先生

（声／菅谷弥生）

めぐみたちのクラスの担任。逃げるひめを捕まえて、めぐみの補習も容赦はしない。厳しいが生徒想い。

石神りん

（声／小堀幸）

４人組のひとり。２度サイアークにされ「また？」と嘆いた。誠司に告白し、撃沈。

高野れい

（声／長谷美希）

４人組のひとり。厚い唇が印象的。敬語で話す礼儀正しい子。実家はアンティークショップ。

吉田かな

（声／矢野亜沙美）

４人組のひとり。友達想いで、夏の合宿時に、誠司に告白するりんを応援していた。

椎名えれな

（声／尾崎真実）

４人組で一番小柄。そのせいか小さなひめが大好き。「えれにゃんだよ♥」と自己紹介。

ボーイフレンドたち

假屋崎先輩

（声／小林親弘）

ぴかりが丘学園の生徒会長。文化祭のポスター貼りを手伝ったひめと仲よしに。

海藤裕哉

（声／内山昂輝）

誠司の友達で、いおなのことが気になっていた。彼女を動物園デートに誘う。

山崎健太

（声／鈴木達央）

野球部のエース。成績ワーストをめぐみと競う仲。勉強は野球に必要と気づく。

かずみ

（声／藤村歩）

めぐみの同級生。空手が上達せずに悩んでいた。氷川道場に通い、いおなに憧れている。

各話のゲストキャラクター

9 Character Collection キャラクターコレクション

さまざまな事件に登場した、ぴかりが丘の人たちをコンプリート。



WORLD PRECURE 世界のプリキュア

幻影帝国と戦っていたのはハピネスチャージプリキュアだけじゃない。世界のプリキュアが勢ぞろいだ！

10 Character Collection キャラクターコレクション

アロ～ハプリキュア

<アメリカ・ハワイ>

双子の姉妹チーム。マダムモメールに連敗し、ハワイは寒冷化して、姉妹も仲違いしてしまう。変身時の名乗りは「南国に輝くふたつの光、アロ～ハプリキュア！」

キュアウェーヴ／オリナ

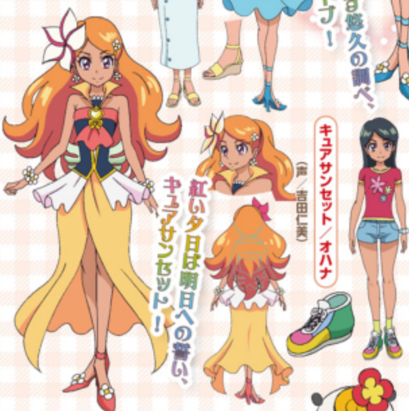
（声／仲谷明香）





キュアサンセット／オハナ

（声／吉田仁美）



アロアロ

（声／深川芹亜）

アロ～ハプリキュアのパートナー妖精。ハワイのピンチを伝えるべく日本にやってきた。



ボンバーガールズプリキュア

<アメリカ・本土>

（声／小堀幸、國府田マリ子、岡村明美）

アメリカ・テキサスで活動する3人組のプリキュアチーム。ファッションやキメのポーズには、西部開拓時代の古きよきアメリカの香りが漂う。



キュアサザンクロス

<オーストラリア>

大柄で、キリっとした表情が印象的なプリキュア。広大なオーストラリアで、ひとりで戦っているようだ。





増子美代がお届けします！

増子美代（ますこ みよ）

（声／小島幸子）

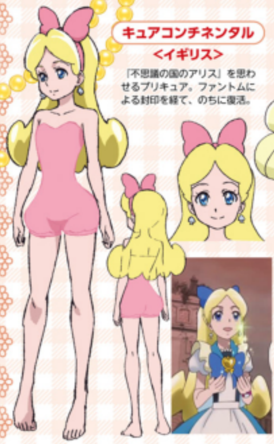


プリキュアの活躍を伝えるレポーター。プリキュアになりたかったが、愛の結晶で覚醒ならず！



キュアコンチネンタル
<イギリス>

「不思議の国のアリス」を思わせるプリキュア。ファントムによる封印を経て、のちに復活。



メルシィプリキュア

キュアアール
<フランス>
（声／矢野亜沙美）

メルシィプリキュアはチーム名だが、確認されたのはキュアアールのみ。芸術の都・パリでの活動にふさわしく、絵筆型の武器を持つ。



キュアカチューシャ
<ロシア>



クールビューティーな印象。ファントムに封印されたが、ミラージュが浄化されたことで復活。

ワンダフルネットプリキュア
<インド>

メガネっ娘のふたり組。電卓型のアイテムであるキーを連打し、光る数字を出現させて、それを放って敵を倒す「オプティカルウェーブ」が決め技。





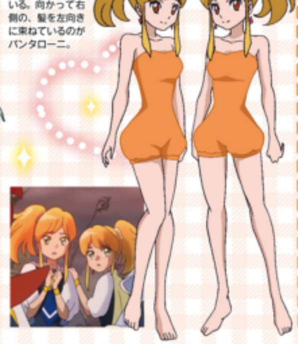
マタドールプリキュア
<スペイン>

16話でファントムに圧倒された姿が痛々しかった。マタドールの赤い布がトレードマーク。



キュアパンタローニ&キュアゴーンナ
<イタリア>

双子姉妹のプリキュア。常にふたり一組で行動している。向かって右側の、髪を左向きに束ねているのがパンタローニ。



キュアナイル
<エジプト>



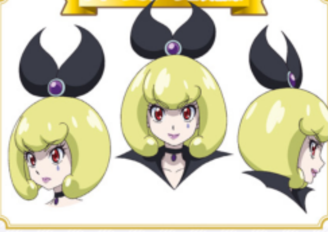
暑い砂漠で活躍するプリキュア。セパレーツのコスチュームがセクシー。封印されていたが、のちに復活を果たした。

クイーンミラージュ

11 幻影帝国 1 Character Collection キャラクターコレクション

世界をサイアクに染める悪の組織・幻影帝国。最悪なヤツらの素顔を公開！

クイーンミラージュ表情集



クイーンミラージュ （声／國府田マリ子）

悪の組織・幻影帝国を率いる女王。愛、やさしさ、幸せなどは「幻」と考え、不幸で世界を染め上げようとしている。侵略したブルースカイ王国に君臨し、プリキュア討伐を指揮する。正体は、かつてのブルーのパートナー。裏切られた悲しみを、黒幕のレッドにつけこまれた。

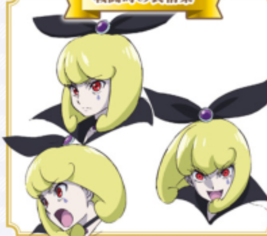




戦闘時

レッドに洗脳され43話で戦闘モードになったミラージュ。暴走し、そして浄化された。

戦闘時の表情集



お付きのふたり





傘



暴走するクイーンミラージュ



浄化後のミラージュ



ゴンドラ

ブルーと共に幻影帝国にやってきたキュアラブリーを、不気味なゴンドラに乗って出迎えた。



レッド

12 幻影帝国 2 Character Collection キャラクターコレクション

幻影帝国を操るサイアクな巨悪は別にいた。その意外な正体とは!?

戦闘時

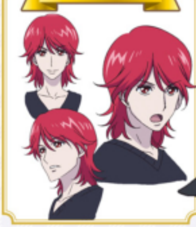
深紅の服にパープルのマントを着用。強烈な色はレッドの心を映し出しているようだ。







レッド表情集



ディープミラー



レッド （声／井上和彦）

女王の部屋にかかるディープミラーの中にいた謎の存在。彼こそが、幻影帝国の黒幕だった。Vネックのセーターを着こなし、戦闘時はマントを羽織る。地球のブルーは弟。惑星レッドの神として星を失った悲しみが、すべての悪事の引き金となった。

キュアミラージュ

ミラージュ

レッドの洗脳が解けたあとの大人のミラージュ。



少女のミラージュ

巫女として、ブルーと出会った頃。







キュアミラージュ （声／國府田マリ子）

クイーンミラージュの素顔は、ぴかり神社の巫女・ミラージュ。キュアミラージュとして覚醒し戦う、正義の戦士だった。ブルーへの誤解から闇に引きずり込まれていたが、やがて誤解は解け、ふたりは惑星レッド再生のために旅立った。

キュアミラージュ表情集



13 幻影帝国 3 Character Collection キャラクターコレクション

幻影帝国は各地域ごとに担当がある。個性派幹部をご紹介!

ナマケルダ





ナマケルダの表情集



ナマケルダ

（声／金尾哲夫）

ぴかりが丘担当の三幹部の一番手。「仕事をサボるのは最高のぜいたく」と考え、クイーンミラージュの命令を無視することもある。ジメジメのカビを使い、ぴかりが丘を侵食した。恋愛に苦労した過去があり、悪に引きずり込まれた。

プリキュアハンター

ファントム





ファントム

（声／野島裕史）

世界中のプリキュアを狩るために派遣されたハンター。プリキュアを鏡に封印し、「プリキュアの墓場」に集めていた。ブルー討伐を命じられ、キュアラブリーの姿を借りたアンラブリーに変身したこともある。最強の男の正体は……。

ファントムの表情集



ファンファン



ファントムの正体はミラージュのパートナー妖精。悪に染まったミラージュの笑顔を取り戻そうとする願いが暴走し、ファントムに変貌！





ホッシーワ

ホッシーワ　（声／岡村明美）

三幹部の二番手で、なんでも欲しがる性格。建物をお菓子に変えて侵食を図る。そのお菓子を独占し、人間の不幸を見ながら食べるティータイムが大好き。歌に自信があり、アイドルに変装して歓声を欲したこともあった。

ホッシーワの表情集



保育士の"星"さんに戻ったホッシーワ



人間に戻ってからは、子どもたちに大人気だった。

警察官に戻ったオレスキー



誰かに裏切られ、悲しい想いをした過去が……。



オレスキー



オレスキー　（声／子安武人）

三番手は、デキるオレ様が大好きでたまらない漢。特訓をするなど、ある意味、熱血漢なので、ホッシーワたちに面倒くさい男だと思われている。名誉や地位に執着し、いずれは力で世界を支配することを狙っていた。





オレスキーの表情集



マダムモメール

ハワイ地区担当の幹部。モメ事を起こして混乱させ、侵略を進めようとしていた。



14
幻影帝国 4
Character Collection
キャラクターコレクション

サイアーク＆チョイアーク

幹部が使役する部下は２種類。チョイアークは人間と同じサイズの戦闘員。負の感情を持った人間を鏡に封印して生み出す怪物・サイアークは巨大だ。独創的な怪物が大集合！







♥お祭りサイアーク（34話）
♥マカロンサイアーク（28話）
♥子どもサイアーク（23話）
♥クレープサイアーク（20話）
♥騎士サイアーク（15話）
♥インコサイアーク（35話）
♥ヤシの実サイアーク（28話）
♥ランタンサイアーク（24話）
♥ギターサイアーク（20話）
♥レポーターサイアーク（16話）
♥プレゼントサイアーク（36話）
♥大木サイアーク（31話）
♥乙女サイアーク（25話）
♥ファントムサイアーク（21話）
剣道
戦車
カブトムシ
相撲
ひょろっとタイプ
ボクシング
♥サンドバッグサイアーク（17話）
♥かぼちゃサイアーク（37話）
♥ツッパリサイアーク（26話）
♥バスケ風サイアーク（32話）
♥ウエディングドレスサイアーク（18話）
♥カンフーサイアーク（39話）
♥エプロンサイアーク（27話）
♥ロケットサイアーク（33話）
♥大砲サイアーク（19話）
♥クリスマスサイアーク（45話）
♥ファイアーダンスサイアーク（28話）
♥お母さんサイアーク（23話）
♥サッカーサイアーク（19話）

本作のキャラクターを演じたキャストたちの想いや収録秘話を紹介!

プリキュアを演じた4人が愛を語る!!

プリキュアになれたことは一生の宝物です



キュアラブリー 愛乃めぐみ

中島愛



太陽のようでもあり月のようでもあるめぐみ

——中島さんは、ラブリー／めぐみ役が初めての主役になるんですね。

そうなんです！ 合格の連絡をいただいたときは、うれしさはもちろんあったのですが、緊張も同じくらい感じました。やはり、「プリキュア」という作品には歴史的な重みがありますし、本作はシリーズ10周年を飾る「プリキュア」ということもあって、とにかく頑張らなくちゃと思ったことはよく覚えています。

——オーディションを経て、ラブリー／めぐみ役をつかまれたわけですが、その段階で、ラブリー／めぐみにはどういう印象をお持ちになりましたか？

実は、最初はハニー役でオーディションを受けたんです。ですからセリフはハニーのものしか手元になくて。ハニーのオーディションのあとに、ラブリーも受けてほしいと声をかけていただきました。ラブリー／めぐみのセリフはそのときに初めて見たのですが、ひめとの掛け合いのセリフの中に、ひめを励ますセリフがたくさん書かれていたんです。だから、ラブリー／めぐみは人を支える立場の子なんだろうなと思いました。スタッフから、「ひめを勇気づけ、元気づける勢いとやさしさを大事にしてください」と言われたことも覚えています。

——序盤のラブリー／めぐみは、特にプリンセス／ひめを支えた印象が強いです。

プリキュアになったのも、ひめを助けるためという部分が強かったですからね。めぐみはすごく元気だし、太陽のようにみんなを照らす子という印象ですが、一方で月のような側面もある子だなと思っています。アフレコの最初の頃は、めぐみがどのようにひめを支えるタイプなのか悩んだことがあるんです。そのとき長峯達也SDや柴田宏明Pから、「ひめの背中を押す子だよ」と言っていただいて。前から手を引っ張るんじゃなくて、後ろからそっと背中を押すというのが彼女のポイントなんだとわかって、それからはあまり悩まなくなりました。めぐみ自身は、ひめがよくリボンから「直しなさい」と言われている部分を欠点とは捉えていなくて、そこがひめのいいところだと思っているんじゃないかな。ほめ上手なところが、めぐみのいいところですね。

——ひめを見守る母性も持ち合わせているんですよね。でも、学校の成績は……。

びっくりしましたね～（笑）。そのことについては長峯SDから、「めぐみは誰かの力になることに心が傾きがちで、自分自身のことには無頓着なんだ」と教えていただいて、しっくりきました。

——鼻唄を歌うような、コミカルなところもかわいかったです。

あれは、アフレコ現場で節を考えながら歌っていたんですよ！ 長峯SDが実演してくださったんですが、「あふれ出た楽しい気持ちが歌になっているだけだから、自由に歌ってください」と言われて。後半では、めぐみに合わせてほかの子たちも歌うシーンが出てくるのですが、収録は一発勝負です。私が歌った節をその場で確認し合って、みんなで歌う。一体感があって、とても楽しかったですね。

——ラブリー／めぐみに共感した部分は？

めぐみは自分のつらさとか苦しさとか、ネガティブな感情を怖がっていたんじゃないかと思う部分もあるんです。「映画ハピネスチャージプリキュア！ 人形の国のバレリーナ」に登場したつむぎちゃんに、プラスな感情だけでは乗り越えられないものもあるんだと教えられて、少しずつ変わっていった。私も前向きな感情だけではうまくいかなかった経験があるので、めぐみがいろいろな経験をして、ネガティブな感情を認めることも大事なんだと気づくところには共感が持てました。

——ファントムが変身した・アンラブリー・が、ラブリーに対して「誰の役にも立てない弱い子」という、ネガティブな言葉を投げかけていました。

アンラブリーはファントムが変身した姿なので、まさに悪役という感じで、長峯SDからは「まったくの別人というよりは、いつもと違うことを言う自分」というアドバイスをいただきました。実際、アンラブリーの言っていることは、めぐみ自身がどこかで考えていたことかもしれない。だからこそ、「ほめられたいんでしょ」などと言われたことで動揺してしまったんじゃないかな。でも、アンラブリーの言葉によってめぐみは自分の本当の気持ちと向き合い、気持ちの整理をするきっかけを与えてもらったのではないかと感じています。

誠司の気持ちには早く気づいてほしい！

——本作は、恋の話がテーマになった点も、これまでのシリーズと異なりました。

アフレコが始まる前から、恋の話も軸としてあるということは聞いていたのですが、ここまで濃密に描かれるとは思っていなかったので驚きました。ただ、めぐみを演じた身としては、恋が成就するかどうかよりも、ブルーへの恋心を認識するようになって自分のことを省みるようになっていくのか、ということのほうが気になりました。

——めぐみとブルーとの恋が成就するとは思わなかった？

ブルー様はどこからどう見てもミラージュ様に一途でしたから、めぐみも彼の気持ちが変わらないということには気づいていたん

じゃないかな。誠司の想いに関しては、無視していたのではなくて、距離が近すぎて本当に気づかなかったんだと思います。48話で「友達と家族と誠司と生きていく」と言ったときに、初めて誠司を特別な存在として認めることができたのかなと感じています。

――それは恋愛感情だと思いますか?

大切だとは思っているけど、恋とか愛とかの域にはいっていないんじゃないかな。でも、ふたりの将来が想像できるような、幸せに満ちた語りだったので、ずっと特別な関係でいてくれたらうれしいですね。

――誠司ほどのいい男は、そうそう現れませんよね。

そうですよね! めぐみはとにかく、ずっといい子であろう、いい子でありたいと思ってきた子でもあるでしょうから、誠司はその張り詰めた危うさに気づいていたのかもしれませんね。でも、無理矢理変えようとするのではなくて、ずっと見守ってくれていた。だから、めぐみには早く誠司の気持ちに気づいてほしいなとも思います。

――アフレコ現場では、レッドが登場してからレッドとブルーとどちらがいい男かという話にもなったそうですね。

なりましたね~(笑)。誠司も含めて、男性キャラクターそれぞれによさがあるので、誰が一番かと問われると、選べないですよね。ブルーは地球とミラージュを、誠司はめぐみを、そしてレッドは惑星レッドのことをずっと思い続ける一途な人たちですから。めぐみを演じた立場としては、やはり「誠司が一番」と言いたいです。

――そんな話ができるアフレコ現場は、和気あいあいとしていそうですね。

本当に、明るくて楽しい現場でした。ファントム役の野島(裕史)さんが「すごくいい現場だよね」とおっしゃったことがあって。キャストもスタッフも、みんなが同じ方向を見て同じものを作ろうとしている、その空気に感動しました。

「プリキュア」は1年という長いシリーズなので、誰かのお誕生日が来たらお祝いをするのが恒例になっているそうなのですが、私はサプライズをしようとしていることがバレないようにするのに、とにかく必死でした。お誕生日の人を前にすると、思わず目をそらしちゃうとか、いつもよりも話す時間が短くなるとか、自分でもわかるくらい露骨に態度に出てしまうので。特にメインに立ってサプライズをしようとしていた、プリキュアの3人には「ごめん」って言いたいです……(笑)。

先輩たちから支えられることも多かった

――「プリキュア」シリーズの"ピンク"は、座長という立場でもありますが、1年間通してプレッシャーはありましたか?

もちろんありました。今回は、プリキュア役が全員同年代で先輩がいらっしゃらなかったこともあって、どう引っ張っていけばいいのかと悩むこともありました。そのときには、リボン役の松井菜桜子さんや、ミラージュ役の國府田マリ子さんが相談に乗ってくださって。素直に先輩の胸を借りに行ける空気を作ってくださったことに、本当に感謝しています。

――リボンとは、ひめの面倒を見るという点で、気持ちを分かち合っている部分が多いように感じました。

リボンはひめを守ったり、時にはお説教もしたりする存在でしたからね。めぐみにとっては、母のような存在だったと思います。多くを語らなくても気持ちを理解してくれる、大切な存在でした。私にとっては、菜桜子さんがリアルなリボンになってくれていましたね。

――シリーズを通して印象的だったエピソードを教えてください。

44話かな。ブルー様に失恋する形になっためぐみが落ち込んでいることに気づいて、誠司が街に連れ出してくれたエピソードです。誠司が「本当のめぐみでいていいんだよ」って言ってくれて、やっと泣くことができたという、感情の流れが印象的で。めぐみとしては、ブルー様とミラージュ様が幸せなのはすごくうれしい。でも、悲しさもあるのに、それを見つめることができずにいた。そこをちゃんとまっすぐ見させてくれたことに、すごく感動しました。

――48話ラストでの、フォーエバーラブリーへの変身も印象に残りました。

ラブリーがひとりで戦う形になってしまって、プリンセスたちも心苦しいんだろうなと思うと、胸が痛かったです。でも、そんなめぐみがみんなの愛によって変身できたというのが、めぐみという女の子の立ち位置をすごく象徴的に表現しているように感じました。めぐみは人を助けたいと思って頑張っているけど、同時に誰かに支えられて助けられながら生きている。人の愛によって前に進むことができるんだと教えてもらった気がします。ラブリーとプリンセスは、至上最弱かと言われかねないくらいに弱いプリキュアでしたが、最後には大きな相手と戦うことができるほどに成長したんだなと思うと、泣けてきましたね。

――そんな中島さんにとって、「プリキュア」とはなんでしょうか?

プリキュアを演じることは憧れでしたが、自分の手の届くところにある存在だと思ったことはなかったんです。ですから、オーディションを受けることができて、声を聞いていただけるだけでもうれしかったんです。改めて振り返ると、マリ子さんがヒロインを演じた『ママレードボーイ』を私が観て育ったように、本作が人生で初めて出会うアニメだった子もいるかもしれない。その子たちにとって本作が心に残るものになってくれていればうれしいし、私にとっても一生忘れることのできない、大切な宝物になったなと思います。

『ハピネスチャージプリキュア!』は、全編を通してリアルさがあり、それでいてファンタジーとしての見どころも盛りだくさんの作品でした。ラブリーといっしょに自分も成長したいと思ったし、仲間や先輩、周囲の方々からのビッグな愛に支えられた1年でした。この1年間は私にとって一生忘れられないものになりましたが、観てくださったみなさんにとっても、この作品、そしてキャラクターが心の中で生き続けていてくれたらと思います。

PROFILE

【なかじま・めぐみ】

6月5日生まれ。茨城県出身。主なアニメの出演作品は、『マクロスF』(ランカ・リー役)、『ポケットモンスター ベストウイッシュ』シリーズ(メロエッタ役)など。



中島愛からプリキュアのみんなへ

北川里奈さま



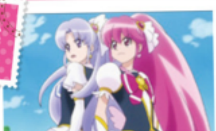
実は、オーディション会場に行くときに、里奈ちゃんが近くを歩いていたことを覚えています(笑)。里奈ちゃんは年下だけど、包み込んでくれるお姉さんのような雰囲気があって、いっしょにいて安心できました。とてもしっかりしているのに、実はすごく緊張していたり、感じたことをまっすぐに言えたりする里奈ちゃんは、とてもかわいくてかわいくて、とにかくかわいいです。密かに寄りかかるように支えてもらっていたことは秘密です。

潘めぐみさま



めぐみが変身して主にタッグを組んだのはプリンセスだったので、特に物語の前半ではツインシュートを打ったりするような、ふたりで力を合わせるシーンがすごく多かったよね。潘ちゃんのやさしさとおおらかさがあったからこそ、息を合わせてふたりで動くシーンも楽しくできたんだと思っています。潘ちゃんのどんなときでも動じず、つらいことがあってもあきらめずに進んでいく姿が、とても大好きです。

戸松遥さま



とまっちゃんとは以前に別の作品で共演したことがあったのですが、今回改めていっしょに演じることができました。とまっちゃんは「ザ・姉貴」という感じで、すごく頼りになる存在。フォーチュンのようにクールな部分もありながら、熱意や鋭さも持ち合わせている素敵な人です。でも、仕事以外でふっと力を抜いたときには、ムードメーカーにもなってくれて。『ハピネスチャージプリキュア!』を支えてくれたことを、心から感謝しています。

CAST INTERVIEW 2

命が尽きるまでずっとプリキュアでいたい



PROFILE
【はん・めぐみ】
6月3日生まれ。東京都出身。主なアニメの出演作品は、『HUNTER×HUNTER』（ゴン＝フリークス役）、『俺物語!!』（大和凛子役）など。



キュアプリンセス ✣ 白雪ひめ

潘めぐみ

涙が出るほどうれしかったオーディションの合格

——プリンセス／ひめは、青色系統のキャラクターにしてはにぎやかな性格でしたね。

長峯達也SDが手がけられた『ハートキャッチプリキュア！』を観ていたので、ひめを初めて見たときにキュアマリン／来海えりかの雰囲気を引き継いでいるのかなと感じました。歴代の青系は冷静沈着で知的なタイプが多いですが、"長峯ブルー"として子どもたちを笑わせたり、反面教師にもなったりするようなキャラクターになれたらいいなと。

——でもひめは、そんな性格とは裏腹に学校の勉強はそこそこできるんですよね。

ブルースカイ王国出身ということもあって、英語は得意みたいですね。白雪ひめとして見ると、彼女がお姫様だということを忘れがちですが（笑）、お姫様としての素養は備えていたんだなと、あとになって感じました。きっと、王国では箱入り娘として育てられてきたんじゃないかな。周囲には大人も多くて。だから、ぴかりが丘でめぐみと出会って、初めて同い年の友達ができた。だけど、友達の解釈を間違えていて……。

——友達を自分の言うことをなんでも聞いてくれる便利なものと思っていましたね。

悪意なく、本気でそう思っていたのも、世間知らずだっただけなんだろうなと思います。「ワガママに見える部分も、ひめとしては思いやりを持って行動しているつもり。ただ、それがうまくできないだけのことだよ」と長峯SDからは教えていただいて。なので、できるだけ悪気がないんだと感じてもらえるような表現にできるように、注意して演じました。

——プリンセス／ひめの第一印象は？

プリンセス／ひめと初めて出会ったのは、オーディションのときでした。私は最初にラブリー／めぐみでオーディションを受けさせていただいたんです。そのときにプリンセス／ひめと掛け合うセリフがあって、それがプリンセス／ひめとの初めての出会いでした。めぐみとして受けたのに、ひめの存在がとても気になって。私は元々青という色が好きで、これまで演じてきた役も青色系統に縁があることが多かったんですね。だから、次第に「めぐみとして受かれればもちろんうれしいけど、ひめとしての潘めぐみも聞いてほしい」という気持ちも生まれてきて。そうしたら、「プリンセス／ひめも受けてみてほしい」と言われて、「これは……！」と感じたのを覚えています。

——実際、プリンセス／ひめ役で合格したわけですが、合格の知らせをもらったときのことは覚えていますか？

ちょうどその日はお昼くらいまでお仕事がなくて、いつもよりゆっくり寝ていたんです。起きたときに事務所から電話とメールがあったことに気づいて。「プリンセスで合格したよ」というメールを見て、「あ、これは夢の続きだな」って（笑）。でもなぜか、携帯電話の画面が水で濡れていくんですよ。最初はその理由がわからなくて、母に合格通知のメールを見せに行ったところ「泣いてるわよ」と言われて、初めて自分が泣いていることに気づきました。そのくらいうれしかったです。

——実際にアフレコに入って、スタッフからはどんなオーダーがありましたか？

私は自分で演技プランを計画してしまいがちなところがあるのですが、「計画はしなくていいから自由に演じてください」と何度もおっしゃっていただいたんです。でも、電話などで声が変わって聞こえるように、日常でも、話す相手によって声のトーンが変わりますよね？　当初は自由にというのを、どう演じたらいいか困っていました。

——どうやって乗り越えたのですか？

今回は、特にひめに対する相手からのセリフを意識して、ひめらしいリアクションを追求していきました。そうするうちに、めぐみが悩んでいるときにはひめならどうするだろうとか、めぐみが人助けをする姿を見てひめならこう思ったんだろうなと自然と考えられるようになり、特に意識しなくてもひめの行動に寄り添うことができるようになったんです。

——ひめ語録も自由だからこそ生まれた？

そうですね！「すごごごーい！」とか「そんなこと……あるけど！」とか、もちろん台本にあるセリフもありますが、セリフに気持ちが乗っていったのは自由に演じさせてもらったからじゃないかなと思います。『プリキュア』を観ている子どもたちが、そのセリフをマネしてくれたらうれしいなという気持ちもありました。実際に知り合いのお子さんがマネしてくれているのを聞いて、本当にうれしかったです。

なかなか成長しないのがひめらしいところ

——6話でリボンに「パンケーキを食べたい」と駄々をこねていたところから、ひめは本当に子どもなんだなと感じました。

めぐみと知り合って、5話までの間に人への思いやりを学んできたはずなのに、1話が終わるごとに成長がリセットされちゃっていましたね（笑）。でも、すぐに改善されないところが、リアルだなと感じました。なかなか人は1日では変われませんからね。

——当初は世間知らずなキャラクターだったこともあって、作中では一番成長したようにも思います。

成長と言えるかはわかりませんが、彼女なりに気を使って空気を読めるようになっ

たんじゃないかな。私がひめの成長を一番感じたのは、『映画ハピネスチャージプリキュア！ 人形の国のバレリーナ』で、落ち込んだめぐみの肩をガンガンに揺らして「ちっがーう！」って言った姿を見たとき。ほかの人ならやさしく慰めるのかもしれないけど、ああやって自分ができる形で励まそうとする姿を見て、成長しているんだなと。ひめ自身は、ほかの子たちとは少し違う、自分が「これ！」と思った方法で人を励ましたり、慰めたりしようとする。空気が読めていないのではなくて、あれは彼女なりの気遣いなんだとわかってからは、彼女がいっそう愛おしくなりました。

――そんなプリンセス／ひめに共感できる部分はありましたか？

長峯SDからは「ひめはきっかけさえあれば誰とでも仲よくなれるんだよ」と教えていただいたんです。それは、私にも共通していました。私も子どものころはどちらかというと引っ込み思案で、周囲の様子をうかがっているような子だったんです。でも、いっしょに絵を描こうよって誘ってもらえたら、喜んで描いちゃう。そういうところがひめに重なるなと。あれだけ引っ込み思案だったひめが、34話の文化祭でアーチを作るみんなから頼られている姿を見たときは、ちょっと誇らしかったですね。

――ほかに印象に残っているシーンは？

ゆうこもいおなも、もちろんみんな大好きなのですが、どうしてもひめの視点で見てしまうので、やはり初めて友達になっためぐみの名乗りのシーンかな。1話はラブリーが「世界に広がるビッグな愛！ キュアラブリー！」って言ったところで終わるのですが、48話も「世界を照らす永遠の愛！ フォーエバーラブリー！」となって終わって。ひめが投げた“愛の結晶”がたまたま当たってプリキュアになり、それからずっといっしょに頑張ってきてくれためぐみの姿を見て、涙が止まりませんでした。

あと、フォーチュンと仲直りをしたシーンも印象に残っていますね。時として自分勝手に振る舞ってきたひめが、みんなが幸せになるためには、まず目の前のフォーチュンを救いたいと思っていたし、何より自分の願いよりも優先したい相手ができたというのがうれしかった。その後、それをきっかけに24話で「ハピネスチャージプリキュアー！」の名乗りを4人いっしょに言えたのにも感動しました。

それから、リボンとのやりとりも欠かせませんね。リボンは、ひめにとってはお母さんのような存在だったんだと思います。これはリボン役の松井菜桜子さんともお話させていただいたのですが、鏡に閉じ込められたお母さんの魂がリボンとして残ったんじゃないかと考えたこともありました。実際はそうでなかったにしても、そのくらいリボンのひめに対する心遣いが素敵で。ひとつひとつのツッコミに、愛情と家庭的な温かさを感じました。

ひめたちの物語は永遠に続いていくもの

――アフレコ現場は、とても和気あいあいとした雰囲気だったそうですね。

プリキュアチームが同年代だったせいか、イケメン談義で大盛り上がりしたこともありました。特にレッド様がVネックのセーターで登場したときには、大騒ぎしちゃいました（笑）。Vネックから見える首筋と鎖骨、そしてあの椅子に足を開いて座るポーズ。いちいち私のツボを突いてきて！

一方で、ブルー様の胸元が開放的なことが気になっていて。44話のパジャマパーティーで、ひめたちも同じことを考えていたと知って、盛り上がりました。

――本作は恋愛もテーマの軸としてありましたが、ひめは誠司にドキドキすることを恋と勘違いしたり、生徒会長とちょっといい雰囲気になったりしていました。

ひめは生徒会長といい雰囲気になっていることには気づいていないんじゃないかな。私としては、ひめには誠司への想いを恋だと思っていてほしかったという気持ちはあります。ゆうこに諭されたとき「ドキドキしないから恋じゃない」とひめ自身が結論づけてしまったのは、少しさびしくもありました。ひめが大人になって振り返ったときに、あれが私の初恋だったかもしれないと思っていてほしいところでしたね。でも、ひめはテレビとか少女マンガとかで恋の知識を仕入れているような気がするので、本当の恋にたどり着くのはまだ先かも？

――1年間、そんなひめを演じてきた潘さんにとって、「プリキュア」とは？

永遠のものだろうなと思います。私がこの先ひめを演じる機会は、「プリキュアオールスターズ」の映画などに限られるかもしれませんが、まだまだ続くであろう「プリキュア」シリーズはずっと応援していくだろうし、街でグッズを持っている子を見かけたら、そのたびにプリキュアであることを思い出すと思う。そのくらい特別なものなので、私はきっと命が尽きるまでプリキュアだし、プリキュアでいたいですね。でも、プリキュアって演じている役者さんだけがなるわけではなくて、応援してくださる方々、スタッフのみなさん、ありとあらゆるすべての人がプリキュアなんだと思います。だから、特別なものだけど誰もがなれるもの。それが、「プリキュア」ですね。

――1年間は短かったですか？

まだ終わったことが信じられませんし、終わったとは絶対に言いません。49話のことを最終話と言いたくないのも、彼女たちの物語はまだテレビの向こう側で続いていると信じているからなんです。あまりに大切すぎて、現実逃避し続けています（笑）。

この1年で舞台挨拶やインタビューなどをたくさんさせていただいたのですが、気持ちはいつでも湧き上がってくるのに、どうして言葉にできないんだろうってずっと考えていました。アフレコがなくなってしまうのはさびしいし、考えるとすぐに涙が出てきちゃうし……。

観て応援してくださったみなさんには、感謝の気持ちでいっぱいです。毎週、貴重な30分を彼女たちのために割いてくれてありがとう。誰かの人生にそれだけ携わることができたのは、とても貴いことだなと感じています。できることなら、ときどきでいいので、今めぐみたちは何をしているかなとか、今もハピネスチャージプリキュアとして頑張っているかなと思い出してもらえたらうれしいです。またどこかで出会えたら、と私も切に願っています。



潘めぐみからプリキュアのみんなへ

北川里奈さま



今回が初めてのレギュラーだと聞いていたのに、それを感じさせないくらいしっかり者で、初めてごはんをいっしょに食べに行ったときから気を遣ってくれて、ちょっと落ち込んでいたときにはそっと寄り添ってくれる。里奈ちゃんにとっては、私たちは先輩かもしれないけど、私たちは里奈ちゃんを大切な友達だと思っているよ。だから、これからも末永くよろしくお願いします。

中島愛さま



まめぐちゃんがめぐみだったからこそ、生まれてきた気持ちや感情、考えがたくさんありました。ひめとしてめぐみにかけていた言葉の中には、私からまめぐちゃんに伝えたいなと思うような言葉もたくさんあって。こうして私をひめにさせてくれたのも、相手がまめぐちゃんだったから。「めぐみ」という同じ名前の、同い年、誕生日も近い、同じ星座の生まれ。この出会いに運命を感じているよ。めぐり会えて本当によかったです。

戸松遥さま



レギュラーで共演したのは、今回が初めてだったね。はるちゃんとは、出会ったときから何かが共鳴していた気がします。だけど、作中では敵対しているシーンから始まった。それから仲直りして23話。いおなとひめの初めてのおつかいで掛け合えたとき、最高に楽しかった。はるちゃんの持つ情熱は現場の支え。全力でぶつかってきてくれたからこそ、ひめでいられたんです。本当にありがとう、はるちゃん。

CAST INTERVIEW 3

ゆうことハニーから背中を押してもらえた1年でした



キュアハニー◆大森ゆうこ

北川里奈



不安と喜びがあった初めてのレギュラー

——北川さんは、本作が初めてのレギュラー作品ですね。

実は、収録スタジオでオーディションを受けるのも初めてでした。『プリキュア』のオーディションを受けられること自体がびっくりなことでしたが、それ以上にスタジオに行ってどうしたらいいのか全然わからなくて、事務所の先輩からいろいろと教えていただきまして。オーディション当日は緊張しつつも、実際に収録が行われるスタジオで一瞬だけでもプリキュアになれる喜びをかみしめて演じました。興奮のあまり、オーディションが終わってからも家でセリフを呟いちゃいました（笑）。『プリキュア』はグループに分かれてオーディションをするのですが、その中に中島（愛）さんがいらして。お会いしたことがある方とごいっしょできることがわかったときは、とてもうれしい気持ちになりました。

——オーディションは、ハニー／ゆうこ役で受けられたのですか？

そうです。オーディションのときには、ほかのキャラクターのイラストもいただいて、その中で最初にハニーが目に止まったのを覚えています。顔と髪形や、雰囲気がすごく好きだなぁと思ったんですね。でも、その後にゆうこのイラストを見たときはボーイッシュな雰囲気だったので、変身後とはギャップがあって新鮮に感じました。

——10年も続く『プリキュア』シリーズに出演するプレッシャーはありましたか？

もちろんありました。私自身が無名だったこともありますし、キャリアも浅く、誰もが知っている『プリキュア』を1年間やっていけるのかなと不安も生まれて。声優という職業は、声を吹き込んでキャラクターを魅力的にするのがお仕事だと思っているので、視聴者に受け入れてもらえるキャラクター作りができるかなとか、ハニー／ゆうこの魅力をちゃんと伝えることができるかなとか、不安要素だらけでしたね。でも、プリキュアを演じられるという喜びももちろんあって。喜びと不安が天秤に乗って、ゆらゆらと揺れている感じでした。

——ハニー／ゆうこは、4人のプリキュアの中ではかなり落ち着いた存在でしたね。

スタッフからは「ハニー／ゆうこのやさしさは、言葉の選び方はもちろん、話し方のニュアンスからも表れている」と指示をいただいて。たとえば、敵と対峙するシーンでは、ほかの3人が怒ってもハニーは怒鳴ったりせず、自分の想いを語りかけるんだと。ですから、1年間その「やさしさ」を伝えられるように心がけました。

でも、ミステリアスなゆうこのキャラクターをつかむのには時間がかかり難しかったです。ゆうこがハニーであると判明してから、どんどん彼女に寄り添ってゆくことができました。なかでも41話の収録が終わったときに、ふわっとした脱力感があったんです。

——41話というと、ハニーとファントムの戦いのエピソードですね。

元々ゆうこはやさしすぎて、プリキュアには向いていないと思うんです。ラブリーやプリンセスより先にプリキュアになっていたのに全然有名じゃないという部分からも、プリキュアとして目立った活動をしていなかったことがわかりますし、世界のプリキュアをサポートしたり、「みんなで仲よくしよう」と歌で語りかけたり……。争いごとは好きじゃないんでしょうね。

41話のファントム戦では、ファントムがミラージュのために戦っていることを知り、その想いを受け入れてしまった。これは、相手に寄り添うことのできるハニー／ゆうこらしい選択です。でも『プリキュア』という側面から見ると、プリキュアが負けてしまったら世界が不幸に包まれてしまうので間違った選択かもしれないとも思います。ただ、このとき私はハニーの気持ちにすごく共感できたんですね。そこでハニーと一体になれた感覚があり、私自身も幸せな気持ちになりました。

『プリキュア』が1年のシリーズだったからこそ、ゆうこはもちろん、キャストやスタッフのみなさんと長く付き合うことができたので、その経験があっての41話だったのかなと感じています。

——そんなハニーとご自身で、似ているところはありますか？

おっとりしたところは似ているねと言われましたが、私はあんなにできた女の子じゃないので（笑）。ごはんが好きで、ちょっとマイペースなところは似ているかな。私にとっては理想の女性ですね。

「しあわせごはん愛のうた」がたくさん流れたのがうれしい

——『プリキュア』は、ほかのアニメ作品にはあまりない決め技や変身シーンでの名乗り、叫びが特徴でもあります。

初めて叫んだのはオーディションのときで、合格後はアニメのアフレコの前に玩具の音声収録がありました。なにせ、すべてが未経験ですから、歴代『プリキュア』作品を改めて視聴して、先輩方がどう演じているのかを勉強しました。『プリキュア』のアニメはいくつも観ていたのですが、改めて自分が演じる段になって声を聞くと、みなさん本当に工夫を凝らしていて。ハニーだったらどうするかなと、彼女らしさを常に考えました。実際にハニーとしてアニメに登場するのは11話からだったので、10話までの間にラブリーたちのアフレコを見て、

バトルでのアドリブはどう入れているのかについても、ずっと研究しましたね。
　アフレコでは毎回名乗りのシーンをちゃんと録るのですが、すごく苦戦しましたね。「大地に実る」と「命の光」でハニーの動きが少し違うんです。「大地に実る」だとグッと秘めている感じなのに、「命の光」で爆発させるような感じになっていて、「命の光」のほうに力を入れようとすると、なまっちゃって大変でした（笑）。
　『映画ハピネスチャージプリキュア！ 人形の国のバレリーナ』の舞台挨拶で、着ぐるみのハニーに合わせて名乗ることがあったのですが、すごく気持ちよかったですね。

――ハニーは決め技として歌を歌うというのも特徴的でした。

　「しあわせごはん愛のうた」ですね。まさか作中でこんなに流れるとは思っていませんでした（笑）。ハニーといえばこの曲と言えるような、代表曲になってくれたのはうれしいのですが、レコーディングのときのことは、緊張しすぎて覚えていないんです。ただ、前もって長峯達也SDからは「語りかけるように歌ってほしい」と言われていて。ゆったりした曲調にやわらかい言葉を並べた歌詞だったので、自然と語りかけるように歌えたのは、曲と歌詞とキャラクターに支えられたからだと思っています。打ち上げの会場で、作詞の六ツ見純代さん、作曲の高木洋さんにお会いできて、「すごくいいものにしてくれた」とおっしゃっていただけたことが、とてもうれしかったです。

――ハニー／ゆうこといえば、歌と同様にごはんのシーンもはずせません。

　すごくおいしそうに食べていましたよね。私が一番食べたいなと思ったのは、14話で潮干狩りに行ったときに食べていた焼きおにぎり。焼き具合といい、醤油の乗り具合といい、あれは絶対おいしいだろうなと思って観ていたので。それから、18話のから揚げタワーはすごいカロリーだろうなと思っていました（笑）。どうやって積み上げたのかも気になりましたね。

――本作は恋愛もテーマの軸になっていましたが、ゆうこはファントムとちょっといい雰囲気になったのかなとも感じました。

　31話にあったファントムの看病のシーンは、ほかの3人からのぞかれていて、かなりコミカルでしたよね。でも、中学2年生くらいになれば、異性のことをいいなと思うことはあるだろうし、恋をして気持ちが昂ぶることもあると思うので、リアルなお話だなと感じていました。27話でひめが誠司にドキドキしている姿は、まさに恋する女の子だなと感じていました。
　ゆうこが好きになる相手はなかなか想像できませんが……ごはんをおいしく食べてくれる人かな。あと、「いただきます」や「ごちそうさま」をちゃんと言える人。ゆうこに無理矢理言わされるのではなく、自然と言ってくれる人と恋をしてほしいです。

『プリキュア』は人生の基盤になる作品

――近年の作品にはあまりない1年というアフレコの期間は、長かったですか？

　長いかと思いきやあっという間で、貴重な1年間だったのは間違いないです。一般的にキャラクターを理解するのに1クール（12本）はかかるとも言われているので、1年あったからこそ、ハニー／ゆうこのことを深く知ることができただろうし、そういう機会を与えていただけたことに感謝しています。

――アフレコでの思い出は？

　『プリキュア』では恒例なのだそうですが、お誕生日のときにみんなでお祝いをしました。私のときは2週にわたってお祝いしていただいて。1週目はスタッフがブーケみたいな容器に入っているかわいいお菓子を、2週目にはキャストの方を中心にハニーのケーキをいただいて。あまりにもクオリティーが高すぎて、食べるのが忍びなかったですね。誕生日やクリスマスなど、1年を通してイベントがたくさんあって、出演者やスタッフのみなさんとコミュニケーションがよく取れる、とても和やかな雰囲気の現場でした。
　それから、よくブルー様の言動でもちきりになっていましたね。3話で「恋愛禁止」と言われてからは、女子が集まるとブルー様のことがよく話題に上がりました。レッドが登場したときには、あの足を広げた座り方を観て、足と足の間に座って映画を観たいよね、なんて話もしましたね（笑）。

――そんな北川さんも、『映画プリキュアオールスターズ 春のカーニバル♪』ではついに先輩になりますね。

　先輩なんて恐れ多いですし、おこがましいです……。私は『映画プリキュアオールスターズNewStage3』にゆうことしては出演していないので、ゆうことしてオールスターズに出るのは初めてで。先輩方と共演できたのがうれしかったです。

――北川さんにとって「プリキュア」とはなんでしょうか？

　個人的には、私の原点になる作品だと思います。1年間で経験させていただいたことが、きっとこの先の人生の基盤になっていくと思うので、声優としての大きなきっかけをもらった"始まりの作品"です。1作目の「ふたりはプリキュア！」はリアルタイムでドキドキしながら観ていましたし、自分が演じることになってみて改めて「プリキュア」は小さな子どもたちに夢を与える作品なんだなと気づきました。本作のタイトルにある「ハピネスチャージ」や、劇中でプリキュアたちが使っていた「ハピネス注入」とか「幸せチャージ」という言葉がとても好きで。これはプリキュアを離れても日常的に使える言葉だと思いますので、心の中に残しておいてもらえたらうれしいです。そして、ときどき口にしてもらえたら、きっとみなさんの幸せもどんどん増えていくのだと思います。
　1年間観てくださったみなさん、そして応援してくださったみなさん、本当にありがとうございました。何事も初めてのことが多かった私は、キャスト、スタッフ、そしてファンの方に支えていただいた1年でもありました。そして、ハニー／ゆうこからも背中を押してもらえたと思っています。素敵な1年を過ごさせていただけたことを、心から感謝しています。

PROFILE

【きたがわ・りな】
　7月6日生まれ。神奈川県出身。主なアニメの出演作品は、『俺物語!!』山崎菜々子役、『ガッチャマン クラウズ』など。



北川里奈からプリキュアのみんなへ

潘めぐみさま



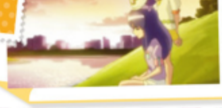
　ひめのように天真爛漫な部分がありつつ、すごく気配りもできる方なので、学ばせていただくことが多かったです。めぐみとひめが本作の中心であったように、中島さんの隣にはいつも潘さんがいて、一緒に支え合っていた姿が印象に残っています。中島さんや戸松さんと同じように私のことを引っ張ってくれて、やさしく声をかけてくれて、一生ついていきますという気分です（笑）。

中島愛さま



　中島さんはすごく綺麗な方なのですが、性格がさっぱりしていてハキハキとした部分が、めぐみと似ているなと思っています。積極的に「みんなを引っ張っていくよ！」という感じではないのに、気がつけば自然と引っ張っていってくれている、頼りがいのある方だなと感じていました。1年間、座長としてお疲れさまでした。本当にありがとうございました。

戸松遥さま



　戸松さんとはアフレコの席が隣だったのですが、収録の最初の頃は、フォーチュンの出番がない回が多くて、隣が空席だったのがさびしかったです。戸松さんのすごく明るくて、いおなのように切り替えの早い、芯のある姿に憧れていました。私がわからなくて戸惑っていることはすぐに教えてくれたし、収録の合間にも気さくに話しかけてくださって、うれしかったです。

CAST INTERVIEW 4

プリキュアになってもう一度夢をもらいました



キュアフォーチュン◆氷川いおな

戸松遥



怖くなりすぎないようなバランスが難しかった

――戸松さんは、オーディションでフォーチュンとラブリーを受けられたそうですね。

最初からフォーチュンとラブリーを受けてほしいとお話をいただきました。でも、どちらも受かるとはまったく思っていなくて。声を聞いていただけるだけでもありがたいなという気持ちでオーディションに臨みました。オーディションの2、3日後には結果が来たのですが、誰もが知っているアニメに出演できることが本当に幸せだなと感じました。

――同じ声優ユニットで活動する寿美菜子さんは、ちょうど2014年に放送された『ドキドキ！プリキュア』でキュアダイヤモンド／菱川六花を演じられていましたね。

オーディションの結果がわかったときには、まだ『ドキドキ！プリキュア』がオンエアしていたので、合格したことを美菜子にだけは打ち明けました。『プリキュア』の現場の雰囲気についても聞いたような気がしますね。美菜子からは「1年間歩んでいく役だから、キャストやスタッフとの絆がとても深くなるし、温かい現場だよ」と教えてもらいました。

――その言葉は実感できましたか？

できました！　キャストは毎年変わりますが、制作スタッフの中には変わらない方もいて、とてもいい現場の空気を作ってくださいましたね。『プリキュア』に出演することが発表されてからは、ほかのアフレコ現場で歴代の先輩たちに会うと、必ずプリキュアの話が出ました。みなさん、ご自身が演じられたプリキュアをすごく大切にしていて、「『プリキュア』の現場は特別だよ」とおっしゃっていて。『プリキュア』に携わった人にしかわからない達成感や経験があるんだろうなと、アフレコが始まる前から感じていました。

――フォーチュン／いおなの印象は？

ラブリーやプリンセスたちの仲間になることはわかっていましたから、根は悪い子ではないだろうと。でも、1話でプリンセスにキツいことを言うのが初登場シーンだったので、どう演じていこうかなと考えていました。ただ、仲間になるまではキツい物言いでとスタッフから言われていたので、やさしくしたり、わかりやすくしたりすることはせずに、突き放す感じでお芝居をしていました。私自身、自分で言っていても怖いなぁとか、そんな言い方しなくても、と思ってはいたのですが、フォーチュンは不器用なんですよね。だから、思ったことを思った以上の強さで言ってしまう。正義感も強いですし、プリキュアとしての誇りもある。「負けたくない」という気持ちも誰よりも強かったので、その雰囲気が伝わるようにとは思っていました。あと、子どもたちに怖いと思われると本末転倒なので、怖すぎないように、でもやさしくなりすぎないように、というバランスを取るのが大変でしたね。

おばちゃんキャラのいおなにビックリ！

――フォーチュン／いおなは、仲間になってからの印象が大きく変わりましたね。まさか、節約家だったとは思いませんでした。

長峯達也SDからは前もって「"おばちゃんキャラ"だからね」と言われていたんです。でも、おばちゃんってどういうことだろうと思っていて。あれだけキリッとしたクールな役柄なのに、まさか1円単位で安いモノを探すほどおばちゃんっぽいとは…と驚きました。23話でひめと買い物に行った回のアフレコで、卵の値段の話になったときに「ついに出た！」と思いました。そのあたりから、コミカルな表情をしたり、ギャグ要素も加わるようになったりして、フォーチュン／いおなというキャラクターに、より厚みが出たかなと。

――そんないおなが、隣のクラスの海藤くんから告白された際には、とても戸惑った表情を見せていました。

今回のシリーズでは恋愛が軸になっていることは以前から聞いていたのですが、3話で「恋愛禁止！」とブルーに言われたにもかかわらず、言われてからのほうが恋愛話が多いのが面白かったです。いおなと海藤くんの姿は、等身大の中学生っぽさがあって微笑ましかったし、大人っぽく見えても、いおなもやっぱり中学生なんだなと感じられました。『プリキュア』ファンの子どもたちには、いおなの恋愛がどう見えていたのか気になります。

――シリーズの中でも、恋愛の話は印象に残っていますか？

そうですね。海藤くんとのデートの話は、普段ポンポンと言葉を紡ぐいおなが、戸惑ったりためらったりする間があることが不思議な感じで。気まずさとか照れくささとか、甘酸っぱさが詰まっていて印象的でした。海藤くんに関しては、中学生でここまで大人っぽい子はいないでしょうという話にもなりましたが（笑）。

――誠司もかなりできた男の子でしたよね。

リアルな中学生だと、女の子とふたりきりで話すのが照れくさい年齢になっていて、話さないことが増えているのかもしれませんよね。誠司もなんだかんだ言っても、「好き」ということは伝えられずにいましたし。でも、海藤くんはストレートに誠実に思いを伝えられる人だったので、女性キャストからの評価は高かったです。

――恋愛といえば、キャストの間ではレッ

ドが登場してから、ブルー派かレッド派かという話もあったとうかがいました。

先頭を切って話していたのが私です（笑）。私はレッドのファン代表ですね。『プリキュア』はアフレコの前にその日の映像をみんなで観る「通し見」をするのですが、44話で初めてレッドが出てきたときにVネックのセーターを着ていたのを見て、思わず声をあげてしまって。レッド役の井上和彦さんがその日はいらしていなかったので、最後のレッドしか登場しなくなる部分で映像を止めてもよかったのに、私があまりにも反応したからか、スタッフが最後まで観せてくれました（笑）。レッドが登場するたびに私が「レッド様レポート」をしていたら、（北川）里奈ちゃんや潘（めぐみ）ちゃんにも「今週のレッド様」が浸透していって。48話でラブリーがレッドに抱きしめられたときには、本当にうらやましかった。レッドが地球を滅ぼそうとする目的はワガママな部分もありましたが、レッドならいいじゃんと思うくらいにレッド推しでしたね（笑）。

——今作のプリキュアのキャストは年齢が近かったので、お気に入りのキャラクターの話も盛り上がったようですね。

プリキュア4人のうち、まめぐ（中島愛）と潘ちゃんと私は同い年だったんです。里奈ちゃんは年下で、若手の子だけがプリキュアに集まることはこれまでなかったと言われて。女子校みたいなノリになっていました。ですからそのぶん、先輩たちにはすごく助けていただきました。先輩たちもみなさんノリがよくて、誕生日のサプライズはもちろん、誰かが旅行に行けば全員にお土産を買ってきてくれるし、時間が合えばアフレコ後によくごはんを食べに行っていましたね。先輩たちとゆっくりお話できることはなかなかないのですが、その中でも私はホッシーワ役の岡村明美さんとお酒の話題で盛り上がれたのがうれしかったです。

4人で名乗れることが本当にうれしかった

——フォーチュン／いおなは、本編でプリンセス／ひめとの絡みが多かったですね。

仲直りをしてから、しばらくひめをフルネームで呼んでいたときは固いな～と思っていました（笑）。でも、最終話ではひめがブルースカイ王国に帰っちゃうんじゃないかと心配になって、いおなが思わず心配な気持ちを口に出しちゃうくらい仲よくなれていたことがうれしかったです。後半はよくいっしょの画面に入っていることも多くて、なかなかいいコンビになれたのではないかなと思っています。

——プリキュア以外のキャラクターとの絡みでは、フォーチュン／いおなには、ぐらさんという妖精がいました。

プリンセスと和解する直前、プリンセスが集めたプリカードを全部渡してくれたのですが、フォーチュンとしては使いたいけどプリンセスの力を借りるわけにはいかないって、葛藤していたんですね。その背中をぐらさんが押してくれたエピソードが、とても印象に残っています。ぐらさんは元々はフォーチュンの姉であるテンダーの妖精でしたが、見た目は子どもっぽいし、口調はちょっとチャラいんだけど、すごく説得力があって。常に張り詰めていたフォーチュンが、唯一甘えられる存在だったのだろうなと思うと、一心同体の素敵なパートナーだったと思います。

——ご自身といおなに共通点は？

おばちゃんっぽいところ？（笑）私は買い物で集められるポイントにはそこまでこだわりませんが、やはり安いスーパーで買い物をしたいなとは思いますね。乳製品を奥から取ったり、積んである商品を下から取って賞味期限を確認したりは、よくしています。同じ値段でグラム数が違うときは、ひとりでどちらのほうがお得かも考えています。

——フォーチュンは22話までラブリーたちの仲間になりませんでしたから、もどかしい部分もあったのではないですか？

正式に仲間になったのは、放送が始まってから半年を過ぎたところでしたが、それまではあっという間でしたね。できればほかのみんなといっしょに戦いたいという思いは、やはり強かったです。フォーチュンの正体がいおなだとわかるまでは、名乗りもありませんでしたから、早く名乗りたいなと思っていました。4人そろっての名乗りも早く経験してみたかった。

ですから、実際に全員で名乗りができるようになったときは、すごくうれしかった。名乗りをすることでプリキュアなんだとかみしめることができましたし、プリキュアとしてのスイッチが自分の中でも入ったんじゃないかな。残り10話くらいになったときには、「あと何回、キュアフォーチュンって言えるんだろう」って数えるようになってしまっていましたね。

——そんな戸松さんにとって『プリキュア』とは、どんな存在ですか？

もう一度、夢を見させてくれる存在です。私自身は、『プリキュア』が始まったころはリアルタイムで観る年齢を過ぎてしまっていたのですが、アニメに夢をもらっていた時代はあって。今、『プリキュア』に携わることで、今度は子どもたちに夢を与えることができるんだと思うと、やはり特別なものですね。実際に1年間プリキュアを演じてみて、子ども向けの番組ではありますが、大人が観てもすごく大切だなと思えることを教えてくれている。自分がその教える立場になれたことは、人生の財産になりました。『ハピネスチャージプリキュア！』は、その名前の通り、みなさんに幸せを届けるということがテーマでした。年齢性別を問わず、大人が観てもハッと感銘を受ける瞬間がある作品だとも思います。観てくださった方に、なんらかの形で幸せを届けられていたらうれしいです。大人になってから「『ハピネスチャージプリキュア！』を観て育ちました」と言えるくらいに、一生の思い出として残っていてくれたら幸せです。フォーチュンたちの物語は、アニメとして放送される部分は終わりましたが、この先も続いていくものです。これからも彼女たちのことを忘れないで、思い出として残していてくれれば、と思います。1年間応援してくれて、ありがとうございました。

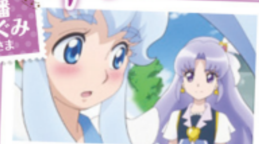
PROFILE

【とまつ・はるか】
2月4日生まれ。愛知県出身。主なアニメの出演作品は、『妖怪ウォッチ』（天野景太<ケータ>役）、『ソードアート・オンラインII』（アスナ役）など。



戸松遥からプリキュアのみんなへ

潘めぐみさま



プリンセスとフォーチュンは、最初は敵対する関係だったけど、和解できて一緒に行動するシーンも増えて楽しかったです。フォーチュンとプリンセスのふたりで歌うキャラクターソングでは、先に潘ちゃんがレコーディングをしていたのですが、それには潘ちゃんの感情がこもっていて、思わず泣いてしまいました。プリンセスの無邪気さには常に癒されていました。本当にありがとう。

中島愛さま



座長であるラブリーを演じるのはプレッシャーだったと思うのですが、すごく頑張ってくれていました。自分はリーダー気質でもないし、引っ張るのも仕切るのも苦手だと言うなか、スタッフやキャストのスケジュールを合わせてごはんに行こうと誘ってくれたし、すごく頑張っていた。私たちにとって、まめぐこそがリーダーです。いっしょに戦えてよかった。1年間お疲れさまでした。

北川里奈さま



里奈ちゃんとは、現場が一緒になったのは初めてでしたが、席が隣だったこともあって、すごく仲よくなれたと思います。しっかりしているように見えて、ときどき予想もしない発言をしてくるのも楽しかったです。里奈ちゃんからもゆうこからも、ほんわかした気持ちをもらっていました。映画のときに、ハニーとフォーチュンのツーショットのシーンが多かったのも、すごくうれしかったです。

SPECIAL MESSAGE

プリキュアたちを支えた妖精&人々と、プリキュアの敵となった幻影帝国の三幹部、
そしてレッドを演じた声優陣からのメッセージを紹介します♪

妖精のみなさん&誠司&ブルーへのQ

❶『プリキュア』に出演すると決定したときの感想　❷キャラクターの印象
❸役作りで気をつけたこと　❹印象的だったセリフやエピソード
❺今、プリキュアの4人に声をかけるとしたら？
❻最終話まで終わっての感想　❼ファンへのメッセージ



ぐらさん役 小堀幸

❶ 子どものころから憧れていたプリキュア。その妖精になれるなんて、うれしくてうれしくて、夢のような気持ちでした！

❷ ぐらさんは渋くてかっこよくて、妖精さんでいながら、「みんなのお父さん」みたいだと思います（笑）。しぐさや表情は本当にかわいくて、ギャップにどんどん惹かれました。

❸「もっとハードボイルドに！」と長峯SDからご指示をいただくことが多かったです。リボンやぐらさんは、歴代妖精さんのプリティーなかわいらしさと比べて、しっかり者のお父さんお母さんのような立場を担っていたので、私自身も「しっかりしなきゃ！」と思いながら演じました。

❹ 守る強さを知り、「もう一度プリキュアの力を！」と願ういおな、「それでこそいおなだぜ！」と答えるぐらさんの言葉が強く心に残っています。ぐらさんの出番がないときはスタジオのすみっこで見学させていただいたのですが、あるときリボンちゃん役の松井菜桜子さんが、「隣においで」とやさしくおっしゃってくださったことが、とてもうれしかったです。

❺ 相手を大切に思う気持ち、あきらめない強さを見つけた彼女たちは、まさに最強です。これからもお互いを思って、ハピネスな毎日を過ごしてくれよな！

❻ めぐみ、ひめ、ゆうこ、いおな、誠司にブルーに三幹部。みんなと過ごした日々は幸せハピネスなたからもの!!　みなさまの心のどこかに、『ハピネスチャージ』の世界が生き続けてくれたらうれしいです。

❼ 1年間、『ハピネスチャージプリキュア！』を応援してくださり、本当にありがとうございました!!　そして、『プリキュア』シリーズはまだまだ続きます。『ハピネスチャージ』はもちろん、これからもみんなの応援、よろしくな！



ブルー役 山本匠馬

❶ 正直「僕が!?」という信じられない気持ちで一杯でした。みんなの足を引っ張らないかなぁと不安になったところはありましたが、それと同時に精一杯演じたいと思いました。

❷ 最初は"神様"という手の届かない絶対的な存在なのかなと思いましたが、回が進むにつれて「神様だって人間と同じような悩みもあるんだ」というギャップを感じるようになり、より親しみが増しました。

❸ "何事に対しても否定しないし、人の意見を尊重する平等さ"を気にして役作りをしました。でも神と言えど悩みや不安もあるし、堅く演じるよりも、もっと人間側に寄せてみてもいいんじゃないかなという話はありました。

❹ 印象に残ったセリフは、やはり「プリキュアは恋愛禁止」ですね！　その話以降、アフレコ現場ではブルーに対してみなさんの当たりが強くなってきまして……（笑）。収録前のテストではキャストからアドリブで、ブルーに「お前が恋愛禁止とか言うなー！」と言われたことが印象に残っています（笑）。

❺ ブルー「今までたくさん苦労をかけてしまったね、でもその苦労があるこそ今の君たちはとても輝いているよ」
僕「だからお前が言うなー！（笑）」

❻「もっとやりたい！」と思いました。ブルーとレッドの後日談で惑星レッドの再建とか、プリキュアたちの大人になっていく様子とかを想像すると楽しくて。でも、ここで終わるからまた次に繋がっていくんだなぁと思いました。

❼ 1年間、『ハピネスチャージプリキュア！』を応援していただきまして、ありがとうございました。映画の舞台挨拶では異例となる、初の男性キャストとして登壇させていただきましたことを誇りに思っています（笑）。話はここで終わってしまいますが、みなさまの中で思い出に残る作品になれたなら幸せです。本当にありがとうございました！



リボン役 松井菜桜子

❶「え？　まさか私が……よい子が抱きしめるぬいぐるみや、お子様のパンツにプリントされるかわいいキャラクターになれる……!?」と信じられない思いで、出演依頼の電話を受けました。

❷ リボンは、かわいいなかにも大人っぽさがあって、包容力を感じました。妖精役は経験がほとんどなかったので、最初はチャレンジとしての面白さがありましたが、あっという間にリボンが丸ごと身体に馴染んでいて、びっくりしました。

❸ 最初にオファーをいただいたときに、（スタッフの方々が）「ただかわいいだけの存在でなく、今作ではプリキュアたちを時には叱り、励ますような妖精にしたいです。だから松井さんにお願いしました」とおっしゃってくださったので、母性を持ったキャラクター作りを心がけました。

❹ エンディングの歌い踊るプリキュアたちの周りで、飛んだり跳ねたりしているリボンとぐらさんを見るのが、毎回楽しみでした。収録スタジオでのプリキュアたちは、普段からとても気配りができて、みんなを思いやる心がプリキュアそのものでした。「なぜプリキュアに選ばれたのか？」が、よくわかりました。

❺ みんなを見守っているようでいて、実はプリキュア4人に支えられていたのですわ！　1年間、いっしょにいてくれてありがとう♡　ラブリー！　プリンセス！　ハニー！　フォーチュン！

❻ 10周年の『プリキュア』作品に参加することができて、とても光栄でした。私の部屋には、今もリボンの大きなぬいぐるみや文房具など、さまざまなプリキュアグッズが並んでいます。見るだけで幸せな気持ちになれる、プリキュアたちやリボン、ぐらさんといっしょにいる時間を作ってくださった、すべてのみなさんに感謝しています。

❼ 愛、友情、夢、希望、女の子の大好きなキラキラした想いが、そのままプリキュアなのだと思います。そんな素晴らしい「ハピネスチャージプリキュア！」の世界を、どうぞこれからも忘れないでください。ありがとうございました。



相楽誠司役 金本涼輔

❶ まだ駆け出し声優といっていい僕に、主役であるピンクの子の幼なじみキャラが決まったと聞いて、めちゃくちゃ驚きました。「そんなに出番はないかもしれないけど、こんなすごい作品に出られるんだ、頑張ろう！」なんて、のんきなことを考えていました。

❷ 誠司くんは、とてもしっかりとした自分の価値観を持っている子で、最後までブレませんでした。唯一変化があったのは、やはり恋心でしょう。いろいろ言われるブルー様ですが、彼のおかげで、誠司は自分のめぐみに対する気持ちと向き合うことができたと思っています。

❸ 収録のはじめに、長峯達也SDから「誠司は真のイケメンだから男女分け隔てなく、同じ態度で接するんだ」と言われました。人への気遣いができすぎる子なだけに、あざとくならないようには気をつけました。

❹ めぐみがブルーに失恋して、落ち込んでいるところを慰める誠司は、もう見ていて、演じていてつらかったです。こんなにもめぐみのことを理解して、気にかけているのに……。「めぐみも振り向いてやれよ！」なんて思っていました！　アフレコ現場では、誠司のセリフのあとには「キャー」、ブルー様のセリフのあとにはクスクスと笑いがよく生まれていました。現場の僕たちが一番作品を楽しんでいたんじゃないかなと思います。

❺ 僕は単純に一視聴者の目線で見て、この作品がすごく好きだし、それはプリキュアたちの「熱」みたいなものが、画面を通して伝わってくるからだと思います。毎シリーズ、新たなプリキュアが生まれ、それはこれからも続いていくことと思いますが、この作品に熱狂した子どもたち、そして僕にとっては、プリキュアといえば、『ハピネスチャージプリキュア！』です！

❻ あのラストシーンはジーンときてしまいますね。めぐみと誠司のこれからについてはいろいろな意見があるでしょうが……あのふたりは、これからもずっと幸せにぴかりが丘で暮らしていると信じています。

❼ 1年間、ご覧になってくださって、本当にありがとうございました！　『プリキュア』という作品には素晴らしいファンの方がたくさんいらっしゃるんだなとつくづく感じました。この作品を観てくださったすべてのみなさまに、感謝の気持ちしかありません。

ミラージュ＆ファントムへのQ

❶『プリキュア』に出演すると決定したときの感想　❷キャラクターの印象
❸役作りで気をつけたこと　❹最終話まで終わっての感想
❺印象的だったセリフやエピソード　❻ファンへのメッセージ



ファントム／ファンファン役 野島裕史

❶ 前回出演させていただいた『ハートキャッチプリキュア！』のコブラージャから、それほど間が経っていない気がしたので正直驚きました。でもコブラージャとは役柄がまったく違うので納得できました。
❷ 初見ではクールなイケメンに見えてしまったのですが、台本を読み進めていくと、熱くてまっすぐでいいヤツなんだなと思いました。熱の温度も回を重ねるごとに上がっていき……そして最後はまさかの妖精(笑)。
❸ 初めのファントムでは、ほとんど要望などはありませんでした。思いのまま熱くまっすぐを心がけて演じていました。何より妖精のファンファンになってからですね、スタッフさんとも話し合いながら、声を変えすぎないようにしながら、かわいくなりつつファントムの熱さを残そうということになりました。
❹ 正直、もう少し戦いたかった。とても和やかでチームの結束力のある現場だったので、さびしいです。その後のエピソードも気になってしまいます。何かで描かれたらいいのになぁ。
❺ 印象に残っているセリフは、41話のファントムの「お前が言うなぁ!!!」です。ぶっちゃけ僕の気持ちも込めて最大限の怒りを込めて叫びました。ファントムにとってブルーのあのセリフはムカつきますよ(笑)。その後の回でファンファンになったときも印象に残っていますねぇ。こんなカワイイのかよ!? って。
❻ 毎回パワフルで魅力的な『プリキュア』シリーズ。今回の恋愛多めな『ハピネスチャージプリキュア！』、いかがでしたでしょうか。より感情移入しやすかったように思います。ファントムのまっすぐな気持ちも恋愛に通じるものがあると思います。これを機会にいい恋愛をしてください!!



クイーンミラージュ／キュアミラージュ役 國府田マリ子

❶『スマイルプリキュア！』の星空みゆきちゃんのママに続いて出演させていただけるなんて感激です！ どんな役かなぁ、ってとってもドキドキワクワクしました。
❷ 傷ついて、もう傷つきたくなくて、強がっているような、悲しいさびしい印象を受けました。ミラージュはあまり多くを語らないキャラクターだったので、ミラージュ戦(後半、真実が明らかになってきたころ)まではあまり印象は変わりませんでした。操られていたのが解けて、本来のミラージュに戻ったときに、以前は「やさしくて弱かった」ミラージュがたくさんの時間を重ねて(まさかの300年！)、最後は「やさしくて強い」女性になった、そんな印象です。
❸ あまりこうしてほしい、こうやってください、というお話はありませんでした。役作りで常に気をつけていたのは、老若男女が楽しむ番組だということ。悪だからといってリアルに怖さを出さないように、子どもたちがリアルに恐怖を感じないよう心がけました。あんまり怖いと、TVの前から逃げちゃうから(笑)。
❹ ひと言でいえば、本当にハピネスチャージ！　な作品でした(by國府田マリ子)。心残りといえば、惑星レッドにとどまらずに地球に戻って『プリキュアオールスターズ』に出たかったわ……。変身シーンも、やってみたかったな(byキュアミラージュ)です(笑)。
❺ やっぱり一番印象に残っているのはミラージュ戦です。作画もすごい迫力で、なのに、はかなくかわいくて。今まで悲しみ、苦しみ、愛憎と孤独を抱きしめて生きてきたミラージュの心を演じました。「私の願いが叶うのよ……」アフレコ現場はいつも楽しくにぎやかで幸せハピネスふるふるチャージ！　でした。いつも女子目線でブルーのプレイボーイっぷりにツッコミを入れたり(笑)、レッド様のかっこよさやめちゃくちゃな言いぶんに、役者陣きゃーきゃー言っていました。「地球が青いからだ！」「ラブリー、俺を愛せ！」とか。ズバリ、楽しかった!!　セリフも面白いけれど、台本のト書きがいつも最高でした!!　神様が巫女のミラージュを振り切って去るシーンのト書きは「徒歩で逃げる神様」とか、ほかのシーンも「中学生に囲まれる神様」とか(笑)。毎回密かに楽しみにしていました。
❻ 1年間、温かい応援、ありがとうございました!!　またいつかどこかで。必ずお会いしましょう。ミラージュより。

幻影帝国のみなさんへのQ

❶『プリキュア』に出演すると決定したときの感想　❷キャラクターの印象
❸役作りで気をつけたこと　❹最終話まで終わっての感想
❺印象的だったセリフやエピソード　❻ファンへのメッセージ



レッド役 井上和彦

❶「『プリキュア』！　あの『プリキュア』に出るのか～！」とびっくりしました。どんな役なんだろうとワクワクしたのを覚えています。
❷ はじめは鏡の中にいてシルエットしか見えなかったので、どんな人かわからなかったのですが……。ブルーと兄弟ということだけは聞いていたので、そこからそれないように気を使って演じていました。
❸ ミステリアスな役なので、ひと言のセリフでも印象に残るように、見ている人の心に引っかかるように演じたつもりです。
❹ 無事、最終話まで来られてほっとしています。毎週、出演者のみなさんにキラキラしたハピネスをいただいていたので幸せでした。
❺ 後半に行くに従ってセリフはどんどん増えていきましたが、レッドの代表的なセリフは「幸せは一瞬、愛は幻」。このセリフが一番印象的だし、彼のすべての原動力になっている言葉だと思います。
❻ 最後まで応援していただいてありがとうございました。心に刺さるエピソードや言葉がたくさんありました。みなさまの心に、いつまでもハピネスがありますようにー！



オレスキー役 子安武人

❶ どんな役だろう、楽しめるといいな。
❷ お！　意外にガッシリしてるな。お笑い担当なのかな(笑)。
❸ 気合です(笑)。あとは、彼はいたってマジメにやっているんだというところ。
❹ 早いものですね。これでサヨナラするのは少しさびしいキャラクターでした。
❺ いろいろ表情豊かに演出されていて、出演回はどれも楽しかったです。
❻ 最後までオレスキーを応援してくださってありがとうございました。特にファンクラブ会員のみなさまには、何より感謝です!!　ありがとう!!



ナマケルダ役 金尾哲夫

❶ ゴメンナサイ。当時は「プリキュア」という言葉さえ知らなかったんです。洋画の吹き替えの仕事が多く、アニメの情報にうとかったんですね。のちに人気番組と知り、じわじわとやる気が湧いてきたという感じでした。
❷「(ナマケルダが)若すぎるー！　本当に俺でいいのかよー！」と思いましたね。しかし私の実年齢を恨んでも仕方ありません。当初の負い目は次第に、開き直りとなりました。やがてナマケルダが愛おしくなってきました。
❸ 開き直ったら自由です！　妬み、嫉み、ひねくれ、諦観、怠惰、虚無などなど、ナマケルダのキャラクターを楽しみました。スタッフさんから「もっと若く作ってくれ」などとは言われませんでした。
❹ 子どもたちになんのてらいもなく、わかりやすく愛情、友情などをストレートに伝えるいい番組であったと感じています。またスタッフ、キャストのみなさんもその番組の想いを共有していて、とても温かみのある現場であったことに、感謝、感謝です。
❺ 野球対決のエピソードで、ナマケルダの「プレイボーール!!」というセリフがあったのですが、本番で私は「プレイボーーイ!!」と思いっきり自信を持って言ってしまいました。私の人生経験の中で、数少ない赤面状態のひとつとなりました。
❻ プリキュアたちの愛情・友情・勇気はこれからもずっと続くでしょう。人が生きていくうえでとても大事なこと。それを彼女たちは迷いながらも、ひとつひとつ見つけていきます。みなさんもプリキュアたちといっしょに見つけましょう！　本当にありがとうございました！



ホッシーワ役 岡村明美

❶「悪いほうです」と言われたので、ついに私にも悪役がキターっと喜びました。悪役は上手な先輩がなるイメージがあったので、うれしかったです。
❷ 第一印象はとってもかわいいと思いました。「なんでも欲しがる欲深き貴婦人」という設定でしたが、回が進むにつれ「自称貴婦人」であることがわかりました。
❸ 自由にやってくださいと言っていただいたので、本当に自由にやらせていただきました。
❹ 最終回に星和歌子という保母さんになって登場できてうれしかったです。愛を感じました。
❺ キュアハニーとの歌合戦は忘れられません。アフレコ現場では自由度が高いぶん、集中力がすごかったと思います。
❻『ハピネスチャージプリキュア！』を愛していただきありがとうございました。そして、幻影帝国を愛してくださっていたみなさん、ありがとうございました。愛の力で私たちも幸せになりました。みなさんもお幸せに!!

GUIDE 第1話 第49話

各話でキュアラブリーやめぐみたちが見せたフォームチェンジや変身はこのアイコンをチェック！



▲プリンセスは一度もサイアークを倒していない。今回はフォーチュンに救われた







▲ひめの変身を見ていたので、変身方法や変身後の名乗りもバッチリ決まった





第1話 愛が大好き！キュアラブリー誕生！

みんなで幸せになる！それがめぐみのハピネス

世界を最悪に変えようとするクイーンミラージュが率いる幻影帝国は、地球の各地に幹部を送り込み、鏡に閉じ込めた人々の心から生まれるサイアークを使い勢力を広げていた。ぴかりが丘に現れたナマケルダにキュアプリンセスが立ち向かうが、まるで歯が立たない。キュアプリンセスの正体は、ブルースカイ王国の王女・ひめ。落ち込むひめに地球の神様・ブルーは「愛の結晶」を渡し、友達を見つけるようにアドバイスした。ひめが投げた愛の結晶が偶然当たったのが、愛乃めぐみだ。ひめが変身して戦う姿を見ためぐみの「友達を助けたい！」という強い愛情に愛の結晶が反応。プリチェンミラーとプリカードを得ためぐみは、キュアラブリーに変身した！



▶めぐみとひめは、ファッションの話をきっかけにして打ち解けることができた



▲『シャーロック・ホームズ』風の衣装と虫メガネで、ひめの足跡をたどっていった

▼ブルーは正真正銘の地球の神様。やさしい微笑みに、めぐみの瞳はハートに♥





▼ふたりは戦いに向かう前にキメポーズをあれこれ考えていたが、これに決定！





▶サイアークの浄化に初めて成功したひめは、初のプリカードを手にして大喜び



第2話 ひめとめぐみの友情！ハピネスチャージプリキュア結成！！

幻影帝国の正体が判明 ひめ&めぐみが初勝利！

弱気になったキュアプリンセスは、キュアラブリーを連れてサイアークから逃げ出す。めぐみは、ひめが身を寄せるブルースカイ王国の大使館でブルーと出会い、幻影帝国のクイーンミラージュたちが「アクシア」と呼ばれる箱に封印されていたことを聞かされる。ブルーに「プリキュアとして幻影帝国からみんなを守ってほしい」と頼まれためぐみは快く引き受けるが、サイアークとの戦いが怖いひめは逃げ出してしまう。街のベンチで落ち込むひめだが、めぐみの温かい励ましで自信を取り戻し、ふたりはナマケルダとサイアークのもとへ。キュアプリンセスは初めてサイアークを浄化することに成功し、鏡に捕らわれていた少女を救出。ふたりは「頑張ろうね」と微笑んだ。



▶アクシアが開封され、封印されていたクイーンミラージュたちが解放された

【第2話】STAFF

脚本／成田良美　原画／星川信芳、原田節子、安田陽子、吉田巨良、田中伸昭、北田美弥子、丸山匡彦、鈴木勇、河村信道、松永絵美、藤原舞、福本泰子、フランシス・カネダ、ポール・アンニョヌエボ、レジー・マナバット、ノエル・アンニョヌエボ、レム・バレンシア、ユージン・アイソン、フリッツ・ウラン、ボビー・デラベーニャ、セザール・デレオン、デニス・カブラオ、マルヴィン・メンドーザ、エドマル・クリストモ、大内智美、松田千鶴、完甘美也子、濱野裕一、飯飼一幸　背景レイアウト／下川忠海　背景／デザインオフィス・メカマン、高橋英次、上原里香、鈴木祥太、Toei Phils.、ルーベン・オレンセ　CGデザイナー／宮本浩史、吉岡望、木島啓介、清水みなみ、中村佳嗣、林沙樹、廣澤精恵、松澤伸哉、小林真理、藤澤菜月、竹中祐城、長谷川太陽、真庭秀明　演出助手／鎌谷悠　製作進行／澤守洸　美術／田中美紀　作画監督／赤田信人　絵コンテ／入好さとる　演出／岩井隆央

【第1話】STAFF

脚本／成田良美　原画／北野幸広、高橋任治、松田千鶴、福島史士、増田誠治、大内智美、野津美智子　野澤隆、冨木由美子、兼高里圭、谷口健太、小松こずえ、山岡直子、福本泰子、完甘美也子、濱野裕一、板岡錦、大田和寛、清水隆正、杉山了蔵、上野ケン、星野守、浅井昭人、斉藤拓也、中村佳史、鹿間元子、丸山匡彦、ポール・アンニョヌエボ、神谷智大、大塚健、佐藤雅将、森田岳士、木曽勇太　背景／田中里緑、箕ミキ、飯野敏典、佐藤千恵、佐藤美幸、西田渚、いいだりえ　CGデザイナー／宮本浩史、岩本千尋、村田剛子、中谷純也、森山美里、本岡宏紀、金井弘樹、伊藤達弘、升井秀光、関祖輝、吉田満、渡部高志、宮澤孝介　演出助手／鈴木裕介　製作進行／堀越圭文　美術／増田竜太郎　作画監督／濱野裕一、小松こずえ　演出／長峯達也



ハピネスチャージ
プリキュアの活躍
を振り返る!

STORY



▲2話でゲットしたプリカードを使って変身し、サイアークが暴れる現場へ急行











▶「オレ!」のキメポーズで大爆発が巻き起こり、チョイアークの群れを吹き飛ばす

第3話 秘密がばれちゃった!? プリキュアの正体は絶対秘密!!

隣の家の頼りになる男の子 相楽誠司がサポート役に!

ブルーは、めぐみとひめに連絡用アイテム「キュアライン」を渡し、プリキュアであることは家族にも秘密と約束させる。だが、隣の家に住む幼なじみの相楽誠司には、めぐみが隠しごとをしているのはバレバレ。そんな誠司が、幻影帝国の幹部・ホッシーワの攻撃でピンチに。駆けつけためぐみは「秘密を守る約束より、今は誠司を助けるほうが大事」と、誠司が見ている前で変身。幻影帝国を退けためぐみとひめは、誠司を大使館へ連れて行き、すべてを話す。プリキュア活動に協力することを誓う誠司に、ブルーは「誠司とめぐみは恋人なのかい?」と質問。プリキュアは恋愛禁止だと言うのだ。「ふたりは兄弟のような関係」と答える誠司にも、キュアラインが渡された。



◀ホッシーワはお菓子好き。特に「他人の不幸は蜜の味、不幸から生まれるお菓子は極上」らしい

第4話 転校生はお姫様!! ひめの友達ゲット大作戦!!

人見知りで学校嫌いのひめが中学校を守る!

ひめも、めぐみや誠司と同じ中学校「ぴかりが丘学園」へ通うことになった。ところが、知らない人の前だと緊張してしまうひめは、教室で失神して保健室へ運ばれる。心配した大森ゆうこが見舞いに来るが、恥ずかしがったひめは体育倉庫に隠れてしまう。そこには生徒が声をかけてくれないことに悩む先生がいた。ひめに励まされて教室に戻る先生だが、ナマケルダによって鏡へ閉じ込められる。学校をなくしてしまおうとするナマケルダ。ひめは、キュアプリンセスに変身し、ゆうこと友達になるために学校を守ろうとする。キュアプリンセスはキュアラブリーと共にサイアークを退け、学校に平和が戻った。ひめは、勇気を出して、ゆうこと友達になる握手を交わした。



▶悩みの原因は「自分が心を開いていないから」という先生のひと言が、ひめに刺さる





▶保健室から逃げ出したひめは、アイテム「煙幕」で、めぐみの追跡をかわす



▲雪の結晶をふりまき、踊りが終わると同時に周囲にいる敵が真っ白に凍りつく



◀ゆうこは、2話でも初対面のひめを手作りアメで励ました。ふたりは友達に!



▶席の周りに集まったクラスメイトから次々に質問されて、ひめはグロッキー

【第4話】STAFF

脚本/田中仁　原画/飯島秀一、星川信芳、野津美智子、北野幸広、井上みゆき、永澤謙一、金田栄二、山岡直子、松田千鶴、野澤隆、石井ゆみこ、廣畑由美、山田香央里、中弥幸一、木元政恵、大内智美、G&Gディレクション　背景レイアウト/下川忠海　背景/佐藤美幸、佐藤千恵、西田渚、いいだりえ、増田竜太郎、Toei Phils.、エルウィン・サデーア　CGデザイナー/宮本浩史、吉岡望、木島啓介、清水みなみ、中村佳嗣、本岡宏紀、金井弘樹、真庭秀明、竹中佑城　演出助手/鎌谷悠　製作進行/堀越圭文　美術/田中俊緑　作画監督/山岡直子　演出/畑野森生

【第3話】STAFF

脚本/成田良美　原画/河野宏之、永島英樹、藤井孝博、石川修、フランシス・カネダ、上野ケン　背景レイアウト/本間薫、鷲崎博　背景/篠谷勝己、Toei Phils.、グレース・トーラー　CGデザイナー/宮本浩史、岩本千尋、村田則子、森山美里、伊藤達弘、升井秀光、本岡宏紀、金井弘樹、関祖輝、吉田満、渡部高志、宮澤孝介、真庭秀明　演出助手・製作進行/山口晴生　美術/斉藤優　作画監督/河野宏之　絵コンテ/越智一裕　演出/中尾幸彦

第5話 めぐみとひめ！ 仲良しおたすけ大作戦!!

見えすいた罠にかかるお人好しすぎるめぐみ

学校の帰り道、めぐみは次々と人助けをする。彼女の人助けに付き合うひめは、ちょっとお疲れ。めぐみの家で彼女の母親のパンケーキをごちそうになったひめは、幻影帝国に支配された母国で、鏡に閉じ込められた母親を思い出す。めぐみは、プリカードのファイルがいっぱいになると叶えられるという願いを「病弱なめぐみの母親の健康」と、ひめの「母国を取り戻す」にしようと提案する。その後、お人好しなキュアラブリーは被害者を装うホッシーワの罠にはまる。彼女をバカにするホッシーワに怒ったキュアプリンセスが反撃し、騒動は一件落着。ひめは、めぐみが人助けをする気持ちがわかったような気がした。

▼キュアラブリーが跳びはねると空中に現れる音符が、ダンスの終了と共に敵の頭上に落下





▲キュアプリンセスは、キュアラブリーのお人好しな性格をかばう











▲チョイアークに襲われる女性を装うホッシーワの罠

第6話 リボンの優しさ!! 料理って愛情なんです!!

ごはんの献立をめぐりひめとリボンが激突！

昼食の献立でワガママを言うひめがリボンと大ゲンカ。大使館を飛び出したひめは、ランニング中のゆうこに誘われて彼女の家へ。ゆうこの家は「大森ごはん」という弁当店。ゆうこが心を込めて料理の準備をしているのを知ったひめは、リボンも、ひめのことを思って料理を作ってくれていたと反省。そこへナマケルダが現れて、大森ごはんを破壊しようとする。プリキュアに変身したひめは、キュアラブリーといっしょに駆けつけたリボンに感謝の気持ちを伝え、サイアークの浄化に成功。仲直りしたひめとリボンだったが、夕食のメニューのことで、また言い合いに……。

▼グラタンを調理したリボンに「パンケーキを食べたい」とワガママを言うひめ









◀キュアプリンセスは、サイアークの攻撃をバリアで防ぎながら、苦労して料理を作ってくれるリボンの愛情に感謝の意を表した

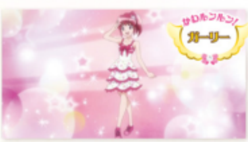




第7話 友情全開!! 二人の新たなる力!!

ふたりの強い絆が生み出したコラボ技が炸裂

ひめからパーティーの招待状をもらっためぐみが、準備を手伝おうと約束の2時間前に大使館へ。応接室で待ってと言われためぐみだが、リボンといっしょにケーキを作ってしまい、怒ったひめに大使館から追い出されてしまった。リボンから「ケーキはめぐみへのサプライズだった」と聞いて、めぐみは反省。ブルーからの連絡で、ひめがひとりでサイアークと戦っていると知っためぐみが急行し、ふたりは仲直り。絆を強めたふたりは、初の合体技でサイアークを浄化。のちに改めて開かれたパーティーは、ひめとめぐみが友達になって100日目を記念するお祝いだった。



◀ジャージ姿で訪れためぐみをひめが素敵にコーディネート♥

▼めぐみの手伝いを断わるひめ



＼増田竜太郎、田中里緑、飯野敏典　**CGデザイナー**／宮本浩史、岩本千尋、村田則子、森山美里、伊藤達弘、升井秀光、本岡宏紀、金井弘樹、関祖輝、吉田満、渡部高志、宮澤孝介、真庭秀明　**演出助手・製作進行**／山口晩生　**美術**／佐藤千恵　**作画監督**／ジョウィー・カランギアン、フランシス・カネダ　**絵コンテ**／殿勝秀樹　**演出**／岩井隆央

【第6話】STAFF

脚本／小山真　**原画**／清水隆正、高橋任治、増田誠治、藤井慎吾、小松こずえ、福島史士、鹿間元子、大内哲美、冨木由美子、芹田明雄、上野ケン、松田千織　**背景レイアウト**／鶴崎博、本間薫、下川忠海　**背景**／猿谷勝己、宮本里香、チェン・ヤンフェイ、王明月、Toei Phils.、ネリート・アグーニャ　**CGデザイナー**／宮本浩史、吉岡望、木島啓介、清水みなみ、中村佳嗣、本岡宏紀、金井弘樹、真庭秀明　**演出助手**／鎌谷悠　**製作進行**／堀越圭文　**美術**／斉藤優　**作画監督**／上野ケン　**演出**／鎌倉由実

【第5話】STAFF

脚本／高橋ナツコ　**原画**／和田高彰、藤井芳徳、田中希果、榎本勝紀、河野宏之、永島英樹、山岡直子、小松こずえ、大内哲美、Toei Phils.　**背景**／萬ミキ、山下千歌、皆川真紀、増田竜太郎、丸山哲宏、いいだりえ、西田渚　**CGデザイナー**／宮本浩史、岩本千尋、村田則子、森山美里、伊藤達弘、升井秀光、本岡宏紀、金井弘樹、関祖輝、吉田満、渡部高志、宮澤孝介、真庭秀明　**演出助手**／鈴木裕介　**製作進行**／澤守洸　**美術**／飯野敏典　**作画監督**／高橋晃　**絵コンテ**／越田知明　**演出**／三塚雅人





第8話 友情の危機!! ミスフォーチュンの不吉な予言!!

キュアプリンセスを信じてはいけない!?

世界中でプリキュアたちが大活躍! めぐみとひめも連戦連勝で気分は最高。そんなふたりが浴衣に着替えてぴかりが丘の祭りへ。誠司が通う空手道場が出している占いの店でふたりの仲を占ってもらったところ、なんと「めぐみとひめの未来は最悪」という結果に。ショックを受けためぐみとひめの前に、幻影帝国の新たな幹部・オレスキーが現れ、2体のサイアークを繰り出してくる。苦戦するキュアラブリーとキュアプリンセスだったが、キュアフォーチュンが現れて2体同時に浄化! お礼を言うキュアラブリーに、キュアフォーチュンは「キュアプリンセスを信じると災いが降りかかる」と忠告した。







▲インド、フランス、アメリカのプリキュアが絶好調!



◀キュアプリンセスは、ある理由から自分のことを毛嫌いしているキュアフォーチュンが苦手





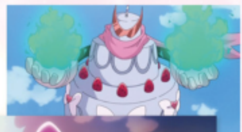
▶めぐみとひめを占うミスフォーチュンの正体は、隣のクラスの氷川いおな

第9話 空手でオッス!! プリキュアパワーアップ!?

強さを目指すふたりが氷川流空手道場に入門

めぐみとひめは、キュアフォーチュンのように強くなろうと考える。誠司に相談すると、彼はふたりを空手道場へ連れて行く。そこは、祭りでめぐみとひめを占ってくれた、いおなの祖父の道場だ。敵を倒す技を習いたいふたりだが、誠司が教えるのは防御方法ばかり。そこへオレスキーが登場。手強いサイアークにキュアラブリーとキュアプリンセスが苦戦していると、どこからか不思議な歌声が聴こえてくる。キュアハニーだ。「修業を思い出して」という彼女のアドバイスによって、ふたりはサイアークの攻撃をかわし、浄化に成功。キュアハニーは、微笑みを浮かべて去っていった。





▶ホッシーワは、鏡に閉じ込めた新郎新婦からウエディングケーキサイアークを生み出す



▲派手な攻撃技を期待したふたりは、防御の型を繰り返す地味な修業にガッカリ





▲それぞれの決め技を合体させて放つ。かけ声は「あなたにハッピーお届けデリバリー」





▶新しいプリキュアから修業を活かす助言と元気をもらったふたりは、一歩成長





▲キュアハニーの歌声を聴いた者は、敵も味方もホンワカと和んでしまうのだ♪





◀友達になってから100日目の記念日を祝うために、仲よくふたりで特製ケーキに入刀!

【第9話】STAFF

脚本/高橋ナツコ　原画/河野宏之、藤井孝博、永島英樹、小松こずえ、冨木由美子、河村信道、原田節子　背景レイアウト/鵜崎博、本間薫　背景/候臥、Toei Phils.、ルーベン・オレンセ　CGデザイナー/宮本浩史、岩本千尋、村田則子、森山美里、伊藤達弘、升井秀光、本岡宏紀、金井弘樹、関祖輝、吉田満、渡部高志、宮澤孝介、真庭秀明　演出助手/鎌谷悠　製作進行/山口晩生　美術/斉藤優　作画監督/河野宏之　絵コンテ/入好さとる　演出/鎌谷悠

【第8話】STAFF

脚本/田中仁　原画/星川信芳、原田節子、丸山正彦、濱野裕一、田中伸昭、福本泰子、北田美弥子、三輪幸彦、藤原舞、ひのたかふみ、安田陽子、永澤謙一、Toei Phils.、赤田信人、松田千織　背景/デザインオフィス・メカマン、高橋英次、石原信明、上原里香、邱文美、鈴木祥太、あくつみちよ　CGデザイナー/宮本浩史、吉岡望、木島啓介、清水みなみ、中村佳嗣、本岡宏紀、金井弘樹、真庭秀明　演出助手/鈴木裕介　製作進行/澤守洸　美術/田中美紀　作画監督/赤田信人　演出/門由利子

【第7話】STAFF

脚本/大場小ゆり　原画/フランシス・カネダ、ジョウィー・カランギアン、ポール・アンニョヌエボ、アリエス・ナリオ、レジー・マナバット、ノエル・アンニョヌエボ、レム・バレンシア、ユージン・アイソン、フリッツ・ウラン、ボビー・デラペーニャ、ノエル・バルモリア、セザール・デレオン、デニス・カブラオ、マルヴィン・メンドーサ、エドマル・クリストモ、濱野裕一、板岡錦　背景/篤ミキ、/

第10話 歌うプリキュア！キュアハニー登場!!

"ごはんのうた"が大流行 キュアハニーの正体が判明！

キュアハニーの歌が学校で大流行し、ひめは「歌が頭から離れない」と悩む。合唱部部長のひとみも「インパクトが強いので、調子を崩しかねない」と心配して部員が歌うのを禁止してしまう。だが、部員に「楽しく歌いたい」と反論されて落ち込むひとみが、ホッシーワに捕らえられる。めぐみとひめが変身してサイアークに立ち向かうが、苦戦。駆けつけたキュアハニーが反撃のチャンスを作り、キュアラブリーとキュアプリンセスが浄化に成功する。元に戻ったひとみは「楽しい音楽を目指す」と反省し、部員たちとキュアハニーの歌を合唱。キュアハニーの歌を「いいかもしれない」と認めたひめに喜ぶゆうこは、自分がキュアハニーだと明かすのだった。





▶ひとみが捕らわれて大音量を出すアンプサイアークが出現













第11話 謎のメッセージ！キュアハニーの秘密!!

ゆうこがキュアハニーの正体を隠していた理由は？

ゆうこは、めぐみがプリキュアになる少し前に、プリキュアになっていた。正体を隠していた理由を教えるために、ゆうこはめぐみたちをぴかり山へ誘う。そこには、ゆうこの祖父母が米を育てる田んぼが広がっていた。田植えを手伝うめぐみたちをナマケルダが襲撃。田んぼに足を取られて苦戦するキュアラブリーとキュアプリンセスだが、キュアハニーが決め技でサイアークを浄化した。田植えが終わり、おいしい米で作ったおにぎりをごちそうになるめぐみたちに、ゆうこが正体を教えなかった理由を語る。ゆうこは、めぐみとひめがプリキュアであることがうれしすぎるあまり、言い出すタイミングを逃していたのだった。









◀キュアハニーは、別の空間から生まれる巨大なクローバー型のエネルギー弾を激突させて、サイアークを浄化する





第12話 めぐみピンチ！プリキュア失格の危機!!

テストの成績が悪いとプリキュア活動禁止!?

学校のテストで、めぐみと野球部の健太が学年のワースト2という結果が出た。めぐみはビリ。ふたりは後日、再テストを受けることになった。それを知ったブルーは、めぐみに「再テストも不合格だったら、プリキュア活動は禁止」と宣言。勉強が苦手なめぐみは、健太といっしょにひめと誠司から勉強を教えてもらう。ところが、健太がナマケルダに捕らわれ、サイアークが出現。キュアラブリーがバッターになり、サイアークが投げる剛速球を打ち返す野球勝負を展開する。誠司の助言で次の投球をストレートと見抜いたキュアラブリーがホームランを放ち、サイアークを浄化。めぐみと健太は、無事に再テストに合格した。



▼メガネ美人の先生に変身したひめが、めぐみと健太に勉強をビシバシ教えちゃう！



【第10話】STAFF

脚本／小山真　原画／星野守、飯島秀一、野津美智子、増田誠治、河村信道、野澤隆、北野幸広、板岡錦、松田千織　背景／田中里緑、西田渚、増田竜太郎、佐藤千恵、いいだりえ、皆川真紀、丸山智宏、Toei Phils.、グレース・トーラー　CGデザイナー／宮本浩史、吉岡望、木島啓介、清水みなみ、中村佳絹、本岡宏紀、金井弘樹、真庭秀明　演出助手／鈴木裕介　製作進行／堀越圭文　美術／篤ミキ　作画監督／星野守　絵コンテ／寺田和男　演出／中尾幸彦

【第11話】STAFF

脚本／成田良美　原画／高橋任治、清水隆正、石川修、大内智美、板岡錦、山岡直子、原田節子、福島史士、永澤謙一、安田陽子、大田和寛、浦野裕一、藤井慎吾　背景／佐藤美幸、山下千歌、田中里緑、篤ミキ、西田渚、増田竜太郎、いいだりえ、Toei Phils.、エルウィン・サデーア　CGデザイナー／宮本浩史、岩本千尋、村田則子、森山美里、伊藤達弘、升井秀光、本岡宏紀、金井弘樹、関祖輝、吉田満、渡部高志、宮澤孝介、真庭秀明　演出助手／三塚雅人　製作進行／澤守洸　美術／飯野敏典　作画監督／山岡直子　演出／三塚雅人

【第12話】STAFF

…ネリート・アグーニャ　CGデザイナー／宮本浩史、吉岡望、木島啓介、清水みなみ、中村佳絹、小林真理、坂江美弥、本岡宏紀、金井弘樹、鄭載薫、真庭秀明　演出助手／鈴木裕介　製作進行／堀越圭文　美術／斉藤優　作画監督／上野ケン　絵コンテ／田中孝行　演出／岩井隆央







第13話 強敵登場！キュアフォーチュンVSプリキュアハンター！

ブルーに敵意をむき出す新たな強敵ファントム

恋愛ドラマを観ていたブルーが暗い顔で応接室を出る。めぐみが追いかけると、ブルーは「鏡を通って遊びに行こう」と提案。近所のぴかり神社へ来たふたりは、そこでプリキュアハンター・ファントムと遭遇する。めぐみが変身してブルーを守るが、手強いファントムには技が効かない。駆けつけたキュアフォーチュンの技も通用しなかった。ふたりを守るため「刺し違える」というブルーの覚悟の言葉を聞き、ファントムは去る。ブルーも正体を知らないキュアフォーチュンは、プリキュアの力を姉のキュアテンダーから譲り受けたと話す。それを聞いたブルーは自分が不幸の元だと嘆き、彼を励ますキュアラブリーを抱きしめた。


▲キュアラブリーとキュアフォーチュンが協力して技を出すが、浄化はできない


▲ブルーには、アクシアをめぐる悲しい恋の思い出があった






◀▲ぴかり神社に来ためぐみとブルーの前に、プリキュアハンターのファントムが現れた

第14話 ヒーロー登場！あいつはいかしたすごいやつ!!

女の子のために頑張るわんぱく坊主が大ピンチ

世界中のプリキュアがファントムに襲われる。不安を覚えるめぐみたちだが「落ち込んで暗くなるのは幻影帝国の思うつぼ、こんなときこそ明るくしよう」と励ますブルー。そこでめぐみたちは、子ども会の潮干狩りに参加することに。お面とマント姿でヒーローになりきるわんぱく坊主の卓真が、女の子のぶんの蛤も採ろうと頑張っていると、やる気が気に入らないオレスキーが登場。卓真たちを捕らえてサイアークを出現させる。浜辺を滅茶苦茶にしようとするサイアークだが、プリキュアの活躍で浄化された。楽しい潮干狩りの締めくくりは、苦労して採った蛤を焼いて食べること。あまりのおいしさに、みんなごはんのおかわりが止まらない。







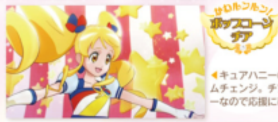


▼相手を炎で包む技で、なんと蛤サイアークをおいしそうに焼き上げる


▶卓真（右）は、えり(中央)のぶんの貝を採るために大奮闘
▼ゆうこやめぐみも潮干狩りを大満喫♪







◀キュアハニーのフォームチェンジ。チアリーダーなので応援にぴったり


▶声援を贈る仲間たち。サイアークの投球に規則性を見つけた誠司のアドバイスが勝負の決め手に





▲キュアラブリーが「ラブリー・ライジングバット」を出して野球勝負を挑んだ
◀ナマケルダもノリノリ


▶プリキュア禁止をまぬがれためぐみは「バリバリ活躍する」と張り切るが、ひめに「勉強もしなきゃダメ」と釘を刺される

【第14話】STAFF

脚本／高橋ナツコ　原画／フランシス・カネダ、ジョウィー・カランギアン、ポール・アンニュヌエボ、アリエス・ナリオ、レジー・マナバット、ノエル・アンニュヌエボ、レム・バレンシア、ユージン・アイソン、フリッツ・ウラン、ボビー・デラペーニャ、ノエル・バルモリア、セザール・デレオン、デニス・カブラオ、マルヴィン・メンドーザ、エドマル・クリストモ、飯島秀一、永島英樹、板岡錦、河野宏之　背景／デザインオフィス・メカマン、高橋英次、石原信明　CGデザイナー／宮本浩史、吉岡望、木島啓介、清水みなみ、中村佳嗣、小林真理、坂江美弥、本岡宏紀、金井弘樹、鄭載薫、真庭秀明　演出助手・製作進行／山口暁生　美術／田中美紀　作画監督／フランシス・カネダ、ジョウィー・カランギアン　絵コンテ／越田知明　演出／中尾幸彦

【第13話】STAFF

脚本／成田良美　原画／岡辰也、菊池勉、渡部穏寛、北村友幸、星本晶、仲村僖樹、藤原未来夫、速水広一、納武史、米田紘、藤田麗子、稲原みのり、吉崎雅博、井上和俊、遠藤麻未、佐藤修、佐藤絵美、谷口義明、山崎愛、小峰弥生、塚田優哉、嶋田聡史、静佳見、栗崎健太郎、石井邦洋、金城美保、下地彩加　背景／篤三キ、田中里緑、いいだりえ、佐藤美幸、飯野敏典、増田竜太郎　CGデザイナー／宮本浩史、岩本千尋、村田則子、森山美里、伊藤達弘、升井秀光、本岡宏紀、金井弘樹、関根輝、吉田満、渡部高志、宮澤孝介、真庭秀明　演出助手・製作進行／小見山慎二　美術／佐藤千恵　作画監督／稲葉一真、近藤瑠依　絵コンテ／園田誠　演出／築坂明規

【第12話】STAFF

脚本／大場小ゆり　原画／星川信芳、東出太、増田誠治、森田岳士、松田千鶴、谷口健太、赤田信人、芹田明雄、仲敷沙織、北田美弥子、永澤謙一、井上みゆき、金田栄二、池川陽子、福本泰子、上野ケン、進藤満尾、Toei Phils.、林祐己　背景／　レイアウト／本間薫、鷲崎博　背景／侯荻、チェン・ヤンフェイ、Toei Phils.／

第15話 お母さんに逢いたい！ ひめブルースカイ王国に帰る！





幻影帝国の支配下ではプリキュアの力が出ない!?

ひめが母の日のためのケーキを作ると、めぐみとゆうこが「お母さんへ渡しに行こう」と誘う。だが、幻影帝国に支配されている今のブルースカイ王国では、プリキュアの力が発揮できない。ブルーは「くれぐれも捕まらないように」と注意して3人を鏡の部屋から送り出した。王国の城へ潜入した3人は、鏡に閉じ込められたひめの両親の部屋へ。懐かしむ間もなくチョイアークに見つかった3人が城外へ逃げると、三幹部が待ち伏せしていた。プリキュアに変身して戦う3人だが、チョイアークにすら苦戦してしまう。大ピンチの3人の前にブルーの鏡のゲートが開き、命からがら大使館へ……。ひめは、もっと強くなって両親を救い出すことを心に誓うのだった。



▶敵から隠れつつ、警備を突破していく。秘密の通路を抜けてひめの両親の部屋へ









▲サイアークたちに捕まる寸前に鏡のゲートへ飛び込み、大使館の鏡の部屋へ戻った

第16話 私はマスコミよ!! プリキュアの秘密全部見せます!!

プリキュアになりたい突撃ジャーナリスト

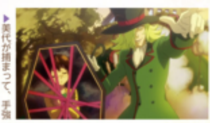
TV番組「プリキュアウィークリー」のキャスター・増子美代が、ハピネスチャージプリキュアの正体に迫るため、学校を取材。めぐみを疑い、家へ押しかけた。プリキュアになりたがる美代の気持ちを知っためぐみは、秘密を明かし、彼女をブルーに会わせる。だが、美代が手にした愛の結晶は光らない。落ち込む美代がナマケルダに捕われ、プリキュアに詳しいサイアークが誕生する。苦戦するプリキュアだが、美代が知らない技を繰り出すことで浄化に成功。子どもたちに応援された美代は、プリキュアの活躍を伝える自分の役目を思い出す。愛の結晶が光らないのは、美代がすでに希望を与える役割を担っていたからだった。



▼めぐみたちを「怪しい」とにらんだ美代は、1日中3人をカメラでつけ回す







▶美代が捕まって、手強いサイアークが生まれる







第17話 努力と根性!! めぐみと誠司の絆!!

誠司が空手を始めたのはめぐみの影響があった

空手大会へ出場する誠司を応援するために、めぐみたちはひめの提案で弁当を作ることにする。ひめは、だし巻き卵作りに挑戦。材料の買い出しに行ったひめと河原で練習していた誠司が大使館へ向かう途中、サイアークが出現。ひめが変身して戦い誠司も加勢するなか、キュアラブリーとキュアハニーも駆けつける。「空手を始めたのはめぐみの影響」と話す誠司の「自分より他人のことに一生懸命なめぐみといっしょにいると負けていられない」という言葉に納得したキュアプリンセスは、キュアラブリーとの合体技でサイアークを浄化。空手大会当日、ひめが早起きして作った大量のだし巻き卵を食べた誠司は、見事に優勝した。





◀オレスキーが、優勝を目指す誠司の対戦相手を鏡に閉じ込めると、サンドバッグサイアークが誕生

【第15話】STAFF

脚本／大場小ゆり　原画／星野守、原田節子、田中伸昭、増田誠治、高橋任治、丸山匡彦、清水隆正、野津美智子、大内智美、藤原貴、安田陽子、藤井慎吾、瀬川真矢、松田千鶴、背景レイアウト／鵜崎博、本間薫　背景／猿谷勝己、チェン・ヤンフェイ、侯跃、Toei Phils.、ルーベン・オレンセ　CGデザイナー／宮本浩史、岩本千尋、村田剛子、森山美里、伊藤達弘、升井秀光、本間宏紀、金井弘樹、関祖輝、吉田満、渡部高志、宮澤孝介、真庭秀明　演出助手／鎌谷悠　製作進行／澤守洸　美術／斉藤優　作画監督／赤田信人、星野守　絵コンテ／鵜崎奈々子　演出／鎌谷悠

【第16話】STAFF

脚本／田中仁　原画／青山充　背景レイアウト／下川忠海　背景／いいだりえ、皆川真紀、飯野敏典、佐藤千恵、篤ミキ、増田竜太郎、アテネアートスタジオ、Toei Phils.、エルウィン・サデーア　CGデザイナー／宮本浩史、吉岡望、木島啓介、清水みなみ、中村佳鋼、小林真理、坂江美弥、本間宏紀、金井弘樹、鄭載薫、真庭秀明　演出助手／鈴木裕介　製作進行／堀越圭文　美術／田中里緑　作画監督／青山充　絵コンテ／入好さとる　演出／岩井隆央

【第17話】STAFF

…渡部高志、宮澤孝介、真庭秀明　演出助手／山口達生　製作進行／澤守洸　美術／篤ミキ　作画監督／河野宏之　演出／鎌仲史陽







▶ひめは、結婚式を盛り上げるために、花嫁が身につける「サムシングフォー」を提案

第18話 みんなで幸せ全力応援！ぴかりが丘の結婚式!!

花嫁さんが幸せになれる4つの品を集めよう♥

「大森ごはん」で知り合ったふたりが、店で結婚式を挙げることになった。めぐみたちは、結婚式で花嫁が身につけると幸せになれるといわれる4つの品を集める。「古いもの、新しいもの」を同級生の家から調達し、ひめがブーケで「青いもの」を作る。4つ目は「借りたもの」。花嫁の親友のまりあに借りたいが、今は行方不明。そこで、まりあの妹のいおなに借りることになった。結婚式当日、ブーケトスの瞬間、ホッシーワが現れる。めぐみたちがプリキュアに変身して立ち向かい、キュアフォーチュンも加勢。結婚式を守るために奮闘する4人の活躍でサイアークの浄化に成功した。結婚式は無事再開し、新郎新婦を祝福する人々も幸せな気持ちになった。







▶青いバラのブーケはひめの手製。花は鮮度が大事なので、ひめは朝4時に起きて作った





第19話 サッカー対決！チームプリキュア結成！

仲間の大切さを知ったいおなが衝撃の告白！

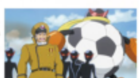
ある日、めぐみたち3人は、誠司から団子店のゴンが監督を務めるサッカーチームの助っ人を頼まれ、サッカー選手に変身して試合に参加した。4人目の助っ人のいおなが華麗に先制ゴールを決める一方、ひめは仲間を無視したシュートを打ち失敗。いおなからチームプレーをするよう注意される。そこへオレスキーが現れてサッカーサイアークを暴れさせるが、キュアラブリーたちに協力するキュアフォーチュンが一瞬で浄化した。チームワークの大切さを知ったいおなは、めぐみとゆうこのふたりとチームを組みたいと告げる。いおなこそ、正体不明のキュアフォーチュンだったのだ。





▲いおなは、自分勝手でチームプレーをまったく考えていないひめにはパスを渡さない

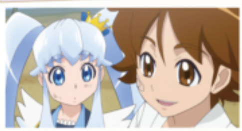




▶団子店のゴン監督を鏡に閉じ込めることで生まれたのは、サッカーサイアークだった







◀誠司は、他人のために頑張るめぐみの姿を幼いころから見続け、強い影響を受けていた

▼▶手を傷だらけにしたひめの苦労のかいあって、誠司は優勝







▲キュアフォーチュンの正体はいおな。彼女は、手強いプリキュアハンター・ファントムに勝利するには、チームの協力が必要と実感



［第19話］STAFF

脚本／大場小ゆり　原画／飯島秀一、松田千織、高橋任治、星川信芳、増田誠治、永澤謙一、北田美弥子、大内智美、福島史士、清水隆正、野澤隆　背景／蔦ミキ、西田渚、田中里緑、増田竜太郎、Toei Phils.、ルーベン・オレンセ　CGデザイナー／宮本浩史、岩本千尋、村田則子、森山美里、伊藤達弘、升井秀光、本岡宏紀、金井弘樹、関祖輝、吉田満、渡部高志、宮澤孝介、真庭秀明　演出助手／鈴木裕介　製作進行／堀越圭文　美術／佐藤千恵　作画監督／稲上晃　絵コンテ／寺田和男　演出／中尾幸彦

［第18話］STAFF

脚本／高橋ナツコ　原画／松井誠、やましたさとる、阿淵和彦、上野泰寛、穂阪ゆきな、長尾圭吾、山内東生雄、李豪世、阿部俊成、柴田有香、塩澤昭、長嶋凌、三井寿、宇津木勇、菊永智美、若菜宣範、沖田直美、本田みゆき、たなかみほ、曽我部紗智、白石創太郎、鷲尾侑紀、長田雄樹、高久美弥、大江健児、斉藤祐輔、永久保美咲、鈴木理人、上野卓志、清水勝祐、橋本航平、菊田史子　背景レイアウト／本間薫、鷲崎博　背景／西田渚、蔦ミキ、飯野敏典、田中里緑、増田竜太郎、デザインオフィス・メカマン、田中美紀、Toei Phils.、ネリット・アクーニャ　CGデザイナー／宮本浩史、吉岡望、木島啓介、清水みなみ、中村佳嗣、小林真理、坂江美弥、本岡宏紀、金井弘樹、鄭載薫、真庭秀明　製作進行／増木弘明　美術／斉藤優　作画監督／松井誠、相澤美莉、森悦史　演出／大庭秀昭

［第17話］STAFF

脚本／小山真　原画／河野宏之、藤井孝博、永島英樹、藤原舞、板岡錦、原田節子、増田誠治、安田陽子、丸山匡彦、安田好孝、上野ケン　背景／西田渚、飯野敏典、いいだりえ、Toei Phils.、グレース・トーラー　CGデザイナー／宮本浩史、岩本千尋、村田則子、森山美里、伊藤達弘、升井秀光、本岡宏紀、金井弘樹、関祖輝、吉田満、／







▲ひめが城に保管されていたアクシアを開けたことが、幻影帝国をめぐる、すべての災厄の始まりだった

第20話 悲しい過去!! キュアフォーチュンの涙

ひめの過去の間違いに めぐみとゆうこも仰天

ひめの共闘を拒絶するいおなには、ひめを許せない理由があった。それは、ひめが「めぐみとゆうこに知られたら嫌われる」と恐れ、隠している過ち。アクシアを開けて幻影帝国を復活させた張本人は、ひめ。そのために姉のまりあ（キュアテンダー）はファントムに倒されたと、いおなはひめを恨んでいるのだ。秘密を知られ、逃げ出すひめ。隠れたひめを見つけたゆうこは、自分もめぐみもひめを嫌いにならないと励ます。一方ひめを捜すめぐみの前に、ナマケルダとホッシーワが生み出した2体のサイアークが現れる。だが、駆けつけたキュアフォーチュンとのコンビプレーで浄化に成功。それを見ていたひめは、ふたりが仲よくなったと勘違い。再び逃げ出してしまう。







◀めぐみがいおなを「話せばひめと仲よくなれる」と説得する姿を見て、ひめは誤解









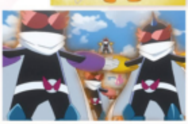


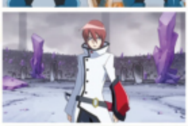


第21話 ひめの過去の過ち! 怒りのキュアフォーチュン!

誤解が解けた3人は 仲間の絆が強まった!

嫌われたと思い込むひめが、大使館の部屋に閉じ込もる。一方めぐみと誠司はいおなを説得するが、いおなは「ひとりで戦う」と意地を張る。めぐみたちを避けるひめが大使館から逃げ出し、めぐみとゆうこが追跡。悲しくなって泣き出すめぐみを見て、ひめも号泣。落ち着いて話すことでめぐみとの誤解が解けたひめは、いおなともきちんと話すことにした。そのころ、ぴかりが丘にファントムが現れ、たくさんのサイアークを生み出す。仲間と共に立ち向かうキュアプリンセスは、ピンチを助け合えることをうれしく思い、ひとりぼっちのキュアフォーチュンを心配する。同じころ、キュアフォーチュンの前にはファントムが現れて、彼女を「プリキュアの墓場」へ誘いこんだ。







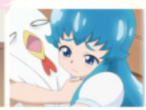
▲アクシアを開けたことを後悔するひめ。ふたりは「悪いのは幻影帝国」と励ます



▲キュアフォーチュンは、無数のプリキュアたちが鏡に閉じ込められている空間へ!







▲いおなはひとりで戦う!? ひめは「めぐみはいおなを選んだ」と誤解



▶ブルーは、めぐみたちの人を思う気持ちが心をつなげると信じている

【第21話】STAFF

脚本／成田良美　原画／筆坂明規、北村友幸、池田雅人、星本晶、並木祐一、納武史、米田紘、吉崎雅博、井上和俊、池田竜也、鶴田愛、小曽根孝夫、遠藤麻未、佐藤修、佐藤絵美、谷口義明、小峰弥生、嶋田聡史、平野友己、佐々木綾、松井京介、金谷隆之、初瀬川裕太、大橋未来、高木啓明、杉原一義、張鵬、金城美保、下地彩加　背景レイアウト／鶴崎博、本間薫　背景／チェン・ヤンフェイ、王明丹、候叔、藤原友美、佐藤美幸、Toei Phils.、グレース・トーラー　CGデザイナー／宮本浩史、岩本千尋、村田則子、森山美里、伊藤遼弘、升井秀光、本岡宏紀、金井弘樹、閔祖輝、吉田満、渡部高志、宮澤孝介、真庭秀明　製作進行／小見山慎二　美術／斉藤優　作画監督／織岐一喜、近藤瑠衣　絵コンテ／長峯達也　演出／筆坂明規

【第20話】STAFF

脚本／田中仁　原画／星野守、原田節子、野津美智子、田中伸明、芹田明雄、冨木由美子、永島英樹、赤田信人、増田誠治、安田好孝、島崎望、藤原舞、安田陽子、松田千織、Toei Phils.　背景／デザインオフィス・メカマン、高橋英次、石原信明、上原里香、鈴木祥太　CGデザイナー／宮本浩史、吉岡望、木島啓介、清水みなみ、中村佳嗣、小林貴澄、坂江美弥、本岡宏紀、金井弘樹、鄭載薫、真庭秀明　演出助手／鎌谷道　製作進行／澤守洸　美術／田中美紀　作画監督／星野守　絵コンテ／田中孝行　演出／岩井隆央





第22話 新たな変身!? フォーチュンの大いなる願い！

プリカードファイル満杯 ひとつだけ願いが叶う！

サイアークを一掃したキュアラブリーたちに、ぐらさんがキュアフォーチュンの救援を求める。ブルーは、鏡を使って3人をキュアフォーチュンの元へ送った。ファントムは、変身が解けたいおなの前で、変身に必要なプリカードを燃やしてしまう。そこへ来たキュアプリンセスが、いおなに素直に頭を下げ、すべてのプリカードを渡す。いおなのファイルがいっぱいになって、願いが叶えられることに。いおなは、ファントムに苦戦する3人を助けるために、プリキュアの力を願った。新たな変身アイテム「フォーチュンピアノ」が出現し、キュアフォーチュンはパワーアップに成功する。ファントムを浄化寸前まで追いつめると、巨大な鏡に映るクイーンミラージュが姿を現した。





▶フォーチュンピアノのフタの裏にあるトレイにプリカードをセットし、鍵盤を叩いて変身する









▲新たな戦闘アイテムは、左手中指の指輪から飛び出す「フォーチュンタンバリン」





▲変身が解けたキュアフォーチュンのプリカードを燃やすことで、フォーチュンを絶望の淵へと追いつめる



第23話 超キンチョー！ いおなとひめ、はじめてのおつかい！

買い物で素直な気持ちをぶつけて本当の親友に！

クイーンミラージュの攻撃をかわし、ブルーがめぐみたちを大使館へ戻した。顔がそろった機会にホームパーティーを開くことになり、ひめといおなが買い物へ向かう。節約家ぶりを発揮するいおなに、ひめはスナック菓子をねだる。本音を言い合えたおかげで、ふたりは少し打ち解けた。いおなが改めてアクシアを開けた理由を聞くと、ひめは「ここから出してという声が聞こえたから」と真相を語る。ホッシーワが率いるサイアークが暴れだすが、キュアフォーチュンとキュアプリンセスが協力して浄化に成功。下の名前で呼び合うほどひめと仲よくなったいおなに、めぐみはブルーから預かったキュアラインを渡す。ついにハピネスチャージプリキュアは、4人組となった。











▲ためらういおなだが、ひめが強引にいおなの手をキュアラインへ乗せる

▼いおなは、ひめの事情を知ろうともせず、責め続けてきたことを猛反省











【第23話】STAFF

脚本／小山真　原画／板岡錦、星川信芳、丸山匡彦、ひのたかふみ、藤原舞、増田誠治、清水隆正、上野ケン、原田節子、安田陽子　背景／萬ミキ、山下千歌、いいだりえ、Toei Phils.、ルーベン・オレンセ　ＣＧデザイナー／宮本浩史、岩本千尋、村田則子、森山美里、伊藤達弘、升井秀光、本岡宏紀、金井弘樹、関祖輝、吉田満、渡部高志、宮澤孝介、真庭秀明　演出助手／鎌谷悠、嶋谷将　製作進行／澤守洸　美術／飯野敏典　作画監督／上野ケン　演出／三塚雅人

【第22話】STAFF

脚本／成田良美　原画／青山充、福本幸子、川瀬和香子、増田誠治、濱野裕一　背景／佐藤美幸、皆川真紀、西田渚、いいだりえ、飯野敏典、増田竜太郎　ＣＧデザイナー／宮本浩史、吉岡望、木島啓介、清水みなみ、中村佳嗣、小林真理、坂江美弥、本岡宏紀、金井弘樹、鄭載薫、真庭秀明　演出助手／鈴木裕介　製作進行／堀越圭文　美術／田中僚緑　作画監督／青山充　演出／門由利子

OP

アップテンポな曲調に合わせて、さまざまなコスチュームのめぐみたちや重要キャラクターが次々に登場するハイテンションな映像。ただし、ファントムは登場しない。ちなみに、第6～8話と第34～38話は、映画のハイライトシーンが一部使用された特別仕様。

1 第1話　第29話

『ハピネスチャージプリキュア！ WOW!』

2 第30話　第49話



第30話より、Aのカットが2人から4人全員のものに変更。Bの戦闘シーンの決め技が、キュアラブリーとキュアプリンセスの「プリキュア・ツインミラクルパワーシュート」から、4人全員の「プリキュア・ハピネスビッグバーン」に変更された。また、第10話以降は、フォームチェンジの追加や背景の変更などの微修正がある。

EYE CATCH

番組中盤CM後に流れる約7秒の映像。BGMは共通で、第1話～第26話ではめぐみとひめがプリチェンミラーで遊び、第27話～第49話では4人がキュアラインを使っている。

1 第1話　第26話



2 第27話　第49話



ED

ＥＤは、シリーズ前半と後半でテーマソングと映像が変わっている。前半の映像はキュアラブリーとキュアプリンセスがダンスを見せる。第27話からの映像は、４人全員がステージセットで歌い踊る。また、映像の途中から、本編に先んじてイノセントフォームが登場する。

1 第1話～第26話

『プリキュア・メモリ』



2 第27話～第49話

『パーティ ハズカム』

エンディングテーマ振り付け MIKIKO



主題歌(ED)
パーティ ハズカム
作詞／只野菜摘　作曲／ヒザシ
編曲／古川貴浩　うた／吉田仁美

主題歌(ED)
プリキュア・メモリ
作詞／只野菜摘　作曲／小杉保夫
編曲／Dr.Usui　うた／吉田仁美

主題歌(OP)
ハピネスチャージプリキュア！WOW!
作詞／青木久美子　作曲／小杉保夫
編曲／大石憲一郎　うた／仲谷明香



◀幻影帝国の三幹部も合宿に来ていたが、真面目に特訓するのは発案者のオレスキーだけ

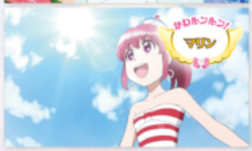


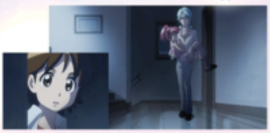
第24話 いおなコーチのプリキュアパワーアップ大作戦!

それぞれが技を磨いてチーム全体の力が倍増

いおなの提案で、ハピネスチャージプリキュアの強化合宿を海辺のコテージで行うことになる。最初はバカンス気分ではしゃぐめぐみたちだったが、コーチ役のいおなとぐらさんのスパルタ指導で、それぞれの技を磨いていく。一方、同じ海岸に幻影帝国の三幹部も特訓で訪れていた。それを見つけためぐみたちが戦いを挑み、特訓の成果を披露する。全員が連携して技の威力が倍増し、サイアークを浄化することに成功した。その晩、みんなでスイカを食べようと部屋にいるブルーを呼びに行っためぐみが、高熱で倒れてしまう。ブルーがめぐみを抱いて彼女の部屋へ入っていく様子を目撃した誠司は、複雑な気持ちになった。











◀いおなは、ドッジボールや新体操のリボンなど、代用の道具で各自の技を特訓させた

第25話 恋にドキドキ!プリキュア合宿クライマックス!

誠司が好きな相手は?目覚めるひめの乙女心

風邪で倒れためぐみを看病するブルーに、誠司はもやもや。一方、合宿所へ来たクラスメイトのりんに「誠司を好き」と打ち明けられて、驚くひめ。海へ潜る誠司を驚かそうとしたひめが溺れて、誠司に助けられる。胸の傷を手当てしてくれた誠司のやさしさに、ひめは胸をときめかせる。そこへサイアークが現れるが、半日で体調を回復させためぐみも戦いに参加して無事に浄化。その後、りんが誠司に告白するが、好きな相手がいるらしい誠司の返事は「NO」。ふたりを陰で見守っていたゆうこといおなは「誠司が好きな子はめぐみ」だと言う。誠司に心を動かされていたひめは、もやもやした気持ちに……。



▲めぐみを看病するブルーは、クイーンミラージュが悪いことをする原因は自分にあると言う











▶「誠司がめぐみを好きなことは秘密」というナイショ話をしているところへめぐみが……!?



▶意中の人がいる誠司は、告白したりんに対して「ごめん」と誠実に断った

第26話 迷子のふたり!ひめと誠司の大冒険!

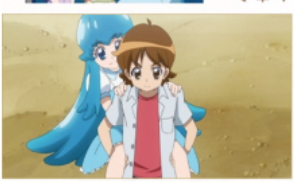
自分のことを守って戦う誠司にひめが胸キュン♡

合宿も終わり、めぐみたちはブルーと別れて電車で帰ることに。途中停車した駅で飲み物を買うためにホームへ降りたひめと誠司は、電車に乗り遅れてしまう。連絡手段のないふたりの前にホッシーワが現れる。誠司はひめを守って戦うが、やがて力つきてしまう。そこへふたりを捜すプリキュアたちが駆けつけ、変身したキュアプリンセスがサイアークを浄化した。電車に戻ったひめは、誠司を見ると顔が赤くなって胸がドキドキ。誠司のことが気になりだした。

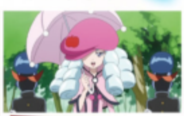


▲ふたりが飲み物を買っている間に電車が発車してしまう





▲誠司は、足をくじいたひめを背負い、大使館へ連絡するために公衆電話を探す







◀ひめは、顔を真っ赤にして、彼女を守って戦ってくれた誠司にお礼を言った



[第26話] STAFF

脚本/田中仁　原画/松井誠、相澤美莉、岡淵和彦、上野泰寛、穂阪ゆきな、長尾圭吾、阿部俊成、柴田有香、菊永智英、若菜宣範、たなかみほ、永久保美咲、曽我部紗帆、白石創太郎、鷲尾侑紀、長田雄樹、高久美弥、大江健見、稲田正輝、松崎一　背景/デザインオフィス・メカマン、石原信明、上原里香、鈴木祥太、大関恒雄、大関雅美　CGデザイナー/宮本浩史、吉岡望、木島啓介、清水みなみ、中村佳嗣、小林真理、坂江美弥、本岡宏紀、金井弘樹、鄭載薫、真庭秀明　製作進行/増本弘昂、藤田裕人　美術/田中美紀　作画監督/松井誠、相澤美莉、森悦史　演出/大庭秀昭

[第25話] STAFF

脚本/高橋ナツコ　原画/河野宏之、藤井孝博、永島英樹　背景/篤ミキ、西田徹、田中里緑、飯野敏典、増田竜太郎、Toei Phils.、グレース・トーラー　CGデザイナー/宮本浩史、岩本千尋、村田則子、森山美里、伊藤達弘、升井秀光、本岡宏紀、金井弘樹、関祖輝、吉田満、渡部高志、宮澤孝介、真庭秀明　演出助手/鎌谷悠　製作進行/澤守洸　美術/佐藤千恵　作画監督/河野宏之　絵コンテ/越智一裕　演出/岩井隆央

[第24話] STAFF

脚本/大場小ゆり　原画/高橋任治、松田千鶴、飯島秀一、大内智美、田中伸明、永澤謙一、赤田信人、北田美弥子、原田節子、野津美智子、福島宏士、金田栄二、冨木由美子、上野ケン、アニタス神戸、井岡眞奈、江上華子、浦岡華絵、森なゆた、星野守　背景レイアウト/本間薫、鶴崎博　背景/藤原友美、侯辰、Toei Phils.、エルウィン・サデーア　CGデザイナー/宮本浩史、吉岡望、木島啓介、清水みなみ、中村佳嗣、小林真理、坂江美弥、本岡宏紀、金井弘樹、鄭載薫、真庭秀明　演出助手/鈴木裕介　製作進行/堀越圭文　美術/斉藤優　作画監督/赤田信人　絵コンテ/いなばちあき　演出/鈴木裕介





▲夏休みの宿題を終わらせる勉強会で、いおなが先生に変身



悩めるひめ！プリキュアチーム解散の危機！？ 第27話

恋愛禁止のチームの中でトライアングルラブ!?

ふたりで冒険をしてから、誠司を見るとドキドキが止まらないひめ。いおなの占いによると、ひめと誠司の相性は抜群。しかし、誠司はめぐみのことが好きなので、事情は複雑だ。さらにゆうこの見立てでは、めぐみはブルーのことが気になっている様子。誠司がブルーにめぐみをどう思っているのか尋ねると、ブルーは「神様だから、生きるものすべてが大切」と答えた。その後、ナマケルダが誠司を捕らえてサイアークを生み出すが、キュアラブリーとキュアプリンセスがそれを浄化。帰り道、誠司とめぐみを見て「お似合い」と感じたひめの胸はもうドキドキしない。ひめは、誠司といっしょに冒険をして、恋をしたと勘違いしたのだ。





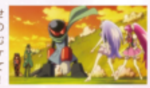




▲ひめは、同じ危機的状況下の男女が、そのドキドキを恋と錯覚する「吊り橋効果」で、恋をしている気分になったのだ



▶めぐみの幸せと自分の恋心の板ばさみで悩む誠司が、ナマケルダに捕まってサイアークに！



ハワイ上陸！アロ～ハプリキュア登場！ 第28話

凍てついた姉妹の心に情熱の炎を再点火！

ゆうこは、ひとりで各国のプリキュアを助けていた。それを知っためぐみたちは、妖精アロアロが救援を求めるハワイに、ハピネスチャージプリキュア全員で向かうことに。ハワイを守るキュアサンセットのオハナとキュアウェーブのオリナは、本当は仲のよい姉妹だが、幻影帝国のモメールに負け続けてすっかり仲が悪くなっていた。ゆうこの家「大森ごはん」の弁当を食べて仲直りした姉妹は、めぐみたちと協力してモメールを撃退。ハワイは元の姿に戻った。



▲常夏の島向けのファッションに身を包む4人だが、ハワイは極寒の地と化していた！















アクシアの真の姿！シャイニングメイクドレッサー！！ 第29話

ブルーとミラージュの哀しいラブストーリー

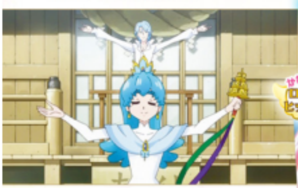
ブルーがミラージュとの過去を語る。ミラージュは、恋人であるブルーが彼女の想いに応えないことに傷ついて悪に染まり、クイーンミラージュになってしまったのだ。めぐみたちに励まされたブルーは、「ミラージュの笑顔を見たい」という本心を伝えるために幻影帝国へ向かう。それには、プリキュアをパワーアップさせるアクシアの真の力が不可欠。正装したひめが踊る「開放の儀式」で、アクシアは本来の姿である「シャイニングメイクドレッサー」となった！

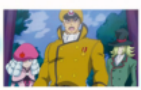


▲アクシアは、悪の封印だけでなく、プリキュアをパワーアップさせる！



▲かつてブルーは、ぴかり神社の巫女のミラージュと恋人同士だった







▲ひめの踊りで聖なる力を集め、ブルーの力を高める

▼クイーンミラージュは、ブルーを倒す命令を下した







【第29話】STAFF

脚本／成田良美　原画／星野守、飯島秀一、高橋任治、松田千鶴、星川信芳、大内智美、北田美弥子、芹田明雄、清水隆正、金田栄二　背景／飯野敏典、佐藤千恵、山下千敬、篤ミキ、いいだりえ、Toei Phils.、エルウィン・サデーア　ＣＧデザイナー／日向学、さとうえい、宮本浩史、中谷純也、中村佳嗣、宮澤孝介、山崎浩司、長谷川太陽、赤瀬平、鄭載薫、吉田秀一、芦野健太郎、澤志織　演出助手／鈴木裕介　製作進行／堀越圭文　美術／西田渚　作画監督／星野守　絵コンテ／長峯達也　演出／岩井隆央

【第28話】STAFF

脚本／小山真　原画／青山充、福本奈子、藤原舞、永澤謙一　背景／飯野敏典、田中里緑、いいだりえ、Toei Phils.、ルーベン・オレンセ　ＣＧデザイナー／日向学、さとうえい、宮本浩史、中谷純也、中村佳嗣、宮澤孝介、山崎浩司、長谷川太陽、赤瀬平、鄭載薫、吉田秀一、芦野健太郎、澤志織　演出助手／鎌谷将　製作進行／澤守洸　美術／篤ミキ　作画監督／青山充　絵コンテ／入好さとる　演出／鎌谷悠

【第27話】STAFF

脚本／高橋ナツコ　原画／ロメオ・アンニョヌエボ、ユージン・アイソン、マーティン・クリソストモ、デニス・カブラオ、シーザー・デレオン、ボビー・デラペーニャ、マービン・メンドーサ、レジー・マナバット、ロメオ・ブーラ、アルフレッド・レイエス、フリッツ・ウラング、ロメジオ・ヴァレンシア、桜岡錦、星川信芳、増田誠治、福島史士、高橋任治、松田千鶴、山岡直子　背景レイアウト／篠崎博、本間薫　背景／宮本香里、侯辰、藤原友美、いいだりえ、Toei Phils.、ネリート・アグーニャ　ＣＧデザイナー／日向学、さとうえい、宮本浩史、中谷純也、中村佳嗣、宮澤孝介、山崎浩司、長谷川太陽、赤瀬平、鄭載薫、吉田秀一、芦野健太郎、澤志織　演出助手／中村亮太　製作進行／堀越圭文　美術／斉藤優　作画監督／フランシス・カネダ、ジョーイ・カランギアン　演出／中村亮

第30話 ファントムの秘策！もう一人のキュアラブリー！

キュアラブリーの影法師から壮絶パワーの敵キャラが誕生

ぴかり神社を訪れたブルーとめぐみの前にファントムが現れる。ファントムは、ブルーを守るキュアラブリーの影をまとい、彼女にそっくりなアンラブリーに変身。アンラブリーは「めぐみの人助けは病弱な母親を手伝うことから始まった」など、めぐみのすべてを知っている。「ドジで勉強も苦手なめぐみは、誰の役にも立てない」と、心の弱い部分を突くアンラブリー。自信を失うキュアラブリーだが、仲間に励まされ自分を取り戻す。キュアラブリーの反撃でアンラブリーはファントムに戻り、4人のイノセントな想いの高まりでシャイニングメイクドレッサーが目覚める。4人の合体技「プリキュア・ハピネスビッグバーン」が炸裂。ファントムは失神した。



▲ファントムは幻影を操る。地面から切り取った相手の影で、同じ記憶と能力を持つ悪に変身する



▶シャイニングメイクドレッサーに祈願みするめぐみとひめ













▲300年前、ブルーとミラージュはシャイニングメイクドレッサーの力を借りて戦った

第31話 まさかの急接近！？キュアハニーとファントム！

ゆうこのやさしさで癒されるファントム

大使館へ連れ帰ったファントムの看病をゆうこが引き受ける。ゆうこはファントムに、昔いっしょに暮らした犬のデビットの思い出を重ねていた。そこへ、クイーンミラージュに命令されたオレスキーがファントムの救出に現れる。大使館を抜け出すファントムにクイーンミラージュへの伝言を託すブルー。ブルーに牙をむくファントムだが、ゆうこに「傷ついた体で無理をしないで」とやさしく止められると、ある言葉を残して去っていく。めぐみたちと合流してオレスキーを退けたゆうこが大使館へ戻ると、満面の笑みを浮かべた。ファントムが、おかゆをきれいに食べていたのだ。彼が残した言葉、それは「ごちそうさま」だった。

▼シャイニングメイクドレッサーの復活を喜ぶめぐみたち。2階ではファントムが療養中



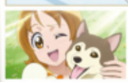




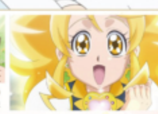








▲ゆうこが好きだった犬のデビットは、2年前に他界



第32話 いおなの初恋！？イノセントフォーム発動！

校舎裏の告白にドキドキ初めてのデートは動物園

最近のいおなには明るい笑顔が増えた。それに気づいた、誠司の友人の裕哉は、いおなに愛を告白。戸惑ういおなをよそに、ひめたちはみんなで動物園へ行くことを決めてしまう。ひめたちの計らいでいおなと裕哉はふたりきりに。照れるいおなが飲み物を買いに行ったすきにナマケルダが現れて、裕哉を鏡に閉じ込める。それを目にしたいおなの「裕哉を助けたい」というイノセントな想い（純粋な気持ち）にシャイニングメイクドレッサーが反応。イノセントフォームに変わったキュアフォーチュンがサイアークの動きを封じ、浄化した。鏡から救出された裕哉は、恋の答えが出せないいおなに「いつまでも待ってる」と微笑んだ。



▶シャイニングメイクドレッサーの新たな力を引き出すためにいおなが見せたニッコリポーズ



＼大関雅美　**CGデザイナー**／小林真理、坂江美弥、関祖輝、真庭秀明、笹井麻希、岩本千尋、伏江克鵬、瀬戸大介、森山美里、海老沢大生、首藤拓、先崎純一、木島啓介　**演出助手**／嶋谷将　**製作進行**／堀越圭文　**美術**／田中美紀　**作画監督**／赤田信人　**演出**／山内重保

【第31話】STAFF

脚本／大場小ゆり　**原画**／板岡錦、原田節子、藤原舞、清水隆正、丸山匡彦、山岡直子、稲上晃、野津美智子、増田誠治、安田陽子、稲上浩子　**背景**／篤ミキ、西田清、いいだりえ、Toei Phils.、グレース・トーラー　**CGデザイナー**／日向学、さとうえい、宮本浩史、中谷純也、中村佳嗣、宮澤孝介、山崎浩司、長谷川太陽、赤瀬平、鄭載薫、吉田秀一、戸野健太郎、澤志織　**演出助手**／鎌谷悠　**製作進行**／澤守滉　**美術**／田中里緑　**作画監督**／稲上晃　**演出**／三塚雅人

【第30話】STAFF

脚本／田中仁　**原画**／藤原未来夫、米田鉱、下地彩加、仲村信樹、星本晶、並木祐一、池田雅人、丸山大勝、吉崎雅博、井上和俊、松本純平、速水広一、池田竜也、鈴木光、藤田麗子、佐々木一浩、佐藤修、水野悦明、仁井宏隆、谷口義明、佐藤絵美、小峰弥生、工藤公聖、北村友幸、河野宏之、藤井孝博、Toei Phils.、金城美保、高橋任治、飯島秀一、上野ケン、濱野裕一　**背景レイアウト**／本間薫、鷲崎博　**背景**／宮本雪香、藤原友美、侯欣、猪谷勝己、Toei Phils.、ネリート・アグーニャ　**CGデザイナー**／小林真理、坂江美弥、関祖輝、真庭秀明、笹井麻希、岩本千尋、伏江克鵬、瀬戸大介、森山美里、海老沢大生、首藤拓、先崎純一、木島啓介　**製作進行**／小見山慎二　**美術**／斉藤優　**作画監督**／[illegible]、近藤瑠衣、納武史　**演出**／筆坂明規



わたしもなりたい！めぐみのイノセントさがし！ 第33話

ロケット打ち上げを目指す一途な理系女子を人助け！

イノセントフォームは、それぞれの中に眠るイノセントな気持ちにシャイニングメイクドレッサーが反応し、与えてくれるもの。めぐみは、自分の中のイノセントな気持ちを目覚めさせるため、もっと人助けをすることに。河原でロケットの実験をするまみと出会っためぐみは、彼女の研究を手伝う。発射実験当日、オレスキーがまみを捕らえてサイアークを生み出すが、ロケットを守るキュアラブリーと3人のプリキュアがサイアークを浄化。ロケットの打ち上げも成功した。今回はイノセントフォームになれなかっためぐみだが、ひとつのことに打ち込むまみに感動。人助けだけではなく、自分のためにも何かを頑張りたいと心に誓った。









▲オレスキーの妨害を乗り越え、まみが作ったロケットは空高く舞い上がる



▲成功まで洗わないと願掛けした、まみの白衣を洗濯！









ひめ大活躍！？盛り上げよう！はじめての文化祭 第34話

キュアプリンセスもイノセントフォームへ

明日は、ぴかりが丘学園の文化祭。めぐみたちは準備にいそしんでいた。みんなを手伝うひめだが、気持ちばかりで役に立っていない自分を嘆く。そんなひめは、生徒会長からはポスターを貼る手伝いを、めぐみからは文化祭の顔となる入場ゲートのコーディネイトをお願いされる。おしゃれなひめのセンスで、ゲートは見違えるようにきれいになった。文化祭当日、ナマケルダが、生徒会長を捕らえて生み出したサイアークで学校を襲撃！　みんなで作った入場ゲートを守ろうとするイノセントな想いがキュアプリンセスをイノセントフォームへ変える。サイアークを浄化して文化祭を守ったひめは、みんなが楽しい気持ちになれて自分も幸せだった。





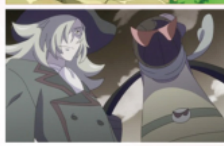


▲ひめの指示でみんなが作った入場ゲートは、文化祭と友情のシンボル

▼いおなと裕哉は、キリンを見たり、フリスビーをしたり、少しずつ打ち解けていった















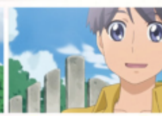






▲ゆうこは模擬店・ぴかり茶房の調理を、めぐみとひめはそのウエイトレスを担当





【第34話】STAFF

脚本／大場小ゆり　原画／渡部竜司、洪承鉉、興津和彦、松崎一、上野泰寛、松井誠、増田清美、洞内明、藤谷和宏、若菜宣範、菅原浩喜、初瀬川裕太、安井貴司、船越麻友美、正帆優太、松井京介、武村宏輔、やましたさとる、柴田史子、阿部健成、大江健児、斉藤祐輔、鈴木理人、高久美弥、小原香織、菊永智美、森下昇吾、柴田有香、清水博明、宇都木勇、塩澤毅、山岡直子、板岡錦　背景／山下千歌、いいだりえ、田中里緑、増田竜太郎、佐藤美幸、Toei Phils.、エルウィン・サデーア　CGデザイナー／小林真理、坂江美弥、開祖輝、真庭秀明、笹井麻希、岩本千尋、伏江克晴、瀬戸大介、森山美里、海老沢大生、首藤拓、先崎純一、木島啓介
制作進行／藤田裕人、増本弘明　美術／飯野敏典　作画監督／松井誠、上野卓志、森悦史　演出／大庭秀昭

【第33話】STAFF

脚本／小山真　原画／河野宏之、藤井孝博、永島英樹、原田節子
背景レイアウト／鷲崎博、本間薫　背景／猿谷勝己、宮本里香、Toei Phils.、ルーベン・オレンセ　CGデザイナー／日向学、さとうえい、宮本浩史、中谷純也、中村佳嗣、宮澤孝介、山崎浩司、長谷川太陽、赤瀬平、鄭載薫、吉田秀一、芦野健太郎、澤志織　演出助手／鈴木裕介　制作進行／澤守洸
美術／斉藤優　作画監督／河野宏之　絵コンテ／越智一裕　演出／岩井隆央

【第32話】STAFF

脚本／高橋ナツコ　原画／仲敷沙織、谷友子、西田寛治、志田ただし、赤田信人、清水奏太郎、飯島秀一、桑原寿弥、松田千鶴、大内智美、北田美弥子、安田陽子、田中伸昭　背景／デザインオフィス・メカマン、高橋英次、石原信明、上原里香、邱文美、鈴木祥太、志賀友香、あくつみちよ、大関恒雄、／




第35話 みんなでおいしく！ゆうこのハピネスデリバリー！

口うるさいおばあさんの本心にゆうこは大感激♪

ゆうこの弁当配達を手伝うめぐみたち。大きな屋敷でインコと暮らす得意客のおばあさんは、文句が多かった。でも、弁当を全部食べてくれるので、ゆうこは笑顔で応対する。だが、ホッシーワがおばあさんを捕らえて、サイアークを生み出した。キュアハニーが歌う「しあわせごはん愛のうた」にシャイニングメイクドレッサーが応え、キュアハニーもイノセントフォームに変化。サイアークが浄化されて、おばあさんは口うるさい調子に戻った。だが、インコのロマネで、おばあさんが本心では配達を心待ちにしていることがわかり、ゆうこはおばあさんを店へ招く。みんなでおいしくごはんを食べる。それが、ゆうこの幸せだった。



▲ゆうこは、食べ終わって空になった弁当箱を振ったときの音が大好き








▶おばあさんとインコから生まれたサイアーク。武器は大音量の鳴き声

第36話 愛がいっぱい！めぐみのイノセントバースデー！

戦う相手の幸せも願うイノセントなめぐみ

久しぶりにお父さんが帰宅して家族で団らんするなか、お母さんが「病気のままでも幸せ」と言うのを聞いためぐみは「お母さんを助けたいと頑張ってきたのに、自分がしてきたことは必要なかったのかも」と、人助けに自信を失っていた。翌日、大使館で行われるめぐみの誕生パーティーに、誰も誕生日を祝ってくれないことが不満のオレスキーが現れる。キュアラブリーは「いっしょに祝おう」と誘う。「みんなの幸せを願いたい」というイノセントな想いで、キュアラブリーもイノセントフォームへ変化。パーティー再開後、新たな力を手に入れ、喜んでブルーに抱きつくめぐみを目にして、誠司の心は乱れる。











▲▶誠司は、新たな力を得たことに感謝してめぐみがブルーに抱きつく様子を、偶然目撃してしまった

第37話 やぶられたビッグバーン！まさかの強敵登場！

三幹部に代わるクイーンミラージュの〝奥の手〟!?

めぐみたちが、ハロウィンでにぎわう街へ。ぴかりが丘では、「カボチャのケーキを分けて食べたふたりは幸せになれる」といわれている。ブルーのケーキを分けられためぐみはドキドキ。そこへオレスキーが現れる。プリキュア・ハピネスビッグバーンでサイアークは浄化されて、オレスキーも浄化寸前に。ところが、何者かの攻撃によりハピネスビッグバーンの輝きが消し飛ぶ。攻撃したのは、なんとキュアフォーチュンの姉、キュアテンダーだった！

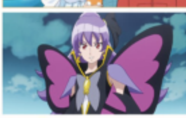





◀▼仲むつまじいブルーとめぐみ。ひめは、「めぐみを取られちゃうよ」と誠司をあおる








◀ビッグバーンを吹き飛ばす力を持つキュアテンダーが敵の奥の手!?

【第37話】STAFF

脚本／高橋ナツコ　原画／ノエル・アンニョヌエボ、ユージン・アイソン、ジョーイ・カランギアン、フランシス・カネダ、シーザー・デレオン、レジー・マナバット、アリス・ナリオ、ロメオ・ブーラ、レスティ・ローク、ポール・ザルディバー　背景／西田渚、篤ミキ、田中里緑、増田竜太郎、いいだりえ、Toei Phils.、ルーベン・オレンセ　CGデザイナー／日向学、さとうえい、宮本浩史、中谷純也、中村佳嗣、宮澤孝介、山崎浩司、長谷川太陽、赤瀬平、鄭載薫、吉田秀一、芦野健太郎、澤志織　演出助手／鎌谷将　製作進行／堀越圭文　美術／佐藤千恵　作画監督／フランシス・カネダ、アリス・ナリオ　絵コンテ／入好さとる　演出／岩井隆央

【第36話】STAFF

脚本／成田良美　原画／屋川琢芳、清水隆正、藤原舞、原田節子、野津美智子、福島史士、芹田明雄、完甘美也子、山岡直子、藤原未来夫、松田千織、安田陽子、会津五月、北田美弥子、伊藤潤樹、川上遥、浜友里恵、笛田早紀、中山朋彦、長澤達也、ポール・アンニョヌエボ、木曽勇太　背景レイアウト／本間薫、鶴崎博　背景／宮本里香、Toei Phils.、ネリート・アクーニャ　CGデザイナー／小林真理、坂江美弥、関祖輝、真庭秀明、笹井麻希、岩本千尋、伏江克鷗、瀬戸大介、森山美里、海老沢大生、首藤拓、先崎純一、木島啓介　演出助手／鈴木裕介　製作進行／澤守洸　美術／斉藤優　作画監督／上野ケン　絵コンテ／田中孝行　演出／鈴木裕介

【第35話】STAFF

脚本／田中仁　原画／松田千織、田中伸昭、永澤謙一、飯島秀一、大内智美、北田美弥子、金田栄二、吉田和香子、星野守　背景／佐藤千恵、田中里緑、西田渚、飯野敏典、いいだりえ、増田竜太郎、Toei Phils.、グレース・トーラー　CGデザイナー／日向学、さとうえい、宮本浩史、中谷純也、中村佳嗣、宮澤孝介、山崎浩司、長谷川太陽、赤瀬平、鄭載薫、吉田秀一、芦野健太郎、澤志織　演出助手／鎌谷将　製作進行／堀越圭文　美術／篤ミキ　作画監督／星野守　演出／門由利子





▶クイーンミラージュに操られているキュアテンダーは、4人が束になっても敵わない強者だった

第38話 響け4人の歌声！イノセントプリフィケーション！

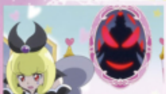
歌で悪い心を浄化する4人の新たな合体技！

ハピネスチャージプリキュアはキュアテンダーの強さに圧倒され、4人をかばうブルーも倒れてしまった。キュアフォーチュンは「やさしかった姉を取り戻してみせる」という強い信念で戦いを続ける。その思いにシャイニングメイクドレッサーが応え、4人に新たな合体技「プリキュア・イノセントプリフィケーション」を与える。マイクに乗せたキュアラブリーたちの歌声はキュアテンダーの悪い心を浄化し、元のまりあに戻った。一方、ブルーはクイーンミラージュの城へ向かい、改めて愛の大切さを伝える。だが、クイーンミラージュをそそのかしているディープミラーに妨害されて、ふたりは引き離されてしまうのだった。









▲◀ブルーとクイーンミラージュの和解の機会を、ディープミラーが妨害する







▶キュアフォーチュンの呼びかけで、キュアテンダーに姉妹の記憶が蘇る

第39話 いおな大ショック！キュアテンダーの旅立ち！

やっと再会できた姉が妹の前から去っていく!?

キュアテンダーことまりあが元気になった。4人は彼女がハピネスチャージプリキュアに参加するものと思っていたが、まりあは世界各地のプリキュアを助けるため日本を離れるという。姉を思いとどまらせるために「いおなが勝てばまりあは日本に残る」という条件で空手の勝負を挑むいおな。結果はまりあの勝ち。まりあは、ホッシーワのサイアークを4人が浄化する姿を見届けると、安心して旅立つ。姉の代わりに街を守るいおなは、仲間を厳しく鍛えるのだった。







▲まりあに空手の勝負を挑んだいおな。勝敗は一瞬で決まった



◀勝負に負けたいおなは姉をマッサージ









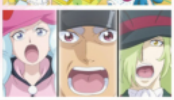
第40話 そこにある幸せ！プリキュアの休日！

三幹部のサイアークは今の4人には弱すぎる!?

休日にめぐみたちは、河原でピクニックを楽しむことにした。そこへ、サイアークの大軍団が出現。負け続けて、クイーンミラージュから最後のチャンスを与えられた三幹部の共同作戦が始まる。あとがない三幹部はすべてのサイアークを合体させる。だが、ハピネスチャージプリキュアは巨大サイアークを簡単に浄化。共に浄化されそうになった三幹部は、あわてて逃走する。それを知ったクイーンミラージュは、自ら戦うことを決意した。



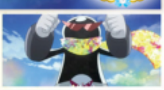




◀自分勝手な三幹部が最後のチャンスを活かすために協力!?











【第40話】STAFF

脚本／小山真　原画／星川信芳、青山充、松田千鶴、飯島秀一、星野守、藤井慎吾、永澤謙一、福本泰子、増田誠治、福島史士、金田栄二、林祐己、上久保聡美、北田美弥子　背景／篤ミキ、佐藤千恵、いいだりえ、Toei Phils.、ネリート・アグーニャ、ルーベン・オレンセ、エルウィン・サデーア　CGデザイナー／小林真理、坂江美弥、関祖輝、真庭秀明、笹井麻希、岩本千尋、伏江克晴、廣澤稀恵、森山美里、海老沢大生、首藤拓、先崎純一、木島啓介　演出助手／鎌谷悠　製作進行／堀越圭文　美術／田中里緑　作画監督／佐藤雅将、赤田信人　演出／鎌谷悠

【第39話】STAFF

脚本／大場小ゆり　原画／佐藤修、水野悦明、藤原未来夫、松本純平、納武史、米田紘、井上和俊、吉崎雅博、仲村信樹、池田雅人、星本晶、並木祐一、庄内陽絵、谷口義明、佐藤絵美、小峰弥生、河村信道、石井さゆり、横山紗弓、藤井裕子、高橋任治、星野守　背景レイアウト／篠崎博、本間薫　背景／瀧谷勝己、宮本里香、Toei Phils.、エルウィン・サデーア　CGデザイナー／日向学、さとうえい、宮本浩史、中谷純也、中村佳嗣、宮澤孝介、山崎浩司、長谷川太陽、赤瀬平、鄭載薫、吉田秀一、芦野健太郎、澤志織　製作進行／小見山慎二　美術／斉藤優　作画監督／織岐一喜、近藤瑠衣　演出／篠坂明規

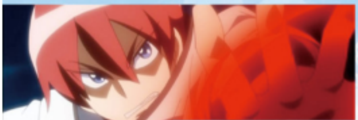
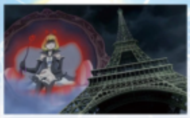
【第38話】STAFF

脚本／成田良美　原画／青山充、増田誠治、高橋任治、濱野裕一、丸山宏康、伊藤公崇、板岡錦、北田美弥子、大内智美、安田陽子、原田節子、栗出太、上久保聡美、生水勇気、永島英樹、藤井孝博、森田岳士、完甘美由子、松田千鶴、藤原舞、会津五月　背景／デザインオフィス・メカマン、高橋英次、石原信明、鈴木祥太、邱文美　CGデザイナー／小林真理、坂江美弥、関祖輝、真庭秀明、笹井麻希、岩本千尋、伏江克晴、廣澤稀恵、森山美里、海老沢大生、首藤拓、先崎純一、木島啓介　演出助手／中村亮太　製作進行／澤守洸　美術／田中美紀　作画監督／赤田信人　演出／中村亮太

ミラージュのために！ファントム最後の戦い！ 第41話

ファントムの真の願いはミラージュの笑顔

クイーンミラージュの号令で、世界各地にサイアークの軍団が出現。めぐみたちは、ブルーと共に幻影帝国へ急行する。以前訪れたときと違い、パワーアップした今はプリキュアの実力を発揮できる。だが、敵を蹴散らして進む4人が、突然の霧で離ればなれに。そしてキュアハニーの前にファントムが現れる。戦いの最中、キュアハニーは、ファントムがミラージュを苦しませないために戦ってきたことを知る。彼のミラージュへの強い愛を感じたキュアハニーは、集まった3人と協力してファントムを浄化。光の中で「ミラージュの笑顔をもう一度見たい」という本当の願いを思い出したファントムは、妖精ファンファンの姿に戻る。プリキュアたちは、王城へ向かった。





▲謎の邪悪なパワーによって、ファントムのブルーに対する怒りやミラージュに対する哀しみが燃え上がる




◀▲光に包まれて浄化されるファントム。その正体は、キュアミラージュの妖精ファンファンだった



幻影帝国の決戦！プリキュアVS三幹部！ 第42話

1対1のサシの勝負でついに三幹部と決着！

王城に潜入したハピネスチャージプリキュアたちは、チョイアークの群れを倒して、クイーンミラージュの部屋へ通じる塔の入口へたどり着く。そこへ三幹部が現れる。ブルーとキュアラブリーたちを先へ進めるため、キュアプリンセスら3人は三幹部と1対1で戦って足止めする。キュアプリンセスはナマケルダ、キュアハニーはホッシーワ、キュアフォーチュンはオレスキーと激闘を展開。プリキュアたちは、イノセントフォームのそれぞれの技で相手の動きを封じ、純粋な想いを伝える。それを聞いた三幹部は、自分たちが間違っていたことに気づき、笑顔で浄化される。一方、ブルーとキュアラブリーは、巨大な鏡の中にあるクイーンミラージュの部屋へたどり着いた。












▲キュアラブリーとブルーたちが仲間の気持ちに応えて先を急ぐ




◀プリキュアたちが本音で話してくれたので、三幹部は反省できた。3人はお礼を言って消えていく













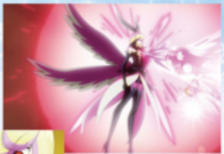
【第42話】STAFF

脚本／小山真　原画／舛潟和彦、上野泰寛、松崎一、柴田有香、若菜宣範、清水博明、菊永智美、森下昇吾、渡部竜司、岩永浩輔、菅原浩喜、松本和志、塩澤桜、長田雄樹、菊田史子、長谷部なつみ、笛木優奈、松井誠、ライジングフォース、旭陽動画、UEC　背景レイアウト／本間薫、鶴崎博　背景／宮本里香、猿谷勝己、Toei Phils.、グレース・トーラー　CGデザイナー／小林真理、坂江美弥、関祖輝、真庭秀明、笹井麻希、岩本千尋、伏江克朗、廣澤祐恵、森山美里、海老沢大生、首藤拓、先崎純一、木島啓介　製作進行／増木弘明、藤田裕人　美術／斉藤優　作画監督／松井誠、森悦史　絵コンテ／田中孝行　演出／大庭秀昭

【第41話】STAFF

脚本／高橋ナツコ　原画／河野宏之、藤井孝博、永島英樹　背景／篤ミキ、山下千歌、田中里緑、西田渚、Toei Phils.、エルウィン・サデーア　CGデザイナー／日向学、さとうえい、宮本浩史、中谷純也、中村佳嗣、宮澤孝介、山崎浩司、長谷川太陽、赤瀬平、鄭載勲、吉田秀一、芦野健太郎、澤志織　演出助手／嶋谷将　製作進行／澤守洸　美術／飯野敏典　作画監督／河野宏之　絵コンテ／三塚雅人　演出／岩井隆央





▶クイーンミラージュの強さは圧倒的。キュアラブリーは緒戦でボロボロ







第43話 ぶつけあう想い！ラブリーとミラージュ！

クイーンミラージュの野望と本心はまるで逆!?

クイーンミラージュの野望は、世界を不幸に染めてブルーを絶望させること。ブルーを捕らえた彼女は、その前でキュアラブリーを叩きのめす。しかし、キュアラブリーは、クイーンミラージュが本心ではブルーを今でも愛していることを感じ取る。ブルーのことが大好きなキュアラブリーにはよくわかるのだ。ブルーもミラージュを愛しており、彼が幸せになるためにはミラージュが必要だと訴えるキュアラブリー。戸惑うクイーンミラージュは、ディープミラーの「憎め」という呼びかけで、再び悪に染まる。そこへキュアプリンセスたちが到着し、4人の歌声でクイーンミラージュを浄化。ブルーは、本当の姿へ戻ったミラージュを抱きしめて「愛している」と告白した。

◀大好きなブルーがミラージュに愛の口づけ。キュアラブリーの頬を伝う涙の意味は……？







◀「私の前でキスはひどい」。ブルーへの文句を爆発させるめぐみは、お菓子をやけ食い！



第44話 新たなる脅威!? 赤いサイアーク!!

失恋しためぐみを狙って謎の赤い髪の男が急襲！

失恋しためぐみを心配したひめたちは、めぐみの家でパジャマパーティーを開催。翌朝、誠司はめぐみを外へ連れ出す。親身になって心配する彼のやさしさに触れためぐみは号泣し、悲しみを吐き出した。その後、ひとりでいためぐみは、赤いサイアークに襲われる。キュアラブリーに変身して立ち向かうと周囲は闇に包まれ、ディープミラーの中にいた、謎の赤い髪の男が現れる。その男が「世界を変えて幸せになれ」とささやくと、キュアラブリーの胸に「憎しみの結晶」が生まれる。だが、誠司の呼びかけで自分を取り戻したキュアラブリーは、駆けつけたキュアプリンセスたちと共に、赤いサイアークの浄化に成功する。一方、逃走した赤い髪の男は、次の狙いを誠司に定めた。



◀赤いサイアークに苦戦するキュアラブリーを赤い髪の男が憎しみの世界へ誘う







◀赤い髪の男の甘い誘惑を断ち切り胸から「憎しみの結晶」を引き抜く





【第44話】STAFF

脚本／成田良美　原画／星川信芳、藤原舞、原田節子、濱野裕一、上野ケン、丸山匡彦、東出太、林祐己、森宗弘樹、会津五月、大内綾美、安田陽子　背景／デザインオフィス・メカマン、高橋英次、石原信明、鄧文美、鈴木祥太、志賀友香　CGデザイナー／小林真理、坂江美弥、関裕輝、真庭秀明、笹井麻希、岩本千尋、伏江克騰、廣澤稀恵、森山美里、海老沢大生、首藤拓、先崎純一、木島啓介　演出助手／嶋谷将　製作進行／澤守洸　美術／田中美紀　作画監督／上野ケン　演出／大塚隆史

【第43話】STAFF

脚本／成田良美　原画／高橋任治、星野守、清水隆正、北田美弥子、板岡錦、田中伸昭、増田誠治、飯島秀一、野津美智子、志田ただし　背景／篁ミキ、佐藤美幸、いいだりえ、飯野敏典、増田竜太郎、Toei Phils.、エルウィン・サデーア　CGデザイナー／日向学、さとうえい、宮本浩史、中谷純也、中村佳嗣、宮澤孝介、山崎浩司、長谷川太陽、赤瀬平、鄭載薫、吉田秀一、芦野健太郎、澤志織　演出助手／鈴木裕介　製作進行／堀越圭文　美術／佐藤千恵　作画監督／稲上晃　演出／座野森生

第45話 敵は神様!? 衝撃のクリスマス!

謎の赤い髪の男の正体はブルーと同じ神様だった

クリスマスイブに、めぐみたちは大森ごはんでランチパーティーを開いた。４人は手作りマフラーを交換し、めぐみは誠司にもマフラーをプレゼント。誠司はお返しにブローチを贈った。同じころ、街に赤いサイアークが出現。急行するめぐみを見送る誠司が赤い光に包まれる。４人の活躍で赤いサイアークの浄化に成功したが、ブルーと共に駆けつけたミラージュは嫌な予感が収まらない。そこに謎の赤い髪の男が登場。彼こそ、ディープミラーとしてミラージュをだましていた黒幕で、ブルーと同じ神のレッドだ。「最高の不幸を贈る」と不敵に笑うレッドに導かれて姿を現したのは、憎しみの結晶を植えつけられた誠司だった。





▲めぐみ→ゆうこ→ひめ→いおな→めぐみの順で贈り物を交換

◀誠司用のマフラーは長く編みすぎた!?





◀ランチパーティーの前に、特製クリスマスチキンの店頭販売をお手伝い









第46話 愛と憎しみのバトル! 誠司VSプリキュア!

プリキュアたちの愛の力は憎しみの力にはかなわない!?

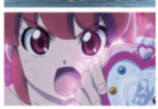
憎しみの結晶に支配された誠司には、キュアラブリーの声は届かなかった。レッドは、誠司が憎しみの結晶に取り込まれた原因は、プリキュアを支える彼の気持ちを誰もわかろうとしなかったからだと言う。それを聞いたキュアラブリーはショックを隠せなかった。レッドは誠司を連れて、地球に激突させるために呼び寄せた赤い星へ向かう。変身が解けためぐみは、ふたりを追うどころか、目前に迫る赤いサイアークに反撃する気力もない。そこへキュアテンダーや世界各地のプリキュアが駆けつける。仲間たちの励ましで勇気を得た４人は再びプリキュアに変身。赤いサイアークを浄化して、地球へ迫り来る赤い星を目指す。

▼憎しみの結晶に操られる誠司が放った一撃でプリキュアの変身が吹き飛んだ!









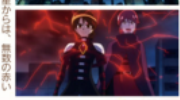






▶地球に迫る赤い星からは、無数の赤いサイアークやチョイアークがやってくる





第47話 ありがとう誠司! 愛から生まれる力!

キュアラブリーの愛はすべてを受け止める愛

赤い星へ向かうハピネスチャージプリキュアの前に、誠司が立ちふさがる。胸の憎しみの結晶を破壊することで誠司を救出しようとするキュアラブリーたち。だが「憎しみの感情も誠司の一部。壊すことはできない」と感じたキュアラブリーは、憎しみを打ち砕くのではなく、正面から受け止めることに決めた。誠司の動きを封じて、彼への感謝や「みんなで幸せに暮らしたい」という願いを語りかけるキュアラブリー。彼女の想いは、憎しみの結晶の中で閉ざされたはずの誠司の心を開かせる。４人の歌声で憎しみの結晶は浄化されて、誠司は元に戻る。ブルーは愛の大切さを訴えるが、レッドは「愛は幻」という考えを改めなかった。





◀▲キュアラブリーは、今まで誠司が彼女にしてくれたように、彼の気持ちを受け止めることにした

【第45話】STAFF

脚本／大場小ゆり　原画／ノエル・アンニョヌエボ、ユージン・アイソン、アルフレッド・レイエス、ロメル・ブーラ、デニス・カブラオ、フランクリン・タマング、アレン・ジェラルディーノ、マービン・メンドーサ　背景レイアウト／鷲崎博、本間薫　背景／宮本里香、藤原友美、チェン・ヤンフェイ、増田竜太郎、Toei Phils.、ルーベン・オレンセ　CGデザイナー／臼向学、さとうえい、宮本浩史、中谷純也、中村佳嗣、宮澤孝介、山崎浩司、長谷川太陽、赤瀬平、鄭載薫、吉田秀一、芦野健太郎、澤志織　演出助手／鈴木裕介　製作進行／堀越圭文　美術／斉藤優　作画監督／ジョーイ・カランギアン、フランシス・カネダ　絵コンテ／入好さとる　演出／岩井隆央

【第46話】STAFF

脚本／小山真　原画／星野守、原田節子、上久保聡美、田中伸昭、藤原未来夫、佐藤元、冨木由美子、会津五月、岩永浩輔、藤原舞、増田誠治、大内智美、安田陽子　背景／飯野敏典、いいだりえ、田中里緑、佐藤千恵、Toei Phils.、エルウィン・サデーア　CGデザイナー／小林真理、坂江美弥、関裕輝、真庭秀明、笹井麻希、岩本千尋、伏江克騎、廣澤稀恵、森山美里、海老沢大生、首藤拓、先崎純一、木島啓介　演出助手／中村亮太　製作進行／澤守洸　美術／篝ミキ　作画監督／星野守　演出／中村亮太

【第47話】STAFF

↘中谷純也、中村佳嗣、宮澤孝介、山崎浩司、長谷川太陽、赤瀬平、鄭載薫、吉田秀一、芦野健太郎、澤志織　演出助手／嶋谷将　製作進行／堀越圭文　美術／田中里緑　作画監督／赤田信人　演出／三塚雅人







第48話 憎しみをこえて！誕生！フォーエバーラブリー！

地球の人々の愛が集まってキュアラブリーの力になる！

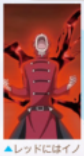
赤い星でレッドと戦う4人は、イノセントフォームの歌声による浄化を狙うが、レッドには効かない。逆に、キュアラブリー以外の全員が鏡に閉じ込められてしまう。レッドは、地球を襲う理由をキュアラブリーに語った。赤い星は「惑星レッド」と呼ばれ、かつては生命が満ちあふれていた。だが、生き物は滅びた。絶望したレッドは、ブルーの地球も同じ目に遭わせようとしているのだ。一方、地球では、世界中の人々の想いが愛の光となり、赤い星へ向かっていた。愛の光によって惑星レッドは美しい姿を取り戻す。さらに、キュアラブリーは、新たに生まれたプリカードでフォーエバーラブリーに変身した。







◀▲地球の人々の愛の光が集まって３枚のプリカードに！



▲レッドにはイノセントフォームの技が一切効かない







第49話 愛は永遠に輝く！みんな幸せハピネス！

フォーエバーラブリーの愛ですべての人が幸せチャージ！

「愛は永遠に心にあり続ける」と説くフォーエバーラブリーは、レッドにも「惑星レッドでの幸せだった思い出の愛、滅びた星を想い続ける愛」があると言う。彼女の「プリキュア・フォーエバーハピネスシャワー」で、レッドと地球で暴れるサイアークは浄化。愛を取り戻したレッドは、惑星レッドを蘇らせることを誓う。ブルーとミラージュがそれを手伝うことになり、３人を乗せた惑星レッドは地球から離れていった。平和になったぴかりが丘では、三幹部が元の姿に戻り、ファンファンは「大森ごはん」で料理の修業をしていた。下校の道すがら、めぐみは「みんなとプリキュアができてよかった」と、幸せをかみしめた……。













◀ひめは、ブルースカイ王国に戻らず、卒業まで日本で暮らす











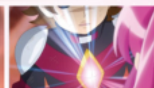
▲地球を去るブルーは、プリキュアに愛の結晶を託した

▼実はレッドとブルーは兄弟。3人で惑星レッドを蘇らせる

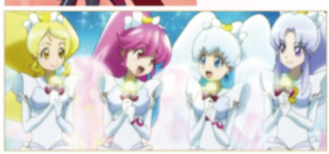








◀▲胸の憎しみの結晶内で閉ざされていた誠司の心が、彼の本当の想いを語りかける





【第49話】STAFF

脚本／成田良美　**原画**／大田和寛、佐藤雅将、馬越嘉彦、星野守、高橋任治、清水隆正、飯島秀一、田中伸昭、赤田信人、増田誠治、福本泰子、福島史士、野津美智子、金田栄二、原田節子、佐藤元、松田千鶴、小山直子、上久保聡美、北田美弥子、永澤謙一、Toei Phils.
背景／デザインオフィス・メカマン、高橋英次、石原信明、上原里香、邱文美、鈴木祥太、志賀友香　**CGデザイナー**／日向学、さとうえい、宮本浩史、中谷純也、中村佳嗣、宮澤孝介、山崎浩司、長谷川太陽、赤瀬平、鄭載薫、吉田秀一、芦野健太郎、澤志織　**演出助手**／鈴木裕介　**製作進行**／堀越圭文　**美術**／田中美紀　**作画監督**／佐藤雅将　**演出**／長峯達也

【第48話】STAFF

脚本／成田良美　**原画**／河野宏之、藤井孝博、永島英樹、増田誠治、星野守
背景レイアウト／鯉崎博　**背景**／宮本里香、本間薫、Toei Phils.、ネリート・アクーニャ
CGデザイナー／小林真理、坂江美弥、関裕輝、真庭秀明、笹井麻希、岩本千尋、伏江克勝、廣澤楠恵、森山美里、海老沢大生、首藤拓、先崎純一、木島啓介
演出助手／中尾幸彦　**製作進行**／澤守洸　**美術**／斉藤優　**作画監督**／河野宏之
絵コンテ／長峯達也　**演出**／中尾幸彦

【第47話】STAFF

脚本／成田良美　**原画**／星川信芳、飯島秀一、高橋任治、松田千鶴、金田栄二、北田美弥子、永澤謙一、清水隆正、野津美智子、福本泰子、福島史士、赤田信人　**背景**／飯野敏典、萬ミキ、山下千歌、Toei Phils.、グレース・トーラ
CGデザイナー／日向学、さとうえい、宮本浩史、／

プリキュア10周年おめでとうメッセージ

本作の冒頭では歴代プリキュア 33 人+『ハピネスチャージプリキュア！』による、『プリキュア』シリーズ 10 周年お祝いメッセージが放送された。ここで、そのすべてのコメントを見てみよう！



1 キュアブラック（美墨なぎさ）

（声／本名陽子）

キュアブラックだよ。プリキュア10周年、ありがとう！ これからもよろしくね。えいっ！

『ふたりはプリキュア』『ふたりはプリキュア Max Heart』



2 キュアドリーム（夢原のぞみ）

（声／三瓶由布子）

キュアドリームだよ。プリキュア10周年、ありがとう！ まだまだいくよー！ けってーい！

『Yes!プリキュア5』『Yes!プリキュア5GoGo!』



3 キュアパッション（東せつな）

（声／小松由佳）

キュアパッションよ。プリキュア10周年、ありがとう！ これからも私、精一杯頑張るわ。

『フレッシュプリキュア!』



4 キュアムーンライト（月影ゆり）

（声／久川綾）

キュアムーンライトよ。プリキュア10周年、ありがとう！ これからもよろしくね。

『ハートキャッチプリキュア!』



5 キュアハッピー（星空みゆき）

（声／福圓美里）

キュアハッピーだよ。プリキュア10周年すごーい。もっと、もっと、もーっと、ウルトラハッピー！

『スマイルプリキュア!』



6 キュアイーグレット（美翔舞）

（声／榎本温子）

キュアイーグレットです。プリキュア10周年、ありがとうございます。これからも、よろしくお願いします。

『ふたりはプリキュア Splash☆Star』



7 キュアアクア（水無月かれん）

（声／前田愛）

キュアアクアよ。プリキュア10周年、ありがとう。これからも応援、よろしくね。

『Yes!プリキュア5』『Yes!プリキュア5GoGo!』



8 キュアパイン（山吹祈里）

（声／中川亜紀子）

キュアパインです。みんなのおかげで、プリキュアは10周年を迎えることができました。これからも、よろしくお願いします。

『フレッシュプリキュア!』



9 キュアリズム（南野奏）

（声／折笠富美子）

キュアリズムです。プリキュア10周年、ありがとうございます。これからも、よろしくお願いしますね♪

『スイートプリキュア♪』



10 キュアブロッサム（花咲つぼみ）

（声／水樹奈々）

キュアブロッサムです。プリキュア10周年、すごいです！ これからも、よろしくお願いします。

『ハートキャッチプリキュア!』



11 キュアマーチ（緑川なお）

（声／井上麻里奈）

キュアマーチだよ。プリキュア10周年、ありがとう！ これからも、直球勝負！

『スマイルプリキュア!』



12 キュアハート（相田マナ）

（声／生天目仁美）

キュアハートだよ。プリキュア10周年、キュンキュンだね。これからも、ドキドキ全開だよ！

『ドキドキ!プリキュア』



13 キュアミント（秋元こまち）

（声／永野愛）

キュアミントです。プリキュア10周年、ありがとうございます。これからも、よろしくお願いしますね。

『Yes!プリキュア5』『Yes!プリキュア5GoGo!』



14

♥キュアフォーチュンです。プリキュア10周年！
♥ありがとう！ 今日はプリキュア放送500回記念だよ!!
♥すごごごーい！ みんなのおかげだよ！ ♥もう！ ちゃんとやりなさいよ！
♥わかった！ これからもプリキュア……♥♥♥♥よろしくお願いしまーす！

『ハピネスチャージプリキュア!』



15 キュアメロディ（北条響）

（声／小清水亜美）

キュアメロディです。プリキュア10周年、ありがとう。これからも、まだまだいくよ！

『スイートプリキュア♪』



16 キュアベリー（蒼乃美希）

（声／喜多村英梨）

キュアベリーよ。プリキュア10周年って、完璧よね。これからも、よろしく！

『フレッシュプリキュア!』

17位



キュアルージュ（夏木りん）

（声／竹内順子）

キュアルージュです、プリキュア10周年、ありがとう！ これからもどうぞ、よろしくね、そーれっ！

『Yes!プリキュア5』『Yes!プリキュア5GoGo!』

18位



キュアピーチ（桃園ラブ）

（声／沖佳苗）

キュアピーチだよ、プリキュア10周年、すごいよね～、みんなで幸せゲットだよ！

『フレッシュプリキュア!』

19位



キュアエース（円亜久里）

（声／釘宮理恵）

キュアエースですわ、プリキュア10周年、すばらしいですわね、まだまだ全力でいきますわよ、バキューン！

『ドキドキ!プリキュア』

20位



キュアサンシャイン（明堂院いつき）

（声／桑島法子）

キュアサンシャインだよ、プリキュア10周年、ありがとう、これからも、よろしくね。

『ハートキャッチプリキュア!』

21位



シャイニールミナス（九条ひかり）

（声／田中理恵）

シャイニールミナスです、プリキュア10周年、ありがとうございます、これからも、よろしくお願いします。

『ふたりはプリキュア Max Heart』

22位



キュアビューティ（青木れいか）

（声／西村ちなみ）

キュアビューティです、プリキュア10周年、ありがとうございます、これからも、よろしくお願いいたします。

『スマイルプリキュア!』

23位



キュアブルーム（日向咲）

（声／樹元オリエ）

キュアブルームだよ、プリキュア10周年、ありがとう、これからも頑張るなり～、いえいっ！

『ふたりはプリキュア Splash☆Star』

24位



キュアレモネード（春日野うらら）

（声／伊瀬茉莉也）

キュアレモネードです、プリキュア10周年、ありがとうございます、これからも、よろしくお願いします。

『Yes!プリキュア5』『Yes!プリキュア5GoGo!』

25位



キュアダイヤモンド（菱川六花）

（声／寿美菜子）

キュアダイヤモンドよ、プリキュア10周年、ありがとう、これからも、よろしくお願いします。

『ドキドキ!プリキュア』

26位



キュアビート（黒川エレン）

（声／豊口めぐみ）

キュアビートよ、プリキュア10周年、ありがとう、この勢いは、止められないわ！

『スイートプリキュア♪』

27位



キュアロゼッタ（四葉ありす）

（声／渕上舞）

キュアロゼッタですわ、プリキュア10周年、ありがとうございます、これからも、愛を育んでくださいね。

『ドキドキ!プリキュア』

28位



キュアマリン（来海えりか）

（声／水沢史絵）

キュアマリン登場！ プリキュア10周年だって～！ みんなのおかげだよ～！ これからも、よろしくッシュ！

『ハートキャッチプリキュア!』

29位



キュアピース（黄瀬やよい）

（声／金元寿子）

キュアピースだよ、プリキュア10周年、やったね！ まだまだ、これからも、よろしくね！

『スマイルプリキュア!』

30位



ミルキィローズ（美々野くるみ）

（声／仙台エリ）

ミルキィローズよ、プリキュア10周年 ありがとう！ まだまだ頑張るわね。

『Yes!プリキュア5GoGo!』

31位



キュアサニー（日野あかね）

（声／田野アサミ）

キュアサニーやで、プリキュア10周年もおおきに！ これからもはりきって、いっくでー！

『スマイルプリキュア!』

32位



キュアソード（剣崎真琴）

（声／宮本佳那子）

キュアソードよ、プリキュア10周年、ありがとう！ これからもよろしくね！

『ドキドキ!プリキュア』

33位



キュアミューズ（調辺アコ）

（声／大久保瑠美）

キュアミューズです、プリキュア10周年、ありがとう、これからもよろしくね！

『スイートプリキュア♪』

34位



キュアホワイト（雪城ほのか）

（声／ゆかな）

キュアホワイトです、プリキュア10周年、ありがとうございます、これからもよろしくお願いします。

『ふたりはプリキュア』『ふたりはプリキュア Max Heart』

STAFF INTERVIEW 1

スタッフが制作秘話を語ります!!

シリーズディレクター

長峯達也

PROFILE

【ながみね・たつや】

10月6日生まれ。東京都出身。アニメ監督、演出家。主なアニメの担当作品は、『聖闘士星矢Ω』、『ハートキャッチプリキュア！』（ともにシリーズディレクター）、『ONE PIECE FILM Z』（監督）など。

言葉では説明できない多くのことをアニメから感じ取ってくれればうれしい

「幸せ」と「恋愛」を軸にした『プリキュア』

――今回、シリーズディレクター（以下SD）を担当することになったのは、柴田宏明プロデューサー（以下柴田P）からオファーがあったからだとうかがいました。

柴田Pとは2012年に『ONE PIECE FILM Z』をいっしょにやっていて、その流れでオファーがありました。キャラクターデザインのサトマサ（佐藤雅将）さんを選んだのも、やはり『ONE PIECE FILM Z』をいっしょにやっていたから。柴田Pから『プリキュア』の話を聞いていたので、サトマサさんにも『プリキュア』をお願いするかもしれないと話していたところに、当時担当していた『聖闘士星矢Ω』（2013年）の2年目も決まったんですよね。その作業が佳境になったころに今回のオファーがあったので、かなり大変でしたよ。

――シリーズ構成のオファーもSDが？

成田さんとも『聖闘士星矢Ω』で共に仕事をしていたし、本作は『プリキュア』シリーズの10周年を飾るものだから、『プリキュア』に詳しい方がいいだろうとお願いしました。成田さんは以前から恋愛ものがやりたいとおっしゃっていたので、成田さんの好きにやってほしいとも伝えていたのですが、やはり『プリキュア』で恋愛はなかなか難しかったという印象ですね。

――成田さんにオファーを出した時点で、各キャラクターの設定も、かなり詳しいメモがあったそうですね。

プリキュアの人数に関しては、玩具会社から4人でと言われていたので、それに添って考えました。ただ、キャラクターの設定のほかにストーリーでも使えるメモは出していたんだけど、あまり使われた記憶がありませんね。

――その段階で、テーマが「幸せ」であることも決まっていたのですか？

『ハートキャッチプリキュア！』（2010〜2011年）のSDをやっていたときに、梅澤淳稔プロデューサーが「ハッピープリキュアを作りたい」と言っていたんですよ。でも、『ハートキャッチ』は「幸せ」がテーマにならなかったので、じゃあ今度こそと思って。「幸せ」とはなんだろうという普遍的なテーマに臨むつもりだったのですが、意外とキャラクターの日常を描くような話が続いてしまって、そこは僕の技量がたりなかったのかなと反省しています。

――成田さんが恋愛ものをやりたいとおっしゃっていたというお話でしたが、ここまで恋愛が前面に押し出された『プリキュア』は初めてですよね。

僕自身は、もうちょっと感覚的なものをイメージしていたんですよね。好き嫌いにしても、心と心の触れ合いをメインにできたら子どもたちに伝わるのかなと。恋をすることで人間的に成長していく姿が描けたらと考えてはいたのですが、相手のことを好きか嫌いかという部分だけが大きく出てしまいました。

やはり、子どもに向けて作品を作る場合は、メインのキャラクター同士が仲よくしている姿が観ていて楽しいんだと思うんですよ。そういう意味では、もう一歩メインの子たちをキャッキャウフフさせたかった。



――プリキュア同士の絡みといえば、プリンセス&フォーチュンは顕著でしたね。

観ている子どもたちは、年齢的に考えてもストーリーよりキャラクターに興味を持つんです。時間的にも朝起きてすぐの放送だし、家によってはお母さんが掃除をしていてうるさいかもしれない。そういう場合は、セリフで聞かせるのではなく、絵で見せることを意識する必要があるなと。だから、プリキュア同士が仲よくできるようにと心がけて作品を作っているんです。プリンセスとフォーチュンは、物語の最初のころはケンカをしていますが、そこも嫌味にならないようにと気を使いましたね。



――そういう意味では、44話のパジャマパーティーが、ひとつの理想形なんですね。

画面も華やかになりますし、キャストのみなさんも楽しそうでしたね。



『プリキュア』の基本形はふたり



――キャラクターに関して、めぐみは自分よりも相手を優先させるタイプでしたね。

めぐみがああいう性格になってしまったのは、お母さんの存在が大きいですね。病弱だったお母さんのために自分が頑張るとお母さんが喜んでくれる。それが自分にとってもうれしい。自分の幸せと他人の幸せがイコールだったんです。最初のころ、めぐみがおしゃれにまったく気を使わなかったのは、まさに相手を優先し、自分のことを省みなかったことの象徴です。最終的には、自分のことも省みたうえで自分もみんなも幸せになるという流れになりました。

実際のオンエアには使いませんでしたが、お母さんと世界平和のどちらを取るのかという流れも考えました。ちょっとハードになりすぎちゃう感じがしたので、結局オンエアのような流れになりました。

――プリンセスが、最初に登場したプリキュアなのに、かなり臆病だというのも印象に残りました。

4人のプリキュアは、ラブリーが「愛」、プリンセスが「勇気」、ハニーが「やさしさ」、フォーチュンが「運命」の象徴であるというイメージで作っていました。でもプリンセスは、最初はヘタレで頑張れない。ラブリー／めぐみの姿を観て自分も頑張らないと、と影響を受けて成長していくキャラクターになりました。また、ハニー／ゆうこに関しては頑張っている人を助けたい、見守りたいというキャラクターでしたね。フォーチュン／いおなはこうしたいという理想があるんだけど、現実を見て、それに沿ってどうやって生きていくかを考えてしまう。ある意味運命に縛られているキャラクターでもありました。ただ、この雰囲気を言葉で説明するのではなく、アニメの雰囲気で出せればなと考えていたんです。フォーチュンに関しては、もうちょっと丁寧に仲間になるまでを描きたかったですね。



――以前SDを担当された『ハートキャッチプリキュア！』で青色系統だったキュアマリン／来海えりかのコミカルさを、プリンセスも受け継いでいるように見えました。

僕の中では青色系統＝クールというイメージがまずないんです。単純にピンクと青というコンビを作ったとき、ピンクが何を考えているのかを視聴者に伝えるのに、隣に立たせる青が自分から動いていくキャラクターだと都合がいいんです。今回は「幸せ」という普遍的なテーマでしたから、あえて主人公のめぐみは極端なクセのある性格にせず、ひめとの関わり合いで動いていくようなキャラクターにしました。『ハートキャッチプリキュア！』では、主人公のキュアブロッサム／花咲つぼみをキュアマリン／えりかがどんどん押して、えりかがつぼみにかまうという関係でしたが、本作は逆でめぐみがひめをかまう関係になりました。

そもそも僕にとっての「プリキュア」のコンセプトは、やはり『ふたりはプリキュア』で提示された「女の子のバディもの」です。ですから、基本はふたり＋αであり、メインのふたりが大事。何より3人、4人のキャラクターが一度に話しても、聞き取れないですし。だから、メインがふたりという感じがいいかなと。



――ふたりが絡むことによって、どんどん関係性が強くなっていきますよね。そこに、3人目、4人目が加わって関係の輪が広がっていく。

「プリキュア」は1年のシリーズですが、1年間やる醍醐味は、キャラクターの関係性が積み上げていけるところだと思っています。たとえば、最初に考えていたテーマやストーリーから展開がズレていってしまっても、キャラクターの積み上げがあれば、お話がどの方向にいっても大丈夫なんじゃないかな。最初に敷いたレール通りに話を進めようとすると面白くなくなるし、役者も乗らないんですよ。うまくいっているときは、役者がこちらの演出を受け付けなくなりますからね。たしか『ハートキャッチプリキュア！』のラストのほうでは、キュアムーンライト役の久川綾さんがそんな感じでした。僕が指示を出す前から、「わかっています！」って（笑）。本作では中島愛さんが最終話でセリフがうわずってしまったり感極まったりしてしまって、それは当然オンエアでは使えないのですが、そこまで感情移入してもらえたのはうれしかったですね。自分でやっていてうまくいっているなと思うと、自分の演出したエピソードで泣きますからね（笑）。僕はそのためにSDをしているんだと言っても過言ではありません。



女の子と対等な男の子のキャラクター

――本作では、メインのプリキュア以外にも魅力的なキャラクターがたくさん登場しましたが、その中でも誠司は年齢の割に大人びていましたね。

アニメ作品の中には、極端に女の子を持ち上げたり、女の子に対して過敏な反応をしたりする男の子が登場する作品も多いのですが、本作ではそういう男の子を出したくなかったんです。かといって、少女マンガのように男の子が女の子の上に立つような感じにもしたくなくて、対等な関係を作らせたかった。

男に余裕を持たせようとすると、どうしても王子様とか年上になっちゃうんですよね。でも、女の子を特別視せず、困ったら助けてあげるし、自分が困ったら助けてもらう。身近にいる男の子が誠司なんです。かまえていないだけで、特別イケメンにしようと思ったわけではないんですよ。そのせいか、誠司は無償で助けてくれるお父さんみたいな存在になりましたね。

――いおなに告白する海藤くんや、ひめと文化祭でいっしょに行動する生徒会長といった男の子も、女の子と対等であるというイメージですか？

そうですね。ふたりとも紳士でしたね。

――そう考えると、逆にブルーが子どもっぽく見えてきます。

それはほら、"だめんず"のほうが女の子にモテるじゃないですか（笑）。

多くのパターン崩しに挑戦させてもらった本作

――敵キャラクターに関しては、どういったイメージでしたか？

まず三幹部は憎めないキャラクターになるようにしました。3人とも個性が強いので、役者さんもかなりノリノリでしたね。ホッシーワ役の岡村明美さんはアドリブ連発で、彼女がホッシーワというキャラクターを作ったも同然です。ナマケルダ役の金尾哲夫さんは、このキャラクターは自分が演じるには若すぎるんじゃないかとおっしゃっていましたが、若作りをしようかともおっしゃっていました。声って作ろうとすると演技に気持ちが入りづらくなるんですよ。ですから、「そのままでやってください」とお願いしました。

今回の敵は、普通の人間が持っている欲望やワガママさからできているのですが、絶対悪という

存在があれば倒して終わりでスカッとできますが、相手の正義と自分の正義は違うんだと悩み始めると話が進まなくなってしまうし。でも、実際の世の中はそんなに単純な話ではないし。そんなことを考えていたので、レッドの造形を検討しているときに、悪についてかなりわからなくなったんですよね。悲しみを背負った敵で、それをプリキュアたちの愛で救うというのがパターンですが、このような話の作り方はもう限界かなと思っています。レッドのような宇宙規模の悪を作ると、地球規模の悪が小さいなと思えるようになっちゃって。散々宇宙で戦ったり神と戦ったりしていると、地球で戦うのがしょぼく見えてくる。そろそろ敵をスケールダウンしないと、視聴者に響かないんじゃないかなと思っています。

——ということは、長峯SDはクイーンミラージュくらいが、敵としてふさわしいとお考えですか?

そうですね。ブルーへの憎悪という個人的な理由で戦っているあたりが(笑)。

——本作では、ラスボスであるレッドが割と早くに正体を明かしましたね。

これまでのシリーズだと、ラスボスは残り3話で現れるみたいなパターンだったので、少し前倒してみました。本作では、パターン崩しをいろいろとやらせてもらいました。「世界のプリキュア」を登場させたのも、その一環です。世界の危機って言われているのに、中学生4人で解決するには無理があるなと思って。あるいは、「プリキュア」は毎回敵を倒すフォーマットになっているけど、敵を倒さない話があってもいいのかなとも思っていますね。

——ブルーとレッドが兄弟だというのは、最初から決まっていたのですか?

決めていました。そのくらい強いつながりがないと、レッドがただのワガママな人で終わってしまう気がしたので。兄弟なら、深い理由はないけど、なんとなく気にくわないということもあるじゃないですか。それに、赤の他人よりは憎悪の感情をぶつけやすいかなと思ったんです。

メインキャストは感覚で選んだ

——メインキャストのオーディション時の思い出を教えてください。



オーディションでは、「ひと言も聞き逃さないようにしよう」とは思わず、肩肘を張らないようにしています。もちろん真剣には聞いていますが、ピンとくる人はひと言でもピンとくるので。ラブリー/めぐみ役の中島愛さんはハニー/ゆうこで受けていたのですが、聞いているうちに「ラブリー/めぐみのセリフを聞きたいな」と思うようになって。実際に話してもらったら、彼女の声が一番ラブリー/めぐみとしての説得力があると感じました。

ひめ/プリンセス役の潘めぐみさんは、とにかくうまいという印象。いろんなテクニックも持っていたんですが、テクニックでやらないでくれとお願いしました。プリンセス/ひめは表面上はふざけて見えるところもあるけど、彼女なりにいろいろと考えているので、そこを表現してほしかったんです。ハニー/ゆうこ役の北川里奈さんは、何人か候補がいた中で、一番素直でいい感じだった。実際に合格を伝えてから、レギュラーが初めてだと知ってびっくりしましたよ。でも、玩具の音声の収録を聞いてみたら、上手で掘り出し物でしたね。

——ハニーが「しあわせごはん愛のうた」を歌うことは、オーディションの段階から決まっていたのでしょうか?



そのころはまだ決まっていなかったかな。ハニーはシリーズの途中から登場するプリキュアだったので、何かしらのインパクトを持たせたくて。そもそも、ゆうこのキャラクターが、ごはんが好きでやさしいというだけで、ちょっと弱いなと思っていたんです。そこで歌ったらいいんじゃないかと考えつきました。

——「しあわせごはん愛のうた」は、長峯SDが詞の原案を書いたとうかがいました。

さすがに作詞家ではないので、「ごはんが好き」というコンセプトで歌詞を書いて、それをプロに渡して作ってもらいました。たしか、「夢がなくても　愛がなくても　絶望に落ち込んでも　ごはんがあれば　大丈夫~」みたいな感じだったかな(笑)。「おかずはいらない、ごはんだけでいい」みたいなイメージでした。ゆうこはどの銘柄のごはんが好きなんだろうと、ひめたちが考える話などもメモはしていたんですが、さすがにボツになりましたね。

いおな/フォーチュン役の戸松遥さんは、もう直感でした。聞いた瞬間にこの人だろうと。周りのスタッフも全員一致でしたね。

1年間の積み重ねがキャラクターの人生を作る



——本作は、ラブリーたちが放つ技の数もかなり多かったです。

それはラブプリブレスをどうやって活かすのかを考えた結果です。チョイアークを出したのは、いわゆる「やられキャラ」がいないと、技の威力が伝わりにくいから。ファンタジーものだったら、建物を壊したり大爆発をさせたりすればいいのですが、「プリキュア」だとそうはいかないので。

——4人で放つ「イノセントプリフィケーション」でも歌ったのには驚きました。

それまでに作ってきた決め技がうまくいっていたので、イノセントプリフィケーションのときにも何かをやりたいなとは考えていました。イノセントプリフィケーションは、子どもたちがマネできるものがいいなという観点から、オンエアのようなシンプルな動きになりました。アフレコ現場でこういう動きなんですよと、僕自身が踊って説明すると笑われることもありますが、簡単だなと思ってくれればそれでいいんです。

——シリーズを通して振り返ってみて、いかがでしたか?



最終的には大仰なことを言っていても説得力が出るという方向を目指して作っていきました。最終話のアフレコが近くなると、役者さんが感極まることが多いのですが、そこまで思い入れてくれればうれしい。そのくらい入れ込んでくれると、僕がやっていることは伝わっているんだと感じて、僕もまだ大丈夫だなと安心するんです。シナリオを抜きにしても、キャラクターとして1年間演じていれば、積み上がっていくものはある。人助けはいいことだけど、それと自分の幸せとのつじつまを、どうやって合わせるかというのが、めぐみに与えた命題でした。言葉ではなかなか理解できない部分が多いので、僕たちはアニメを作るんです。アニメの雰囲気から何かを感じ取ってくれていればうれしいですね。

1年間、ラブリー、プリンセス、ハニー、フォーチュンを応援してくれてありがとうございます。「プリキュア」という作品は、TVでの放送が終わっても、「オールスターズ」でキャラクターを追いかけられるのが素敵なところだと思います。いろいろと苦戦も多いシリーズでしたが、キャラクターを成長させて送り出せたと思っています。

STAFF INTERVIEW 2

シリーズ構成 成田良美

PROFILE
【なりた・よしみ】
4月3日生まれ。愛知県出身。脚本家、小説家、作詞家。『ふたりはプリキュア』から『Go!プリンセスプリキュア』まで、すべてのシリーズに参加している唯一の脚本家。そのほか、『聖闘士星矢Ω』、『冒険王ビィト』シリーズでシリーズ構成を担当した。

『プリキュア』シリーズに新たな足跡を残すことができたと思う

長峯SDのメモを元に肉付けをしていった

――長峯達也SDから直接シリーズ構成に、とオファーがあったそうですね。

ちょうど『聖闘士星矢Ω』でごいっしょさせていただいて。その最中に長峯さんが次の『プリキュア』のSDに決まったんです。そこで、「シリーズ構成をやりませんか?」と声をかけていただきました。

――シリーズ構成は『Yes!プリキュア5GoGo!』(2008年)以来ですが、今回は構想の初期から長峯SDのメモがあったとうかがいました。

キャラクターのアイディアや本編でやりたいことのメモをメールでいただきました。それをたたき台にしつつ、私の中でもプロットを考えていった感じですね。その段階でかなりテーマも絞られていたので、私の作業としては楽でしたよ。

――メモを見たときの感想は?

シンプルに面白そうだなと思いました。その段階で、最初にふたりのプリキュアが戦っていて、あとから3人目、4人目が加わることまでは決まっていたんじゃないかな。

――プロットの段階で印象に残ったキャラクターは誰ですか?

ゆうこですね。プリンセスに関しても、臆病ということで今までとは違うなと思ったのですが、ゆうこは「ごはんが好き」と書いてあって、一体どんな子なんだろうと。

最初のころは、みんなで集まって頭を突き合わせるような打ち合わせではなく、『星矢』の打ち合わせのあと、帰り道で歩きながら相談することが多かったです。

――テーマの中に「恋愛」があることも最初から決まっていたんですね。

そうですね。「愛」に関する物語を作りたいというテーマはありました。ですから、主人公の名前も「愛」に関係するものにしたいと。『プリキュア』シリーズは、歴代のプリキュアたちと名前がかぶってはいけないので、まず歴代の子たちの名前を確認して、いくつか考えた中から「めぐみ」を選びました。名前をひらがなにしたのは、やはりターゲットが子どもですから、子どもたちでもすぐ読めるように、と考えてのことです。

ひめは、長峯SDは「あんドーナツ」から派生して安藤なつみという名前を考えていたみたいです。ひめは本名が「ヒメルダ・ウインドウ・キュアクイーン・オブ・ザ・ブルースカイ」と長いですが、学校に通うときの名前は本編で本人も言っていたとおり、『白雪姫』から取りました。彼女は通称「長峯ブルー」と言われていますね(笑)。『ハートキャッチプリキュア!』のキュアマリン/来海えりかと同系統。長峯SDのメモには、「表情豊かでちょっと幼いところもあるけど、根はいい子」と書いてあったのかな。

私は『映画プリキュアオールスターズNewStage』シリーズの脚本も担当させていただいたのですが、「オールスターズ」は登場するプリキュア全員をしゃべらせることが時間の都合でできないんです。歴代のプリキュアの誰をしゃべらせるかと考えたときに、しゃべらせやすいキャラクターというのが出てくるんですよ。それがまさにえりかで。ひめも放っておいても勝手にしゃべってくれるような、そんなキャラクターになってほしかったんです。

――ゆうこ&いおなについては?

ゆうこは、長峯SDが考えてきた名前がかなり凝ったものだったので、私のほうで変更させてもらいました。もちろん、「ごはんが好き」というところから、大盛りごはんをモチーフにしています。弁当店の娘だという設定は当初からあったのではなく、少しずつできてきたように記憶しています。ごはんが好きなら食べるのも好きだし、作るのも好きだろうということで。

いおなは名前に関しても、元々長峯SDが考えたものをそのまま使っています。長峯SDは私が考えたと言うのですが、メモにあるから絶対長峯SDが考えたんですよ(笑)。姉妹であるという設定も最初からあって、彼女を姉にするか妹にするかで悩んだことと、転校生という設定がなくなったことくらいで、ほかはメモの通りですね。

――変身後のプリキュアとしての名前も、メモ通りなのですか?

最初は、キュアハニーがキュアテンダーという名前でした。やさしさ=テンダーということで。ただ、音の響きを聞いたときに、私の中でテンダーと黄色というのが結びつかなかったんです。やはり、『プリキュア』において色は大切なものですから、黄色に合う名前を考えました。ほかのプリキュアはそのままだったと思います。





あえて等身大の中学生に寄り添った脚本

――本作のテーマには「恋愛」と「幸せ」がありました。

テーマをどうするかは長峯SDの中に明確なビジョンがあったので、私はその案をいただきつつ、整えていくのが主な作業でしたね。ただ、歴代のプリキュアたちが当たり前のように自分を犠牲にしてでも地球を救うという話が多かったので、そうではない主人公にしたかった。みんなの幸せが私の幸せ、みんなの笑顔が私の笑顔というのは本当なのかというのを投げかけたかったんです。リアルな中学生の女の子を考えると、もっと利己的なところに思いはあるのではないかと。等身大の中学生らしい女の子を書きたかったんですね。

——リアルな中学生なら、普通に恋もしますよね。

そうなんです。「プリキュア」は子どもが観るということもあって、恋愛を描くのはタブーになりつつありました。実際に脚本を担当するときも、恋愛のエピソードは避けてほしいと言われることもあるくらいで。ですが、今回は長峯さんが「やりましょう」と言ってくれたので、「ついていきます」という気持ちでしたね。ただ、私自身が長く『プリキュア』に関わっていることもあって、「本当に書いていいんですか？」と何回も確認しました。恋愛ものになると、どうしても誰かひとりの話に偏りがちですが、4人全員にほのかながらも恋の要素を盛り込めたことで、リアルさは出せたのではないかと思っています。

ただ、子どもたちが観るものということを考えると、必ずしもリアルにするのがいいわけではないんですよね。恋愛は子どもたちには未経験のことですから、ついてこられなくなってしまう。主人公たちの年齢と視聴対象のズレは毎回考えていますよ。

——ということは、主人公がちょっと幼いキャラクターになるのも、視聴対象の年齢を考えているからですか？

そうですね。観ている子に寄り添っている部分は大きいです。あとはキャラクターのバランスかな。本作はめぐみとひめだけだと、落ち着きがなくてすごく危なっかしいんですよ（笑）。ですから、彼女たちをセーブする役目として、性格的に大人なゆうこと、基本的には冷静ないおなを置いているんです。いわば「重し」ですね。

——実際に「恋愛」をテーマに書いてみて、難しさはありましたか？

恋愛ってうまくいっているときはいいのですが、うまくいっていないと落ち込んだり疑心暗鬼になったりと、キャラクターが暗くなってしまうんです。それが今作では一番悩んだところですね。めぐみがブルーに結果的に失恋することになったあと、44話で女子会を入れたのは、失恋した暗さを引きずりたくなかったからです。めぐみを支えてきてくれた誠司の存在をフォローする意味もありましたが、失恋した暗さを長い話数をかけて引っ張りたくはなかったので、早めに決着がつくようにしました。

——成田さんから見て、めぐみ以外の3人は、恋に発展しているのでしょうか？

それは観ている人に委ねたいですね。ただ、ゆうことファントムに関しては、最終話のラストでファントムが弁当店を手伝いに来ているので、意外とうまくいっているのではないかと思っています。

——ファントムは元々キュアミラージュの妖精でしたが、自在に妖精の姿と人間の姿になれるんですね。

リボンやぐらさんを人間の姿にしようという案もありましたよ。ただ、時間の都合でお蔵入りになってしまいました。ファントムの正体は、最初からミラージュの妖精と決まっていたわけではなく、なかなか決まりませんでした。一案にはミラージュの騎士で、彼女を助けて死んでしまうというものもあったのですが、みんなを幸せにしたいということで、妖精になりました。

——リボンやぐらさんといった妖精に関しては、外見のデザインは玩具会社からの提案があるのですよね？

玩具会社からイラストが届いて、その中からまずビジュアルが決まっていきました。性格に関しては、基本的にこちらで作れるということでしたので、今回は初めてリボンをしっかり者の妖精にしてみました。

ぐらさんは、元々はテンダーの妖精で、フォーチュンを支える役目を担っています。玩具会社からいただいたイラストの中に、サングラスをかけているものがあって、「インパクトがあっていいね！」ということでぐらさんが選ばれたんです。最初は見た目通り、キリッとした雰囲気のある男の子のつもりでシナリオを書いていたのですが、途中でスカートをはいていることに気づいて、女の子だと気づきました（笑）。

敵キャラクターは自分で自由に作った

——敵キャラクターも、最初の段階で決まっていたのですか？

敵キャラクターは私のほうで考えたものが多いです。怠け、欲望、俺様的なキーワードだけいただいて、そこからキャラクターを膨らませていきました。とはいえ、根っからの悪い人ではなく、怒りを周囲にぶちまけているだけなので、最終的には彼らにも救いがあるという方向で、最初からキャラクターを作りました。

——今回、中ボス的な役割のクイーンミラージュが、プリキュアと同世代というのも新しかったですね。

最初にシナリオを書いていたときは、長峯SDから言葉遣いをかなりチェックされました。彼女は「クイーン」と名乗ってはいるけれど、女の子であって女王ではないからと。

——『プリキュア』になるための力をくれるのが、神様だというのも驚きました。

当初のメモには、神様は地球を見守る精霊の集合体のようなものと書いてありました。神様を出すにあたって考えたのは、なんでもできそうだけど、万能にしてしまうとプリキュアが必要なくなるということでした。ですから、神様ではあるけれど、非力な存在であるという位置づけにしました。そのせいか、ブルーにはあまり神様らしさが感じられなくなってしまいましたね。

レッドはブルーの対になる存在ですが、兄弟だというのは私がシナリオを書いた段階では外していたんです。最終話で明かしてもあまり意味がないかなと思って。でも、長峯SDがうまいこと入れ込んでくださって、お話がきれいにまとまりました。

——ブルーは「恋愛禁止」と言いながら、自分が恋に悩んでいましたよね。

シナリオに書いたらスタッフから「禁止ということは、本編で恋愛の話をやるんですね。楽しみにしています」と言われた思い出があります。ブルーはほとんど人と接してこなかったので、禁止と言われるほどやりたくなる気持ちがわからなかったのかな。彼も、めぐみたちと行動するうちに成長していったのだと思います。

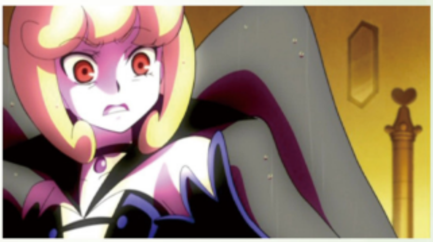
——そして、誠司の存在も欠かせません。

誠司は、私の憧れというか、こんな幼なじみが欲しいというか、そんな思いを込めて書きました（笑）。協力者として男の子を出したいという案は、誰の発案だったかは覚えていませんが当初からありましたね。その段階から、プリキュアチームの中に入れたいという話もあったと思います。

誠司の名前は、最初からめぐみとの恋愛をやっていこうということで、「愛と誠」から取っているんですよ。それに、彼女と恋をするなら、めぐみの置かれている状況を知っていてほしいなというのもありました。それ以前に、めぐみの性格では絶対にごまかしきれなかったでしょうが（笑）。

——プリキュアはこれまで、ほかの人に正体がバレてはいけない、というのがセオリーでしたが、本作ではそれを気にしなかったのでしょうか？

作中にプリキュアの活躍をレポートする増子美代さんがいるので一応隠してはいますが、隠すことに必死にはなっていない感じですね。そのせいか、10話でハニーがあっさり自分の正体をバラすことになって、と









ても面白かったですし、ハニーらしい登場になったかなと思いました。

4人の関わり合いを描くことがメイン

――各話のエピソードに関しては、どのように構成されていったのでしょうか？

本作は、まず1クール（12本）でひめを描き、続いていおなとひめが絡みながら成長する姿、そこからゆうこに触れて、最後にめぐみを描くという構成でした。

『プリキュア』は、ゲストをたくさん出してプリキュアたちの反応を描く場合と、チームをメインにしてドラマを描くやり方とに大きく分かれるのですが、今回は4人のキャラクター性を表に出したいからということで、ドラマが優先でしたね。

特に関わり合いが顕著だったのがいおな&ひめなのですが、当初はいおながひめに対してかなり辛辣な言葉をぶつけ、その和解を中盤の盛り上げとして描こうということになりました。

――本作で一番成長したのは、ひめのように感じました。

ひとりでは何もできなかった子が、みん



なと出会って成長していきましたからね。当初は引っ込み思案にもほどがあるというレベルでしたし。

――ひめが英語を得意教科にしている一方で、めぐみは勉強を苦手としているのが意外な設定でした。

ひめは基本的にはやればできる子ですからね。めぐみをあえて勉強が苦手にしたのは、主人公ができる子であるというセオリーを外したかったから。そうすることで、出会いによる成長を強く描けるようになるのではないかと考えたからです。

――ゆうこは登場時から、すでに成長しきっているようにも見えました。

プリキュアたちには親近感が大事かなと思っていたので、ゆうこが悩む話も考えてはいたのですが、どうもしっくりこなかったんです。であれば、もう悩まないし自分をしっかり持っている子にしようということになって、結果的に今までの『プリキュア』にはいなかったキャラクターになりました。

何よりハニーには歌という強い武器ができましたね。「しあわせごはん愛のうた」は、私の子どもも歌うようになっていて、結果



ごはんも食べてくれるので、子どもたちのためにはなったのかなと思っています。

――めぐみの成長に関してですが、彼女は『映画ハピネスチャージプリキュア！ 人形の国のバレリーナ』で、つむぎから「何もできないくせに、助けるなんて簡単に言わないで」と言われて落ち込んでいました。

「幸せハピネス」と言うだけでは傷つく人もいるし、大変な状況でそれを言われて疎ましく思う人もいるんですよね。ただ、TVでこの内容をやるにはあまりにテーマが重く、またそれなりに時間をかけないといけないと思ったので、映画でやらせていただきました。明確に、TVシリーズのどこに入る話と決めているわけではありませんが、あのエピソードがあったことによって、めぐみもそれなりに成長したのではないかと思います。

――「世界のプリキュア」として、各国のプリキュアたちが登場したのも新しい試みでしたね。

『プリキュア』シリーズも10周年で、アニメを観ない人たちにも名前が広まってきましたから、作中でもプリキュアが知られている存在にしてもいいのではないか、とい



うところからスタートしました。どうしてもお話の都合で全世界のプリキュアを出すことはできませんでしたが、すべての国にプリキュアがいるというイメージです。日本にはハピネスチャージプリキュア以外にもプリキュアがいる設定でしたよ。世界のプリキュアの名前に関しては、各話の脚本家さんに決めてもらいました。

――ちなみに、ブルースカイ王国の大使館が日本にあるということは、地球に存在する国という設定なんですよね？

そうです。ヨーロッパの小国のイメージです。プリキュアの家族やブルースカイ王国の物語はもう少し踏み込んだところまで描きたかったのですが、時間の都合上描けなかったのが残念です。

――いおなの両親は氷川流空手を広めるべく世界を回っているそうですが、めぐみのお父さんの職業は？

明確にこれとは決めていないのですが、世界を回って困った人たちを助ける職業です。めぐみが誰かを助けたいと思うようになったのも、お母さんが病弱で何かと手助けをしていたのはもちろん、お父さんの姿にも影響を受けているんです。

再度TVシリーズに関われたことがうれしい

――本作は、「かわルンルン」などで、必ず衣装替えすることをシナリオに入れ込んでいて、大変なことも多かったかと思います。

多少制約があったほうが、とっかかりにはなりますが、ありすぎるとやはり大変ですよね。玩具会社からカードの一覧表をいただいて、各話を担当される脚本家さんにこれを使ってくださいという形でお願いしたのですが、カードを選ぶのもなかなか時間がかかりました。

――アクションシーンについては、長峯SDの案が多かったのでしょうか？

技の名前を考えたのはほとんど長峯SDですね。すごい量があったので、49話かかっても使い切れませんでした。チョイアークを出してバトルを派手に見せたいというのも長峯さんの案です。

――ちなみに、本編に入れ込めなかった裏設定などはありますか？

長峯SDによると、地球を作ったのはブルーなので、地球とブルーの年齢は同じだそうです。それから、惑星レッドは隕石が衝突して滅びてしまったという設定でしたね。あまり見えなかったかもしれませんが、惑星レッドに遺跡があるんですよ。

――1年間を振り返ってみての感想は？

面白かったです。ファントムのエピソードを掘り下げたかったとか、三幹部の退場シーンにも時間をかけたかったという想いはありますが、これまでいっしょにお仕事をさせていただいた長峯SDと、今までにない『プリキュア』を作っていくという気持ちで最後までいけたのがうれしかったですね。

これからも続くであろう『プリキュア』シリーズの中に、新たな足跡を残すことはできたのではないでしょうか。ぜひ、このまま続いていってほしいです。正直に言いますと、『Yes！プリキュア5』シリーズでシリーズ構成を担当したので、もうTVの『プリキュア』でシリーズ構成をすることはないだろうなと思っていたんです。そこへ声をかけていただけたことが、何よりもうれしかった。きっとこの先も、メインスタッフを変えつつ、『プリキュア』は進化していくと思います。いち視聴者としても楽しみです。

STAFF iNTERViEW 3

キャラクターデザイン 佐藤雅将

ラブリーたちのデザインを通してたくさんの経験をさせてもらえた

自分の思うままに描くことができた

——佐藤さんは、『ふたりはプリキュア』のOPの原画を担当されていましたね。

そうですね。まさか、シリーズが10年も続いて、僕がキャラクターデザインをやらせていただける作品が出てくるとは思いませんでした。

——オファーは、長峯達也SDから直接あったとうかがいました。

その前に映画『ONE PIECE FILM Z』でごいっしょしていて、その縁で声をかけていただきました。キャラクターデザインに関しては、長峯SDからこういうふうにしてほしいという要望はほとんどなく、僕のやりたいようにやっていいよとおっしゃっていただいて。もちろん、『プリキュア』という作品には玩具の都合で制約もあるのですが、それ以外の部分ではかなり自由にやらせてもらえました。

——実際に各キャラクターのデザインがあがってからも、直してほしいというオーダーはなかったのですか？

最初のデザインのまま進めて大丈夫と言っていただけました。唯一変更したのがナマケルダで。実は作中で登場するまでにスケジュールがかなり詰まった状態で作業をしていたので、気がついたら僕がデザインを完成させる前に絵コンテが出来上がり、アフレコが終わってしまっていたんです。ナマケルダのデザインは、最初はツッパリ風のキャラクターを考えていたのですが、絵コンテに男爵風の男性が描かれていたので、そちらに合うように描き直しました。

——デザインに入る前には、各キャラクターの資料はどのくらいあったのですか？

服装の資料はなく、おおざっぱに各キャラクターの性格が書いてある資料をもらったのかな。キュアラブリーは元気いっぱいな子です、みたいな感じで。その段階で名前が決まっていたキャラクターもいれば、あとあと変更になったキャラクターもいました。また、フォーチュンに関しては、最初はあまり笑わないキャラクターだと聞いていたので、ここぞという笑顔は最後に取っておいたほうがいいんだろうなと思いながら表情集を作成しました。実際のオンエアよりは暗い性格をイメージしていたのですが、表情を作っていくうちにだんだんそれがかわいそうになってきてしまって、暗い感じの表情を減らしたんです。その後に確認したオンエアでは、僕が思っていたよりはずっと明るい性格だったし、普通に笑うキャラクターになっていたのでホッとしました。

——各キャラクターのデザインについてのポイントも聞かせてください。まずラブリー／めぐみはいかがでしょうか？

前髪のボリュームですね。僕は前髪が多めのキャラクターが好きなのですが、どちらかというと明るいキャラクターはおでこを出したほうがいいなとも思っていて。どうしようかな……と考えた結果、ピンクだけは自分の好みを通させてもらおうと思いまして、明るいながらもおでこが出ていないキャラクターになりました。当初、デザインに入る前の段階で、プリキュアに変身したあとの髪形をショートカットにするのはやめてほしいという、玩具会社側からのオーダーがあったので、全員の共通点として髪はロングヘアーにして、束ねる形にしようと思いつきました。

——プリンセス／ひめがおでこを隠している髪形なのは、当初は引っ込み思案なキャラクターだったことを反映しているのでしょうか？

それもありますね。彼女がツインテールになったのは、玩具会社からもらった資料の中に、ツインテールを活かしたファッ

プリキュアノーマルフォーム



PROFiLE

【さとう・まさゆき】
5月16日生まれ。福島県出身。アニメーター。主なアニメのキャラクターデザイン担当作品は、『ONE PIECE FILM Z』『エア・ギア』『ギルガメッシュ』など。

ションがあったからです。僕は積極的にツインテールのキャラクターを描かないのですが、自分の中にないものを取り入れてもいいのではないかということで今回は採用してみました。
　プリンセスの髪形を決めてからひめを考えたのですが、あの髪形になったのは、おろしたときにかわいく見えるかなと思ったからです。変身前の髪形で、前のほうに垂らした髪をもみあげだと勘違いしている方が多かったのですが、僕としては、あれはもみあげではなく、長い髪の一部分が前に流れてきているというイメージです。



――ハニー／ゆうこに関しては、ちょっとおでこが出ていますね。
　ゆうこは明るい性格ですし、めぐみ、ひめと描いてきてちょっとデザインに関する制約がゆるくなったので、また僕の好みがデザインに現れた感じですね。変身前の髪形がショートカットなのはかまわないと言われたので、めぐみ、ひめの髪形と変化をつけるために短くしました。変身後の髪形はかなりウェーブがかかっているので、前出のふたりに比べて印象がガラッと変わりましたね。

――先ほど少しお話のあったフォーチュン／いおなについてはいかがですか？
　おでこを出すか出さないかに関しては、ほかの3人とのバランスを見て決めました。本来、いおなのような性格だったら僕はおでこを隠してしまうのですが、4人中3人が隠していると重苦しいかなと思いまして。でも、全部出すのはキャラクターに合わないかなと思って、少しだけ出す形にしたんです。
　紫色系統のキャラクターの立ち位置は、ピンクと正反対であり、かつ主役を張れるくらいの強さがあると思ったので、僕の中にある主人公っぽいシャープなデザインになるようにしたつもりです。



――変身後のコスチュームは、全員ベストを着ている点が目を引きます。
　スタッフとの打ち合わせの中でアイドルのAKB48が着ているような衣装にしたいよねという案が出てきて、ベストを着せたんだと思います。そのほかのコスチュームのデザインは、ノーマルフォームは全員腕が出ているだけでちょっとさびしいので、飾りをつけたりとか、背中の羽は長峯SDから空を飛ぶ話が出てくるから、と教えていただいてつけました。
　靴に関しても各キャラクターのバランスを重視しました。最初にラブリーのブーツがロングブーツに決まったので、プリンセスはショートブーツに、ハニーはふたりの中間くらい。フォーチュンは先ほどもお話しました通り、裏主人公といってもいい立ち位置ですから、ラブリーと同じく長いブーツをイメージしました。
　フォームチェンジをしたあとの衣装以外の、変装で着用した衣装は、玩具のカードを元に各話のスタッフにまかせて、僕はチェックするほうに回りました。

――妖精は玩具側の準備するラフを元にデザインするとうかがいました。
　今回は、そのデザインがあまりにも丸顔で身体とのバランスもよくないと感じたので、ちょっと凹みをつけるアレンジを入れさせていただきました。



ミラージュのモデルはきゃりーぱみゅぱみゅ

――ここからは敵のキャラクターについてうかがいます。幻影帝国のクイーンミラージュは、全体的に丸みを帯びたデザインでしたね。
　以前はキュアミラージュとして戦っていたと聞いてはいましたが、まずは悪役として登場するので、そちらのデザインを先に考えました。これも打ち合わせのときに、「イメージとしてはアーティストのきゃりーぱみゅぱみゅ」と言われたので、彼女がモデルですね。元々はプリキュアだったわけですが、プリキュアっぽさを残すとネタバレにもなってしまうので、それは避けるようにしました。

――ファントムは長峯SDから「犬のような感じ」と言われたとか。
　最初は言われたままに、顔が犬になっているキャラクターをイメージしていたのですが、やはりここはイケメンだろうと話し合いました。彼は自分が前に出て戦うタイプなので、大きくなびくものをつけておけばサマになるかなと考えて、マントを着せました。ですから、アンラブリーのスタイルもファントムを引き継いでいます。



――ファントムは着ているコートの襟の高さもポイントですね。
　実は、TVの画面でキャラクターの顔がアップになったときに、首元に何かがあるとかっこよく見えるから、襟を高くするようにしたんですよ（笑）。

――レッドが変身したあとの襟も、かっこいいからつけたのですか？
　そうですね。レッドとブルーに関しては、まずブルーをデザインしました。彼は、テンプレート通りの王子様キャラクター。線が細くて、昔の少女マンガに出てくるようなイケメンで、服装も王子様のイメージです。レッドは彼の双子のお兄さんですから、ブルーの雰囲気を残しつつ世の中に対してすれている感じを出すにはどうしたらいいかなと考えて。ダークだけど現代的な雰囲気をイメージして、Vネックのセーターを着せたんです。

――イケメンといえば、めぐみの幼なじみである誠司は、本編中ではめぐみの理解者であり、とてもいい男でしたね。
　僕個人としては、「めぐみたちはおなかを痛めて生んだかわいい子なので、恋愛をしてほしくない」という思いもあったので、誠司はあまりイケメンにせず、中性的な雰囲気を持たせました。性格はとてもしっかりしていて大人びたところもあるのですが、男の人の持つ怖さを感じられないようなデザインにするよう心がけました。



――今回、「世界のプリキュア」が作中に多数登場していました。
　世界のプリキュアに関しては、コスチュームと髪形がハピネスチャージプリキュアの

放送500回記念のメッセージで使われたイラスト



4人と被らないように、ということが大前提でしたね。それから、4人より派手にならないようにして、ナイルだったらアラビア風、ハワイだったらハワイにありそうな羽のデザインを使うといったように、現地をイメージできるデザインにしました。一番悩んだのは、オーストラリアのキュアサザンクロスですね。オーストラリアといえばコアラとカンガルーが思い浮かぶのですが、さすがにプリキュアのコスチュームに取り入れるのは違うだろうと思いました。悩んだ結果、名前がサザンクロスだったので、南十字星をデザインに入れ込むことにしました。イギリスは『不思議の国のアリス』、インドは数学が発達しているので理系をイメージして、キャラクターにメガネをかけさせました。

──キュアテンダーがタイトスカートをはいていたのが印象に残っています。

元々はフォーチュンのためにあったデザインのうちのひとつでした。ただ、ベストのデザインと相まってOLみたいになってしまったので、フォーチュンには合わないかなと思い、ボツにしたものです。テンダーはフォーチュンより年上なので、そこで復活したデザインですね。

フォーエバーラブリーは特に〝スペシャル感〟を強く

──イノセントフォームは、玩具会社から希望のデザインはあったのでしょうか。

ありました。そのデザインは腕が全部出ていて、ミニスカートでしたね。それだけだと〝スペシャル感〟があまり感じられなかったので、腕を全部隠したり、スカートをふわっとさせたりしたのですが、もうちょっとスペシャル感が出せたのではないかと今は思ってしまいます。

デザインをしていたときには、決め技「イノセントプリフィケーション」でフォーチュンがマニキュアをつける仕草をすると知らなかったので、実際に作画作業に入ったところで「手袋をしたままだ！」と気づいてびっくりしました。長峯SDにも連絡したのですが、変身シーンだからいいだろうということで、そのままになりました。

──48話で登場したフォーエバーラブリーのデザインに関しては？

これは玩具会社からのデザインはなかったので、また自由にやらせていただけました。格闘シーンがあるので脚は出したかったのですが、ミニスカートにするとスペシャル感があまり出ないのでスカート丈には気を使いましたね。髪形は今までずっとポニーテールできたので、最後は違う髪形にしようと思って髪をおろしました。羽もなくなっているのですが、これはアイテムの力ではなく、自力で飛ぶという意味を込めているからです。

──玩具会社のデザインがあることで、デザインのしやすさは変わりますか？

そもそもデザインに自分っぽさを出そうとは思っていなかったんですよ。どうしたらかわいくなるかということが大前提ですし、何よりキャラクターの顔に関しては自由にやらせていただけたので、特に不自由はありませんでした。表情豊かにしたいとは思っていましたが、やりすぎるとギャグ要素が強くなりすぎてしまいますから、変身シーンや格闘シーンでは口元の描き方に特に注意しましたね。

──めぐみたちの家族のデザインも多くありましたが、プリキュアの4人をベースに考えられたのでしょうか？

めぐみはお母さん似で、ひめはお父さん似ですね。いおなの両親は海外で氷川流空手の普及活動を行っているようですが、キャラクターが増えると大変なので、描かなくてもいいなら、描かないでいようというくらいのテンションでした。

──設定を見ると、ひめのお父さんである国王は、お母さんである女王より年下だというメモがありました。

これは完全に僕の脳内設定なのですが、ブルースカイ王国は女王制で、ひめのお父さんは入り婿なのだろうと考えて、年下のイメージでしたね。ひめのお母さんはブルーとのつながりがあるつもりで描いていたのですが、実際にはまったくつながりがありませんでした（笑）。

──めぐみたちのクラスメイトの子も、個性豊かでにぎやかでした。

正直、クラスメイトたちがあそこまで物語に絡んでいくとは思っていなかったんです。だから、名前はあるけどデザイン的には被らないようにバランスを見ただけですね。ただ、出番がどんどん増えていったので、慌てて表情集を追加しました。

──改めて1年間を振り返ってみて、思い出をお聞かせください。

思い返せば反省点や後悔も多いのですが、『ハピネスチャージプリキュア！』ではたくさんの経験をさせていただきました。多くの『プリキュア』シリーズの中でも、僕にとって、とても大切な存在です。今後も『オールスターズ』などで登場してくれると思うので、そのときは特に『ハピネスチャージプリキュア！』のプリキュアを応援してくださるとうれしいです（笑）。

プリンセスの両親



STAFF INTERVIEW 4

CG製作担当 宮本浩史×小林真理×野島淳志

PROFILE

宮本浩史【みやもと・ひろし】
4月16日生まれ。兵庫県出身。本作では、1話から26話までのモデリング原案、CGディレクターを担当。主な担当作品は、『聖闘士星矢 LEGEND of SANCTUARY』（キャラクター、聖衣デザイン）など。

小林真理【こばやし・まり】
8月5日生まれ。神奈川県出身。本作では30話からのCGディレクターを担当。主な担当作品は、『映画ドラえもん のび太の人魚大海戦』（OP3DCG制作）、『映画ハピネスチャージプリキュア！人形の国のバレリーナ』（CGディレクター）など。

野島淳志【のじま・あつし】
8月24日生まれ。栃木県出身。本作では、ラインプロデューサーを担当。主な担当作品は、『機動戦士ガンダムAGE』（3DCG制作）、『映画プリキュアオールスターズ 春のカーニバル♪』（CGプロデューサー）など。

本編をCGで描くことは、ひとつの目標でした（宮本）

3DCGには2Dとは異なる大変さがある

――まず、みなさんがそれぞれ本作でどの作業を担当されたのかを教えてください。

宮本　僕はキャラクターのモデリング監修と、前期EDとフォームチェンジのCGバンクを担当しました。

小林　私はハニーとフォーチュンのフォームチェンジのCGバンクです。

野島　僕はCGバンクや後期EDのスケジュールなどの管理、長峯達也SDとの打ち合わせの調整がメインです。

――これまでのシリーズでは、EDの映像のみにCGが使われていました。今回からは本編のフォームチェンジや技を放つシーンなどでCGが使われるようになり、表現に広がりができたように感じました。本編でもCGを使われると聞いたときの感想を教えてください。

宮本　ちょうど『ドキドキ！プリキュア』の終わりのころに、CGプロデューサーの氷見（武士）から、次作に当たる本作では本編にもCGを入れていきたいという話がありました。CGチームとしては、本編でもCGが使われるようになるということで、すごくうれしかったです。

小林　私は『ハートキャッチプリキュア！』で初めて『プリキュア』に関わりました。その当時から、常々『プリキュア』における変身バンクというのは、全体の中でも特に重みがあると感じています。バンクシーンはほぼ毎回登場するものですから、特に腕のあるスタッフを集めて作られていると、いつも思っています。ですから、初めてお話をいただいたときは、プレッシャーしかありませんでした。

――CGというと、どうしても手描き（2D）よりも作業が楽そうに思えるのですが……いかがでしょうか？

宮本　まったく違う大変さがあると思います。CGは2Dのイラストを元にモデリングをする作業から始まるのですが、『プリキュア』はモデルを作成する段階で、まだ実際にアニメとして動いている絵が観られないんです。ですから、実際にどう動くのかをイメージしながら作らなければいけない。あまりにも2Dと印象が違ってはいけませんから、気を使うところです。

――実際に3Dモデルを動かしてみて、2Dのアニメーションと印象が変わることもありましたか？

宮本　僕が『プリキュア』のCGキャラクター周りの監修を担当するようになったのは『スマイルプリキュア！』からなのですが、2D映像とCG映像の印象が一番変わらなかったのは『ドキドキ！プリキュア』ですね。逆に『スマイルプリキュア！』は大きく変わりました。

――CGを製作する工程について教えていただけますか？

宮本　まずはモデリングといって、キャラクターデザインを元にして今後のデータ作成に使う「モデル」を作ります。この段階では、ただ突っ立っているだけのフィギュアと同じで、動かすことはできません。そこから「リギング」という、モデルに関節を付ける作業に入ります。また、EDであれば人間が実際に動くことで、CGを動かすのに必要なデータを採集する『モーションキャプチャー』の作業をします。その後、モデルに動きを反映させ、モデルをディスプレイに配置し、カメラ位置を調整する「プレビズ」作業があり、そこからモデルの表情を調整していく形になります。

野島　モデリングが完成した段階で、キャラクターデザインの佐藤雅将（サトマサ）さんによるチェックが入りました。OKをいただいてから、アニメーターたちが動きをつける作業に入ります。

宮本　サトマサさんにチェックしていただいたとき、3Dで作るとこう見えるんだねって感心していただけたことがうれしかったです。サトマサさんからのリテイクというのはほとんどなくて、目の輪郭（りんかく）の描き方や、動かすときに何を意識しているかというアドバイスをしてもらいました。

アニメ的なウソをつくことが難しい

――本作では、長峯SD自身が実際に体を動かして、フォームチェンジの動きを再現されたとうかがいました。

宮本　ちょうどED用のモーションキャプチャーの撮影が終わったあとに、長峯SDがスタジオにいらっしゃいました。そこで踊ってくださった姿を撮影して、参考にしましたね。いわゆる絵コンテ代わりです。アクターさんにも踊っていただいたのですが、長峯さんの踊りが一番キレキレだったので、その絵を採用しました（笑）。決め技に関しては、踊りながら決めたものもありました。たしかフォーチュンの決め技のひとつである「オリエンタルドリーム」はそうだったんじゃないかな。長峯SDは「頭を突き合わせて会議室で考えるよりも、動いたほうがいいものが出てくるし、直感的に出てきたもののほうが子どもたちは喜ぶんだ」とおっしゃっていましたね。

――フォームチェンジのシーンは、モーションキャプチャーではないのですか？

小林　フォームチェンジのシーンは、プリキュアたちが実際の人間では難しい、超人的な動きをすることがあるため、モーションキャプチャーは採用していません。変身やフォームチェンジの際に見られるアニメ的な表現や動きのキレのダイナミックさは、実際の人物の動きと比べるとウソをついて映像にしている部分も多いですね。

野島　カメラのレンズに近いものが大きく映るというのは当然なのですが、アニメではその誇張した表現を見慣れているため、3DCGソフト上で現実通りの大きさで作ると、キャラクターが小さく見えてしまう場合が多いんです。ですから、実際の比率としてはウソなんだけど、アニメでかっこよく見えるようにみんなが工夫していますね。もちろん、本作でもそれを意識して作成するようにしています。

アニメの作画に近い見た目のCGイラストを「セルルック」と呼ぶのですが、EDはセルルックというよりはもう少しリアルな見た目に近づけています。また、アニメは動画の枚数が限られているので、途中の動きを省略して作るのですが、CGは省略せずに作れてしまう。ただ、それにより動きがなめらかすぎて違和感も出るんです。フォームチェンジのシーンではその調整もしていますね。

小林　今はCGであたかも実写のような映

キャラクター性を重視した表情づけにこだわりました（小林）

像を作ることもできますが、『プリキュア』をはじめとしたアニメにおけるリアリティーとは現実のようにすることではなくて、見て違和感なく理解するという感覚的なものに近いのかなと思います。

宮本　キャラクターの動きをかっこよく見せるというのは、2DでもCGでも同じでアニメーターのセンスに左右されるところが大きい。CGはコンピューターで作るから、絵が描けなくてもできるんだろうと言われる方もいますし、実際に作ることはできますが、動かす段階では絵が描ける人のほうが段違いにかっこいい動きをつけてくれますね。それはやはり、絵を描ける人は画面の中で立体的に絵を捉える能力を持っているからだと思います。

――アニメ的なウソというと、たとえば本来であれば斜めの角度からは見えないほうの目が見える、なども入りますか？

宮本　目の見え方なども入ります。それ以外ですと、前髪の流れ方などです。ハニーですと前髪が右に流れているのですが、左を向いても右に流れるようにして明らかなウソの描写をすることで、2Dによるキャラクターの見せ方に合わせています。

小林　アニメの斜め顔って目が縮んでいる、鼻が立体造形的に真ん中じゃないなど、ウソが多いんです。でも、CGにそれを落とし込んでいかないとキャラクターがかわいくならないので、みんなが必死に頑張って調整しています。

――CGが必ずしも万能というわけではないのですね。ちなみに、CGにしやすいデザインというのはあるのでしょうか？

宮本　あります。『プリキュア』は比較的CGに向いていますね。なぜかというと、プリキュアたちの変身したあとの衣装は、肌に密着しているか、肌から離れているかのどちらかであることが多いからです。中途半端にぶかぶかした服というのは、CGにしたときに、とたんに棒のようになってしまうんですよ。シワや空気が入っている表現が難しいんです。たとえば、ラブリーのスカートは短く、足の動きに左右されることはないので、別のオブジェとして扱うことができるんです。本作で言えば、ラブリーのチェリーフラメンコの衣装は、裾が長くて足の動きによって動き方が変わってしまうので難しい部分ではありました。

小林　モデリングがかわいくできていても、動かしてなおかわいく見せるのは大変なんです。よく「2Dだとキャラクターの描画が崩れることがあるけど、CGはモデルがあるから崩れないでしょ」と言われるのですがそんなことはありませんし、崩れはしませんがアニメ的表現からかけ離れることは多々あります。先ほどアニメ的なウソというお話をしましたが、CGはウソをつけないので、ウソをつく部分に関しては手作業で直していかないといけないんです。作業的に楽だということはありませんし、場合によっては2Dで描いたほうが早いんじゃないかということもありますよ。

――モーションキャプチャーを採用している、EDの映像を製作するにあたって苦労されるところは？

宮本　モーションキャプチャーで作られたCGが生々しすぎてアニメのキャラクターに合わないことがあるので、それを毎年ある程度、手作業で補正をしています。ただ、微調整で済む場合と、最初から手でモデルに動きをつけたほうがいいんじゃないかと思うレベルまで直すこともあります。前期のEDはかなり手を入れましたが、後期のEDはモーションキャプチャーを活かしていますね。

多くの工夫を凝らしたフォームチェンジやED

――本作ではどういったことを特に意識されてCGを作られたのでしょうか？

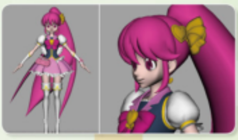
小林　技術的なところよりも、キャラクター性を重視しました。これは2Dでも同じなのですが、アニメーターの性格によって表現が変わるところがあるので、作り込みすぎると2Dと印象が変わってしまうんです。ですから、そうならないようには気をつけましたね。

宮本　僕も表情づけは最後まで引っ張りましたね。アニメーターは放っておくと自分

CGのプリキュアができるまで

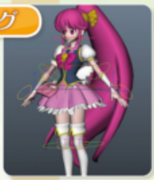
ハピネスチャージプリキュアたちのCGがどのように作られていくのか、順を追って解説しよう。

1 モデリング



アニメのキャラクターデザインを元にして、CGを作っていくためのモデルを作成する作業。関節のないフィギュアのようなものなので、動かすことはできない。

2 リギング



❶で作ったモデルに関節を組み込んで、動かせるようにする工程。「コントローラ」を仕込むことで、モデルを動かせるようになる。

3 モーションキャプチャー



センサーのついたボディスーツをダンサーが着て、その踊りを収録。『ハピネスチャージプリキュア!』では、EDでこの手法を取り入れている。

4 プレビズ



❷や❸で収録したデータを使い、モデルに反映して簡単なCG映像を作る作業。全体的な動きやポーズはこのときに考えられる。

5 アニメーション



❷でつけた「コントローラ」を使い、CGアニメーターがモデルに動きをつけていく作業を指す。動きの過程で生じた不具合は、ひとつひとつの動きを調整して修正する。

6 レンダリング



モデルに質感を加えていく。本作は「セルルック」（アニメらしい輪郭や色合い）になるように仕上げていく。

7 撮影



CGで作成された背景とモデルを合成し、細かなエフェクト（特殊効果）やライティング（照明効果）を加えて、CG映像は完成となる。

いずれはフルCGでTVシリーズを作りたい（野島）

の得意な表情をつけてしまう場合が多いので、そうならないように。それから、ディレクターとしてアニメーターがつけてきた表情を、このキャラクターはこういう顔はしないから、と直してもらうことも多かったです。でも、その表情がすごくうまかったりするので、直してもらうたびに心が痛みました。

小林　ハニーはそれほどでもなかったのですが、フォーチュンはキャラクター性をつかむのが難しかったですね。私からするとプリキュアは子どもですが、プリキュアを実際に観る子たちからすると憧れる年齢なんです。ですから、若干大人っぽく、かわいいだけじゃないところを作りました。フォームチェンジは何度も流れるので飽きない工夫もしましたね。何度観ても発見があるように、キャラクター以外のディテールもこだわったんです。たとえば、チョイアークの動きであったり、チョイアークが持っているマラカスがチョイアークの顔になっていたりとか。キラキラと降ってくるもののデザインを、普通に流すなら透過光の点でいいのですが、フォーチュンのパインアラビアンは金平糖のような形にして、女の子の心をつかめるような工夫をしました。

——ED映像やフォームチェンジのバンクについては、一度作ったあとで修正が入ることはあるのですか？

野島　フォームチェンジに関しては、1回作ったらそのままで、敵が変わったり変化したりしたときにだけ、何回か差し替えたことがありました。不具合が出た場合は、改良を加えることはありますが、本作では不具合などはほとんどありませんでした。

宮本　今回はEDのディレクターもしていて、EDの製作に時間をギリギリまで使ってしまったがために、フォームチェンジにあまり時間を割けませんでした。本当なら、ラブリーとプリンセスのフォームチェンジは、エフェクトや花火などを使ってもっとゴージャスにしたかったですね。ただ、それよりも、子どもたちはキャラクターの顔を中心に画面を観ますので、その部分は特に念入りに作りました。

　背景についても、EDとフォームチェンジの製作の時期が重なっていることが最初から想定されていましたので、サビに入るまでの60秒は子どもたちが観やすいように、すべてイメージ背景にしています。サビは見せ場になりますので、後半の30秒は背景もCGでと思い、夕日で照らされた丘を作りました。チョイアークをバックダンサーとして登場させる案もありましたが、悪役と主人公がいっしょに仲よく踊るのはさすがによくないなと思い、その案は採用しませんでした。背景が広いぶん、当時は、あとからキャラクターが追加されるのかもと言われることもありました。そのウワサも含めて、広い背景に映えるふたりのダンスがより際立ったと思います（笑）。

——長峯SDは、本編におけるハニーの決め技のシーンでチョイアークを踊らせたりしていましたよね。

宮本　長峯SDがチョイアークを動かしたがっていたことは、僕が担当を変わってからうかがったんです。先に言っておいてほしかったですね（笑）。

野島　たしか、物語が進んでからチョイアークを動かしたいとおっしゃったんですよ。今回のフォームチェンジのバンクは、先にお話した通り新しい試みで、CGというのは何がどこまで作れるのかということがわかりにくかったので、こちらからも長峯SDに提案しながらやっていきました。

小林　チョイアークは、最初は吹っ飛ぶだけだったのが、だんだんハードルが上がって踊らせたいとおっしゃったんですよね。

——それ以外に、長峯SDからオーダーはありましたか？

小林　細かいところではありませんでしたね。話していくうちにやりたいことはなんとなくわかったので、お互いにアイディアを出し合いました。「チョイアークを踊らせたい」というのには驚きましたが、2Dだとダンスシーンはかなりの動画枚数を使わないといけないので、TVシリーズでは難しいんですね。でも、CGは枚数制限がないので、ここぞとばかりに踊らせまくりました。

『プリキュア』のCGはもっと進化していく

——新たな挑戦も多かった本作ですが、振り返ってみての感想を教えてください。

小林　自分のバンクを観ると、もっとこうすればよかったと反省することばかりですね。でも、アニメになると音がついて編集も入って、作品として完成するのがすごくうれしかったです。

宮本　本作では、完成度を上げるために徹底的にキャラクターの表情を大味に振ったんです。たとえば、EDでプリンセスが見せる歯などはその象徴ですね。一方で、これまでは全身を見せて動きがわかるような大きなモーションやアクションが主だったのですが、細かい表情も挑戦的に入れてみました。それが、EDでラブリーが見せた困った表情。とても好評だったので、今後は細かい表情に関しても、より力を入れていきたいですね。

——『プリキュア』シリーズは10年という時間を経て進化してきました。作中で使われるCGもさらに飛躍していきそうです。

宮本　現在放送中の『Go!プリンセスプリキュア』でもまだまだ模索している途中ですが、その次か、その次の次くらいの作品になれば、CGもさらに大きく変わると思います。

　2Dの場合は、まばたきを描くときに途中の動きを抜くのですが、CGだとフルコマで見せられるので、本来ならもっとなめらかに、まぶたが回転モーションしながら降りていくCGが作れるはずなのに、まだやっていないんですよね。でも僕は、『プリキュア』でそれができるようになるのは、時間の問題だと思っています。

——そうなると、やはり将来的にはフルCGで『プリキュア』を作ってみたいということでしょうか？

野島　もちろんそうですね。本作のフォームチェンジのCGは、フルCGに対しての挑戦という側面もあります。本作でEDとフォームチェンジの両方をできたことで、人材も育成できたと思っています。

宮本　東映アニメーションとしても、劇場版のCGアニメだけでなく、フルCGでのTVアニメはいつかやらなければいけないものだと思っています。でも、未経験の状態で臨んでは無理が出てきますし、まずはCGの割合を増やしていこうということで、本作ではフォームチェンジを作ることができました。ひとつの目標はまず達成できたと思います。

小林　あえて『プリキュア』シリーズはCGのスタッフを固定していないんです。ですから、EDも毎回得意分野が違う方がやっていて、見える印象も大きく違うと思います。私の得意分野は芝居やかわいい作品ですね。『プリキュア』に関わるスタッフは男性が多いのですが、かつて女の子だった身として、そこに一石を投じていけたらと。男性では思いつかないようなかわいらしい要素を出すのも、自分の役目だと思っています。

本編とCGとの境目をなくしたい

——『映画プリキュアオールスターズ 春のカーニバル♪』や、CD『プリキュアカラフルコレクション』のように、イラストをCGで描くことも増えていますね。

野島　CGによる版権イラストに関しては、宮本を中心に作成しています。

宮本　製作の過程は、2Dとあまり変わりません。発注元からこういうイラストが欲しいというオーダーを受け、モデルをおおざっぱに配置して、表情もおおざっぱにつけてCG版権イラストのラフを作成します。そこで発注元に確認をしてもらい、修正をしてOKが出た段階できちんとした表情づけをして完成になります。

　このとき使うモデルは、アニメ本編のモデルと同じなので、モデルを配置する段階からすでにカラーであることが、2Dとは異なるところですね。『映画プリキュアオールスターズ 春のカーニバル♪』のキービジュアル（P.96）におけるキャラクター配置は小林が担当しました。

——すでにモデルができているという点で、2Dよりも完成が早いのですか？

宮本　2Dにどのくらいの時間がかかるのかはわからないのですが、版権イラストに関しては自分以外の人の手を借りなくても作れてしまうので、早ければ1日で完成します。元々モデルの段階で簡単な特殊効果は入っているんですよ。あとは、コントラストを調整したり、ハイライトをたしたりして、静止画として映えるイラストを作るようにしています。ただ、CGは映像で映えるものと静止画で映えるものとが逆の場合が多いので、その点は意識して調整しています。それから、印刷の色みを想定してハイライトを入れるなど、かなり計算して製作していますね。

——改めてアニメを観返す際にはCG映像にも注目ですね。

小林　観返したときに細かいポイントに気づいてもらえたら何よりですが、第一印象としては、この部分がCGだと意識をしないでもらえるのが一番うれしい。あとから思い出したら、あそこがCGだったのかと思ってもらえるくらいが理想なんです。CGを使ったシーンになったとたんに醒めてしまっては本末転倒ですから、ぜひ1本のアニメとして途中で止めずに観ていただければと思います。

宮本　僕自身はサトマサさんの絵がとても好きで、ラブリーとプリンセスのイラストを初めて観たときにすごくかわいいと思っていました。まだまだ未熟な部分が多く、うまくCGで再現できていたか、本作を終えてみて反省することも多かったです。小林も言った通り、本編との境目なく観ていただければ一番うれしいですね。

　本作の放送開始前に、「お披露目カーニバル」というイベントがありまして、僕ものぞきに行ったのですが、そこでは初めて観るプリキュアたちのダンスに合わせて、子どもたちが踊ってくれていたんです。子どもたちにとってプリキュアは架空の存在ではなく、本当のヒロイン。だからこそ、CGの可能性を信じて、もっとうまく再現できるようにしたい。その気持ちを胸に、今後も頑張ります。

STAFF INTERVIEW5

プロデューサー

柴田宏明

PROFILE

【しばた・ひろあき】
8月4日生まれ。富山県出身。1997年東映アニメーション入社。『おジャ魔女どれみ』シリーズなどのアシスタントプロデューサー(AP)を経て、『怪～ayakashi～』よりプロデューサー。『ドキドキ！プリキュア』に続き、『プリキュア』シリーズでは、本作が2作目のプロデュース作品となる。

王道であることを守りつつ、多くのことに挑戦できた

物語の根幹は女の子たちを喜ばせること

――柴田プロデューサー（以下柴田P）は、昨年の『ドキドキ！プリキュア』に続き『プリキュア』シリーズのプロデュースは、これで2作目になりますね。

『ドキドキ！プリキュア』と本作では、テーマもキャラクターの性格も異なりますが、『プリキュア』という作品を作るにあたっては、視聴者の女の子たちを喜ばせたいということが大前提にあります。制作としては、前作のシナリオ作りが終わる前から本作の企画が始まったのですが、エピソード内で使われるネタの棲み分けをどうしようかと考えた部分も多かったです。

――『ハートキャッチプリキュア！』に続き、長峯達也さんが2度目のシリーズディレクター（以下SD）になりました。

これまで何度もいっしょに仕事をしてきましたが、共にTVシリーズを1年担当したのはこれが初めてです。長峯さんは『ハートキャッチプリキュア！』ですでに『プリキュア』を経験済みでしたから、心強かったですね。長峯さんは最初の打ち合わせの段階で、かなり詳細に自分が作りたいもののメモを作ってきてくださいました。もちろん、制作が始まってからはシリーズ構成の成田良美さんを含め、いろいろな人の意見が入っていくのですが、根幹の部分は最初にいただいた案から変わっていません。

――シリーズ構成の成田さん、キャラクターデザインの佐藤雅将さんは、長峯SDが声をかけたとうかがいました。

ふたりとも長峯さんとは長く仕事をしているので、納得の人選でした。成田さんは、キャラクターの肉付けをしていった印象が特に強いですね。シナリオになる段階で、どんどんキャラクターが表情豊かになっていきました。佐藤さんのキャラクターは、画面に華を与えてくれました。長峯さんと佐藤さんは「プリキュアにアクションをさせたい」という想いが強かったようで、アクションをして映えることを前提としたキャラクターデザインにしたようです。佐藤さんはアクションシーンを描くのがとてもうまい方なので、40話以降の最終決戦に向けてどんどんアクションがかっこよく派手になっていって、見ていて感動していました。

――音楽は、『ドキドキ！プリキュア』に引き続き、高木洋さんが担当でした。

高木さんは以前、『冒険王ビィト』（2004年～2005年）という作品で長峯さんと一緒に仕事をしているのですが、長峯さんの演出を見て「かっこいい！」とおっしゃっていたのを思い出して、今回お願いしました。お願いしたときは、ここまで挿入歌が多くなるとは思っていなかったのですが、「しあわせごはん愛のうた」や「イノセントハーモニー」「勇気が生まれる場所」といった、感動的な曲をたくさん作っていただきました。

――本作は『プリキュア』シリーズの10周年記念作品でもあります。

原作のないオリジナル作品で、女児もののアニメが途切れることなく10年続いた例はないと思うので、すごいことだなと感じています。10年間続いたからこそ、幅広いファンに向けて、改めて感謝とサービスができたらいいなとは考えていました。

――それが冒頭での「10周年おめでとうメッセージ」にもつながっているのですか？

当初は静止画に口パクをつけてセリフを言う、くらいのイメージだったんです。ところが、長峯さんと現在『Go！プリンセスプリキュア』のSDをしている田中裕太くんが描いた絵コンテを見てみたら、制作現場に大きな負担をかけちゃうんじゃないかと、やや不安に思うくらいにキャラクターが動いていて（笑）。しかも、1話で登場した『ふたりはプリキュア』のキュアブラックの原画を、同作のキャラクターデザインの稲上晃さんが担当してくださって。そこからは、各作品のキャラクターデザイナーによる愛の注ぎ合いになりました。やはり、キャラクターデザイナーにとっては自分が描いたプリキュアは我が子も同然ですから、ほかのキャラクターに負けないくらいに輝かせたいという想いが押し出されていて、観ていて惚れ惚れとしました。

――長峯SDの担当された『ハートキャッチプリキュア！』の、キュアマリンが登場した回が特に印象に残りました。

キュアマリンの回の絵コンテを見ると、セリフが明らかにほかのキャラクターより多かったです。通常だいたいセリフは11～12秒くらいだったのですが、マリンはそれを上回る14～15秒。素晴らしい愛が詰まっていましたね。

「幸せ」「おしゃれ」「恋」というテーマ

――長峯SDのメモの段階で、テーマは「幸せ」と決まっていたのでしょうか？

決まっていました。「みんな幸せ、ハピネスチャージ」という言葉も、長峯さんの案です。長峯さんは「幸せというのは、本当に自らの心のありようによって変わっていくものだよね」と、最初の打ち合わせでおっしゃっていました。「自分にとってつらい状況でも、見方を変えると悪くないかもしれないし、どこかに幸せがあるかもしれない。結局は受け止め方次第」ということを描きたいんだと。ですから、企画立案から1年を通して、作品のテーマはしっかりと描くことができたと思っています。

――今回、プリキュアたちが日常のエピソードでも頻繁(ひんぱん)に着替えや変装をするのが非常に新鮮に映りました。

まず、どういったものが女の子に喜ばれるか玩具会社と考えるところから始まりました。女の子って、未就学児でもおしゃれにこだわりがある子が多いんです。そこで、今年は着替えをしていこうと。ただ、着替えるのが変身するときだけであれば、従来のプリキュアとは変わらない。ですから、日常エピソードの中で着替えるシーンを作りました。そのうち、バトル中でも着替えさせたいという話が出てきて、フォームチェンジが誕生しました。

――フォームチェンジのシーンは、『プリキュア』のTVシリーズでは初めて、本編中でCG映像を使われましたね。

フォームチェンジをCGにしたのは、フォームチェンジ後の衣装を考えていて、猛々(たけだけ)しいものよりはかわいいもの、でも日常的すぎないものということで、それならダンスの衣装を着て、踊りながら攻撃するのはどうだろうという意見がきっかけです。ダンスは作画だと動きが複雑であったり、音楽に合わせて動かすのが難しかったりと、制約が多いんです。それならCGにしてはどうかなと思っていたところに、長峯さんも「CGにしたらどうだろう」と言ってくださって。CGに関しては、弊社のCG担当である氷見（武士）からも本編中にCG映像を出したいという話を何度もされていたので、今がチャンスだと思い、今回初めて本編中でCGを使うことになりました。

――ラブリーやプリンセスのフォームチェンジ後の衣装は、EDにも登場しますね。

EDでプリキュアたちがダンスを踊るのは『プリキュア』の王道ですから、同じダンスならEDと本編でリンクできたら楽しいよねと、長峯さんからの提案がありました。EDの振付を担当しているMIKIKO先生に相談をしまして、まずEDのポーズを決めてもらい、そこから本編のフォームチェンジのバンクも作っていきました。『ドキドキ!プリキュア』の後期EDの5人から、ラブリーとプリンセスのふたりだけに人数が減ってしまうので画面がさびしくなるのではないかと危惧したところもありますが、ディレクターの宮本(浩史)くんがキャラクターのバックにいろいろなネタを仕込んだり、衣装もくるくると変わる見せ方をしたりしてくれたので、煌びやかさでも負けないものができました。

――「恋愛」がフィーチャーされていることも、新しい試みだったかと思います。

等身大の中学生なら恋の話はあるのが普通だと思っていたのですが、やるからには中途半端な描き方は嫌だなと思っていて。『映画 Yes!プリキュア5GoGo! お菓子の国のハッピーバースディ♪』(2008年)で主人公の夢原のぞみと妖精のココをいい雰囲気にした長峯さんと成田さんなら、思いきってやってくれるのではないかと考えたんです。当初は「ほんのり恋愛模様」くらいにみんな考えていたんですよ。実際、本編でも13話のファントムが登場する話でちょっとにおわせ始めて、それ以降もめぐみの中でブルーへの想いが大きくなっていく雰囲気は描いていますが、恋愛を前面に押し出した話はほとんどない。ただ、やはりほんのりとでもめぐみからブルーへの恋心を描いた以上、その決着はきちんと描かないといけないと思っていましたから、43話と44話を作ったんです。43話のミラージュとブルーのキスシーン、そして44話の誠司の前でめぐみが「失恋した」と言って泣く終盤のエピソードの印象が強くて、今回のテーマは「恋愛」だと強く心に残ったのではないでしょうか。

――「恋」はとても個人的な想いであり、そこを掘り下げて描いたことが、視聴者にも印象的だったのかもしれませんね。

プリキュアは強大な敵から世界を救うという目的になることが多いので、個人的な想いはなかなか出しづらくはなりますからね。本作に関して言うと、ブルー、誠司とのやりとりを通じて、世界を救うこととは別の、中学生であるめぐみの女の子としての想いは描きされたと思っています。44話の放送後に、『Go!プリンセスプリキュア』の春野はるか役の嶋村侑さんとスタジオで会ったときには、めぐみのことをすごくいい子だと褒めてもらえて、うれしかったですね。『ドキドキ!プリキュア』のマナのように、懐が広い主人公も素敵ですが、使命を背負っていても、中学生らしさが出るのも『プリキュア』のいいところかなと感じました。

キャラクターは みんなかわいい!

――キャラクターの性格などで、柴田Pから意見はされたのですか?

今回は長峯さんと成田さんに思う存分やってほしかったので、ほとんど意見は言っていません。最後に女の子が好きそうなキラキラの部分をたしてもらったくらいです。

――ラブリー/めぐみは、基本的にはポジティブでしたし、芯のある子でしたね。

ラブリー/めぐみは、シルエットがシンプルで安定感がありました。シルエットからも、めぐみがさまざまなことに巻き込まれつつも、折れずに頑張る強さが反映されている気がします。長いポニーテールは、髪をうねらせたくてああいうデザインにしてもらいました。1話でラブリーに初めて変身したあとの髪の動きを見て「これがやりたかった!」と心の中で叫びました。

――一方のプリンセス/ひめは、冒頭こそ人見知りでしたが、にぎやかで子どもっぽいところがかわいかったです。

佐藤さんは、前に垂れてきている髪がやぼったかったかもと言っていましたが、眉毛が太いところも含めて僕は好きです。変身したあと、ツインテールになるところもたまらない。プリンセスの変身バンクは板岡錦さんの担当ですが、いつも驚くような構図を考えてきてくださいました。キャストの潘めぐみさんは「やばやばいよー」とか「すごごごーい」とか、言葉を重ねることにすごくこだわりを持っていました。実は、最初に長峯さんがつけた番宣スポットで、「楽しいものがいっぱいばいーい」ってセリフがあったことがきっかけなんですよ。

――ゆうこは、そんなふたりを見守る、大人っぽい雰囲気がありましたね。

ゆうこは周りの人たちのいろんな気持ちを理解しつつ、出すぎることもないという立ち位置が素敵でしたね。彼女が一番動じないキャラクターだったんじゃないかな。変身前は一番子どもっぽい格好をしているのに、変身すると一番お姉さんっぽい見た目になるというギャップがあって、子どもたちから大人気でした。

――いおなは、冒頭でプリンセスとやり合っていたシーンのインパクトが強かったです。

いおなは、強がって生きているところがたまりませんね。影を持っているところもいい感じです。責任感が強すぎるのか、張り詰めた雰囲気にグッときてしまいました。本作はいろいろと泣きどころがあったと思うのですが、僕が泣くのはいつも、いおなとひめ絡みですね。22話でひめがいおなにプリカードをあげるシーンや、39話でテンダーを救い出したときに、自分のことのように喜んでいるひめの姿を見て「よかったな」と思っていました。最終話で、ひめはブルースカイ王国に帰るんじゃないかと不安になったいおなが「帰っちゃうの?」って聞いているところも、強がりないおなではなく、さびしがりやな素の部分が出ていて、かわいかったです。

――めぐみを黙って見守る誠司も、いい味を出していましたね。

長峯さんの最初のメモには、誠司の存在はなかったんですが、成田さんが幼なじみを出したいとおっしゃって。彼に関しては、成田さんと女性プロデューサー陣のこだわりがすごくて、17話では脚本の小山真くんが、誠司の言動にだけ、たくさんの注文を出されて苦労していました(笑)。

ダーク誠司にしてもいいのかどうか、議論はありました。それまでめぐみがさまざまな経験をしてきても、誠司はそれをグッと堪えながら見守っているだけだったので、このまま終わるわけにはいかないだろうという議論があって。結局ふたりは本気で語り合うところまでいっていませんでしたから、本気で向かい合って想いを昇華しないといけないだろうと話し合った結果、ダーク誠司が生まれたんです。最終話のラストシーンで言葉を交わすのがめぐみと誠司というのも、本作がめぐみと誠司の物語でもあることを象徴しているのではないでしょうか。

――ブルーやレッドは、ヘタレ気味で。

ブルーはどうしてもミラージュにちゃんと想いを言えなかった部分がクローズアップされてしまいますが、プリキュアたちを守るために身体を張れるし、いいお兄さんだったと思いますよ。レッドは、愛する者がいなくなるつらさから逃れたい面が強く出て、どうしてもワガママに見えるキャラクターにせざるを得ませんでしたね。

――敵の三幹部やミラージュは、プリキュアと戦ったことで、自分の本心を受け入れていった部分もあったように見えました。

三幹部は人間味のあるキャラクターで根っからの悪人ではありませんでしたから、プリキュアたちと言葉を交わすようになってどんどん変わっていきましたね。

ミラージュとブルーの間に実際に何があったのかは明確にはしていませんが、一方的にブルーに落ち度があったわけではなく、ミラージュの視野が狭くなっている部分があったのではないでしょうか。告白してフラれただけで、立ち直れないくらいの悲しみに陥ってしまうほどに、ブルーのことを好きになってしまったんでしょう。ミラージュがレッドにつけ込まれたのは、愛の裏返しですよね。愛も深くなりすぎると、自分自身についても不幸にしてしまう。違う角度から見ると違うものが見えてくるというのは、「幸せ」というテーマで長峯さんが語ってくださったことと共通していますね。

いつも以上に 新しいことに挑戦した

――本作は、これまでとは違った挑戦もたくさんされていましたね。

冒頭の1話でプリキュア同士が仲違いしているところから始まりますからね。知り合ってからケンカすることはあっても、知り合う瞬間はニュートラルなはずなのに、プリンセスとフォーチュンは、マイナスの位置から関係がスタートしている。でも、それがあとあと、ふたりが和解したときに大きな感動を生んでくれました。そういう意味では、プリンセスとフォーチュンのふたりに注目してみても面白いと思いますよ。

――ファントムがアンラブリーに変身するシーンにも驚きました。

あれは、長峯さんとのやりとりで出てきた話ですね。最初に長峯さんから、「ファントムがラブリーに変身するんだよ」と聞いたときは、「ファントムは男ですよね!?」と叫んでしまいましたが、結果的に面白いチャレンジになりましたね。

――各話のスタッフについては?

いおなと海藤くんのデート話である32話の演出を『ドクタースランプ』などのシリーズディレクターを手がけられた山内重保さんにお願いしたのですが、あの1話で若手の演出家のネジが、いい意味で外れたように感じました。やはりベテランの演出家が思いきってやってくれると、スタッフ全体にいい影響が出るなと感じました。恋のエピソードは、脚本を高橋ナツコさんが担当されていることが多いのですが、ナツコさんもこれまでの『プリキュア』にはなかったテイストのシナリオを考えてくださって。何より長峯さんが振り幅の大きい方なので、自然とスタッフも自由にやっていいんだと感じてくれたと思います。

――1年間を振り返っていかがですか?

『プリキュア』は、女の子たちが喜びそうな王道でありながら、常にチャレンジする姿勢を崩さずにやってきたシリーズです。その中でも本作は、チャレンジの姿勢が強く出たのではないでしょうか。作品というのは、応援してくれる人がいるからこそ、作る側もテンションが上がりますし、毎年のことではありますが、本作もファンの方たちに育てていただいたと感じています。最後まで観たあとに1話を観ると、ほのぼのした雰囲気に驚くかもしれません。そのギャップこそが本作の魅力だと思っていますので、また最初から観ていただけたらうれしいです。



Blu-ray&DVD&CD PACKAGE COLLECTION

かっこよくてキュートな『ハピネスチャージプリキュア！』の商品パッケージを一挙に紹介♪　カラフルで見応え十分☆

Blu-ray

全４巻。第３巻は 2015 年５月１日、第４巻は 2015 年７月１日発売予定。
発売元：マーベラス、販売元：TC エンタテインメント。



第２巻

2015年3月4日発売。Blu-ray2枚組。13～24話収録(各DISC6話収録)。【映像特典】設定資料ライブラリー



第１巻

2014年11月5日発売。Blu-ray2枚組。1～12話収録(各DISC6話収録)。【映像特典】EDダンスレッスンムービー、設定資料ライブラリー、ノンテロップOP&ED、変身&技シーン集、DVD&Blu-ray告知CM、第1話キャラクターコメンタリー

CD

発売元：マーベラス、販売元：ソニー・ミュージックマーケティング。

CD+DVD



CDのみ



『ハピネスチャージプリキュア！』後期エンディングテーマ

2014年10月8日発売。

CD+DVD



CDのみ



『ハピネスチャージプリキュア！』主題歌 CD

2014年3月5日発売。



『ハピネスチャージプリキュア！』オリジナル・サウンドトラック２ プリキュア・サウンド・ビッグバーン!!

2014年11月5日発売。



『ハピネスチャージプリキュア！』オリジナル・サウンドトラック１ プリキュア・サウンド・チャージ!!

2014年5月21日発売。



『ハピネスチャージプリキュア！』ボーカルベスト

2015年1月14日発売。



『ハピネスチャージプリキュア！』ボーカルアルバム２ ～シャイニング☆ハピネスパーティ～

2014年11月19日発売。



『ハピネスチャージプリキュア！』ボーカルアルバム１ ～Hello！ハピネスフレンズ！～

2014年7月23日発売。

DVD

全16巻。
第11、12巻は2015年4月1日、
第13、14巻は2015年5月1日、
第15、16巻は
2015年6月3日発売。
発売元:マーベラス、
販売元:TCエンタテインメント。
『映画ハピネスチャージプリキュア！ 人形の国のバレリーナ』は、
発売元:マーベラス、
販売元:ポニーキャニオン。



第４巻

2014年10月1日発売。10～12話収録。



第３巻

2014年9月3日発売。7～9話収録。



第２巻

2014年8月1日発売。4～6話収録。



第１巻

2014年7月2日発売。1～3話収録。【映像特典】DVD&Blu-ray告知CM、ノンテロップOP&ED、EDダンスレッスンムービー



第９巻

2015年3月4日発売。25～27話収録。



第８巻

2015年2月4日発売。22～24話収録。



第７巻

2015年1月7日発売。19～21話収録。



第６巻

2014年12月3日発売。16～18話収録。



第５巻

2014年11月5日発売。13～15話収録。

『映画ハピネスチャージプリキュア！ 人形の国のバレリーナ』

2015年3月18日発売。【Blu-ray＆DVD映像特典】時計型観覧車がプリキュアカラーにかわルンルン♪点灯式、初日舞台挨拶、大ヒット御礼舞台挨拶、予告TVスポット集、ノンテロップOP、ノンテロップED
※写真はBlu-ray特装版のパッケージです。



第10巻

2015年3月4日発売。28～30話収録。【映像特典】後期ノンテロップOP&ED、後期EDダンスレッスンムービー





『映画プリキュアオールスターズNewStage3 永遠のともだち』オリジナル・サウンドトラック

2014年3月12日発売。



プリキュアカラフルコレクション ハッピー♪レッド&ホワイト

2014年12月17日発売。



プリキュアカラフルコレクション キラキラ★シトラス

2014年12月17日発売。



プリキュアカラフルコレクション トゥインクル＋ブルー

2014年12月17日発売。



プリキュアカラフルコレクション ラブリー♥ピンク

2014年12月17日発売。

『映画ハピネスチャージプリキュア！ 人形の国のバレリーナ』オリジナル・サウンドトラック

2014年10月8日発売。





『映画ハピネスチャージプリキュア！ 人形の国のバレリーナ』挿入歌シングル

2014年10月8日発売。



『映画プリキュアオールスターズNewStage3 永遠のともだち』主題歌シングル

2014年3月12日発売。

ハピネスチャージプリキュアの映画での活躍をチェック！

MOVIE GUIDE

映画のスクリーンでも幸せをふりまいた『ハピネスチャージプリキュア！』。彼女たちが出演した３作品を紹介♪



プリキュアオールスターズNewStageシリーズ３部作完結編！





▲▶眠らされてしまったプリキュアたちを助けるために、変装して夢の世界へ潜り込んだ、めぐみとひめ。しかし、すぐに見つかって、牢屋に入れられてしまう

映画（えいが）プリキュアオールスターズ NewStage（ニュー ステージ）3 永遠（えいえん）のともだち

PLAYBACK!!

『映画プリキュアオールスターズNew Stage』シリーズの第3弾が、『ハピネスチャージプリキュア！』の銀幕デビュー作品となった。

妖精のグレルとエンエンは、妖精学校で使われる教科書に記すために、新しくプリキュアになっためぐみとひめについて調べようとする。そこで『ドキドキ！プリキュア』のマナたちの元を訪れて、めぐみとひめの妖精であるリボンと連絡を取ってもらったのだが、待ち合わせ場所にやってきたのはリボンだけ。なぜかめぐみは何をされても目を覚ますことがなく、眠り続けてしまっていたのだ。同じような状況に陥った子どもがほかにもいると知ったひめとマナたちは、めぐみたちを助けるために「夢の世界」へと入っていく。だが、そこに現れた妖精のユメタとその母親であるマアムによって、マナ、ひめ、そして目覚めためぐみは夢の世界から追い出されてしまう。困っためぐみたちは、眠る子どもたちを救うため、先輩プリキュアに相談し、彼女たちといっしょに再び「夢の世界」へと向かう。

プリキュアになりたてのラブリーとプリンセスが、先輩プリキュアたちの助言と協力を受けて敵に立ち向かっていく姿からは、勇気をもらえること間違いなし。現在、Blu-ray&DVDが発売中なので、初々しいラブリーたちの姿を、改めてチェックしてみよう。

http://www.toei-anim.co.jp/movie/2014_precure_allstars/

●2014年3月15日公開

■STAFF　原作／東堂いづみ　監督／小川孝治
脚本／成田良美　音楽／高梨康治
オリジナルキャラクターデザイン／稲上晃、香川久、馬越嘉彦、川村敏江、高橋晃、佐藤雅将
キャラクターデザイン・作画監督／青山充　美術監督／渡辺佳人
色彩設計／澤田豊二　製作担当／藤岡和実
アニメーション制作／東映アニメーション

■CAST　愛乃めぐみ（キュアラブリー）／中島愛
白雪ひめ（キュアプリンセス）／潘めぐみ
相田マナ（キュアハート）／生天目仁美
菱川六花（キュアダイヤモンド）／寿美菜子
四葉ありす（キュアロゼッタ）／渕上舞
剣崎真琴（キュアソード）／宮本佳那子
円亜久里（キュアエース）／釘宮理恵　ほか

ハピネスチャージプリキュアが子どもたちを救う！





▲ラブリーとプリンセスは奮闘するが、敵が強すぎて大苦戦！



▲マナ（右）に丁寧に挨拶をしたリボンは、めぐみが眠ったまま起きなくなってしまったことを伝える



▶めぐみが起きないのをいいことにいたずらをしていたひめも、だんだんと事件の重大さに気づく



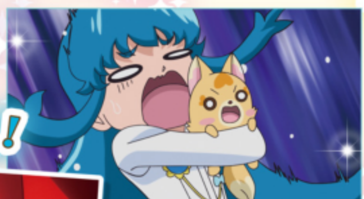
◀ブルーの力を借りて、めぐみの夢の中へと入ることに成功。そこには子どもたちが大勢いた



▲夢の世界で子どもたちと元気に遊んでいためぐみだったが……



◀ハピネスチャージプリキュアのピンチに、キュアハニーも登場して、協力してくれた



▲妖精・ユメタの母であるマアムが呼び出した悪夢獣（あくむじゅう）の姿を見て、ひめはビックリ！

みんなの夢を悪夢にしようだなんて、最悪すぎる！



キュアエコーも活躍!!



そういうのは……ラブじゃない!!

映画ハピネスチャージプリキュア！ 人形の国のバレリーナ

HAPPINESSCHARGE PRECURE!

●2014年10月11日公開
http://www.toei-anim.co.jp/movie/2014_precure/

■STAFF 監督／今千秋 脚本／成田良美 キャラクターデザイン／佐藤雅将、大田和寛 作画監督／大田和寛 美術監督／柴田聡 色彩設計／澤田豊二 製作担当／太田有紀 音楽／高木洋 アニメーション制作／東映アニメーション OP／仲谷明香「ハピネスチャージプリキュア！ WOW！」（映画size） ED／吉田仁美「パーティハズカム」（映画size） 挿入歌／キュアラブリー・キュアプリンセス・キュアハニー・キュアフォーチュン「勇気が生まれる場所」



▲めぐみたちは保育園で『白雪姫』の人形劇を披露。ところが人形の糸が引っかかって大混乱！

PLAYBACK!!

ドール王国の人形たちに幸せチャージ！ ハピネス注入!!





ジーク王子（声／小野大輔）

ドール王国の王子。女性に対して物腰が柔らかく、ひめも彼に対して夢中になる。



▶常につむぎのことを思い続けていたジーク王子は、その剣をキュアプリンセスに向ける



つむぎ（声／堀江由衣）

バレエを踊っているときが一番幸せだというバレリーナ人形。ある秘密を抱えている。



◀踊り続けるためならなんでもすると言ってのけた少女・つむぎ。踊っているときは、幸せそうに見えたが……



『ハピネスチャージプリキュア！』の単独映画作品で、キュアフォーチュンが銀幕デビューを飾ったのが本作。

あるとき、ぴかりが丘保育園で人形劇を披露していた、めぐみ、ひめ、ゆうこ、いおなの4人。すると突然、人形たちが話し出した。「王国を救って！」とめぐみたちにお願いするバレリーナ人形のつむぎに連れられて、人形たちの楽園であるドール王国を訪れためぐみたち。王国にはかわいいぬいぐるみたちがいっぱい！ だが、謎の男・ブラックファングに王国が襲われ、さらにつむぎも捕まって、ハピネスチャージプリキュアたちも大ピンチに陥ってしまう。

プリキュアとして頑張って、みんなを幸せにしたいと考えていためぐみだったが、つむぎからある秘密を教えられ、さらに「何もできないくせに」と言われて、ショックを受けてしまう。ただ「幸せにしたい」と言うだけでは、救えない人もいるということに気づいたキュアラブリー。そんなめぐみを必死に励ますキュアプリンセスの熱いセリフは必聴。あきらめずに幸せを訴え続ける4人の姿に胸を打たれる作品だ。





▲ドール王国の人形たちは、プリキュアを大歓迎！　ラブリーたちもご機嫌だった

◀舞踏会に参加しためぐみたちは、キュートなドレスに身を包み、ダンスを踊る



▶めぐみたちだけでなく、誠司もドール王国へやってきた。派手な歓迎に驚きながらも、王国を満喫する

プリキュアたちの敵



ブラックファング（声／森川智之）

不幸を紡ぐ「黒い糸」を使う男。世界を不幸で満たそうとしているらしい。









▶サイアークやブラックファングと戦うプリキュアたち。しかし、ブラックファングはつむぎをそそのかして不幸の糸を紡がせ、プリキュアを倒そうとしていた

▼ドール王国にサイアークが現れた。ぬいぐるみたちは戦うこともできずに逃げ惑う





◀ブルーが出した「ミラクルドレスライト」を手に、世界各地の人々がピンチのプリキュアに声援を送る





▲みんなの声援によりラブリーはスーパーハピネスラブリーにフォームチェンジ！

2015年3月14日公開!!

映画(えいが)プリキュアオールスターズ 春(はる)のカーニバル♪

新しくなった『映画プリキュアオールスターズ』では、総勢40人のプリキュアたちが、楽しい歌とダンスシーンを披露してくれる！



40人のプリキュアが歌とダンスでハルモニアを救う！

『DX』から『NewStage』へと進化を遂げ、これまでに6作公開されてきた『映画プリキュアオールスターズ』シリーズ。昨年の『NewStage』のフィナーレを受けて、2015年春から『プリキュアオールスターズ』がリニューアルされた。第1作『ふたりはプリキュア』から最新作『Go!プリンセスプリキュア』まで、総勢40人のプリキュアが妖精の国・ハルモニアで披露するのは歌とダンス。これまでに放送されてきた作品の主題歌と、新曲2曲、そして今作のメインテーマ「イマココカラ」を合わせて、本編のうち約20分が歌とダンスで彩られていく。

物語は、ハルモニアからプリキュアたちに招待状が届くところから始まる。ハルモニアの守り神に歌とダンスを捧げる「春のカーニバル」へのお誘いだ。ハピネスチャージプリキュアのめぐみ、ひめ、ゆうこ、いおなも招待状を手にハルモニアへ！　カーニバルは順調に進んでいくのだが、突然プリキュアの妖精たちが行方不明になってしまう。プリキュアたちは司会のオドレンとウタエンが怪しいとにらむものの、なんと変身アイテムを彼らに盗まれてしまい、変身できなくなってしまう!

プリキュアたちはオドレンとウタエンから変身アイテムを取り戻すことができるのか。『ハピネスチャージプリキュア!』の4人から、『Go!プリンセスプリキュア』の3人へのバトンリレーの意味合いを持つ本作。1年の戦いを経て成長したハピネスチャージプリキュアたちの活躍を見逃すな!!

▼「ごきげんよう」と挨拶するはるかたちに、めぐみたちは戸惑いながらも元気に挨拶を返す





◀まだプリキュアになったばかりのプリンセスプリキュアにとって、キュアラブリーたちは頼れる先輩なのだ

http://www.precure-allstars.com/

●2015年3月14日公開

■STAFF　原作／東堂いづみ　監督／志水淳児　脚本／井上美緒　音楽／高梨康治　振付／真島茂樹　オリジナルキャラクターデザイン／稲上晃、香川久、馬越嘉彦、川村敏江、高橋晃、佐藤雅将、中谷友紀子　キャラクターデザイン・作画監督／青山充　美術監督／西田渚　CG監督／加藤康弘　色彩設計／澤田豊二　撮影監督／高橋賢司　製作担当／太田有紀　アニメーション制作／東映アニメーション　主題歌／モーニング娘。'15「イマココカラ」

■CAST　春野はるか（キュアフローラ）／嶋村侑　海藤みなみ（キュアマーメイド）／浅野真澄　天ノ川きらら（キュアトゥインクル）／山村響　愛乃めぐみ（キュアラブリー）／中島愛　白雪ひめ（キュアプリンセス）／潘めぐみ　大森ゆうこ（キュアハニー）／北川里奈　氷川いおな（キュアフォーチュン）／戸松遥　オドレン&ウタエン／中田敦彦・藤森慎吾（オリエンタルラジオ）ほか

MOVIE GUIDE



◀歴代のプリキュアたちは、それぞれ乗り物に乗ったり、生き物の背中を借りたりして空を飛び、思い思いの方法でハルモニアへと向かう

今度の敵は大盗賊!?



◀ふたりはハルモニアを国ごと盗もうとする大盗賊。プリキュアの力を手に入れようとする



▼ハルモニアから招待されるのは、とても名誉なことだとリボンが教えてくれた



▲プリキュアの想いの結晶である鍵を使って、プリンセスプリキュアたちはパワーアップ!



ハピネスチャージプリキュアの活躍は？

ラブリーはラブリービームを放って敵を一掃！ハルモニアの守り神であるドラゴンの怒りを静めるため、フローラたちが歌えるように背中を押す。

INTERVIEW

ギャルマト・ボグダン プロデューサー

PROFILE

12月30日生まれ。ルーマニア出身。主なプロデューサー担当作品は『映画ハートキャッチプリキュア！花の都でファッションショー…ですか!?』など。

ストーリーよりも『プリキュア』の楽しさを伝えたい

――本作は、本編中で20分間にも渡って歌とダンスが流れるという、これまでの『オールスターズ』とは違った構成になっていますね。

私はこれまで、日本のアニメはクオリティーが高いのに、なぜ音楽と映像を結びつけた作品を作ることがなかなかできないのだろうと考えていました。それに加えて、プリキュアも40人を数え、同じ画面で同時に動かすことが物理的に難しくなってきたんですね。そこで、プリキュアが順番に出てきて、それぞれの主題歌を披露するというのはどうだろうと思いつきました。新しい『プリキュアオールスターズ』として、かつて『プリキュア』を観ていた子たちでも、再び楽しめるものを作りたいという意図もあります。

――今回、新曲が3曲作られています。

40人のプリキュアが歌う「イマココカラ」と、劇中で流れる妖精たちだけが歌う「39フェアリーズ」、オドレンとウタエンが自分たちの正体を明かすときに歌う曲ですね。

――妖精たちだけで歌う曲があるというのも新しい試みですね。

『プリキュア』がターゲットにしている子どもは、まだ長い時間、劇場で映画を観ることに慣れていない子が大半なので、途中で飽きてしまう可能性がある。ですから、物語の途中で楽しめる音楽をひとつ入れたかったんです。かわいい妖精たちといっしょに歌って元気を出してもらい、最後まで観てほしいと思います。

――敵の歌というのも気になります。

オドレンとウタエンの歌は、完全にミュージカル調になって、セリフをそのまま歌で表現しています。『オールスターズ』シリーズでは、巨大な敵と戦わなければいけない話が続いたのですが、このままいくと敵の強大さがインフレしてしまいそうだったので、ブレーキをかけたかったんです。さらに、今回はカーニバルの司会を務めてもらう必要もある。音楽番組などでお笑い芸人が司会をしている姿を観て、ふたり組にしようと思いつき、であれば声もお笑い芸人にお願いしようということで、オリエンタルラジオのおふたりに担当していただくことになりました。

――今回の映画では、これまでEDで流れていたダンスを、本編のカーニバル中に披露するということで、EDもリニューアルされたのですよね？

メインテーマの「イマココカラ」をモーニング娘。'15に歌ってもらい、彼女たちのダンス映像が流れます。そのほかに、全国の5都市で収録した、子どもたちのダンス映像も流れますよ。

――今作はこれまで以上に子どもの目線を意識しているように感じます。

ED映像の収録で出会った子どもたちの中には、うまく踊れない子もいたのですが、プリキュアの「頑張れ！」というメッセージを見せると、なんとか頑張ろうとするんです。その姿を観て、やはりプリキュアは子どもたちにとって大切な存在だと再認識しました。本作で、ストーリーより歌とダンスに重きを置いたのも、子どもたちのための映画を作り、子どもたちに楽しんでほしいと考えたから。40人のプリキュアたちが声をそろえて歌い、踊る姿を観て、プリキュアを好きになってくれればうれしいです。



Gakken Mook

ハピネスチャージプリキュア！ オフィシャルコンプリートブック

HAPPINESSCHARGE PRECURE!

2015年3月28日　第1刷発行

発行人	三木浩也
編集人	吉岡勇
企画編集	馬渕悠
発行所	株式会社　学研パブリッシング 〒141-8412 東京都品川区西五反田 2-11-8
発売元	株式会社　学研マーケティング 〒141-8415 東京都品川区西五反田 2-11-8
印刷所	凸版印刷株式会社
編集	水野二千翔
編集・執筆	野下奈生（アイプランニング） 宮村妙子（アイプランニング） 草刈勤
デザイン	根本綾子、木村百恵 佐々木麗奈、アトリエゼロ
カバー&表紙イラスト	原画／佐藤雅将
撮影	江藤はんな（SHERPA+）
ヘア&メイク	糟谷美紀、addmix B.G
製作協力	東映アニメーション株式会社 東映株式会社 株式会社マーベラス 株式会社バンダイ 株式会社バンプレスト

学研の書籍・雑誌についての新刊情報・詳細情報は、下記をご覧ください。
学研出版サイト　http://hon.gakken.jp/

♥ STAFF

プロデューサー／土肥繁葉樹（ABC）、高橋知子（ADK）、柴田宏明
シリーズディレクター（SD）／長峯達也　**シリーズ構成**／成田良美　**音楽**／高木洋
製作担当／山崎尊宗　**美術デザイン**／増田竜太郎　**色彩設計**／佐久間ヨシ子
色指定／佐久間ヨシ子、板坂泰江、穂積恵梨香、月舘順子、吉岡友希
キャラクターデザイン／佐藤雅将　**デジタル撮影**／三晃プロダクション
編集／麻生芳弘　**録音**／川崎公敬、林奈緒美　**音響効果**／石野貴久
選曲／水野さやか　**記録**／沢井尚子、橋口舞子　**録音スタジオ**／タバック
オンライン編集／東映デジタルラボ　**音楽協力**／東映アニメーション音楽出版
美術進行／西牧正人　**仕上げ進行**／村上昌裕
CG進行／高橋裕哉、野島淳志　**演技事務**／小浜匠、大山恵子
宣伝／多田香奈子（ABC）、遠山雄大（ABC）

♥ CAST

愛乃めぐみ / キュアラブリー／中島愛　**白雪ひめ / キュアプリンセス**／潘めぐみ
大森ゆうこ / キュアハニー／北川里奈　**氷川いおな / キュアフォーチュン**／戸松遥
リボン／松井菜桜子　**ぐらさん**／小堀幸　**ブルー**／山本匠馬　**相楽誠司**／金本涼輔
クイーンミラージュ / キュアミラージュ／國府田マリ子　**レッド**／井上和彦
ナマケルダ／金尾哲夫　**ホッシーワ**／岡村明美　**オレスキー**／子安武人
ファントム / ファンファン／野島裕史　**サイアーク**／増元拓也　ほか

ハピネスチャージプリキュア!
HAPPINESSCHARGE PRECURE!



Gakken Mook
ハピネスチャージプリキュア！
オフィシャルコンプリートブック　電子版

2023年5月　　version1.0発行

発行人　　村田剛
編集人　　村田剛
企画編集　　馬渕悠

発行　　株式会社 Gakken
〒141-8416　東京都品川区西五反田2-11-8

【お問い合わせ】https://ebook.gakken.jp/contact/（電子出版専用）

学研グループの書籍·雑誌についての新刊情報·詳細情報は、下記をご覧ください。
学研出版サイト https://hon.gakken.jp/

※本商品に記載している情報は、紙版の発売当時のものです。
※キャストページなど、一部のページで紙版と異なる写真を使用しています。